

審査意見への対応を記載した書類（7月）

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次）

リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1. 【全体計画審査意見1の回答について】＜ポリシーとの対応関係が不明確＞

カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係が依然として不明確である。また、社会人入試について、アドミッション・ポリシーとの対応関係が不明確なため、以下の点について、明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1、作業療法学科 是正事項1】・・・・・・・・・・1

(1) カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係が不明確であることから、対応関係を明らかにした上で、カリキュラム・ポリシーの実現性についても明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1（1）、作業療法学科 是正事項1（1）】・・・・・・・・・・1

(2) 社会人入試を実施するとあるが、どのような社会人を受け入れるか不明確なため、アドミッション・ポリシーとの対応関係も踏まえて明確に説明すること。また、受け入れた社会人の既修得単位の認定に係る考え方についても明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1（2）、作業療法学科 是正事項1（2）】・・・・・・・・・・7

2. 【全体計画審査意見3の回答について】＜大学、短期大学及び専門学校との違いが不明確＞

専門職大学の特色や創造性、実習における支援体制などの観点から、大学、短期大学及び専門学校との違いについて、単に制度や目的の違いにとどまらず、カリキュラムとの整合性も含めて、改めて明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項3、作業療法学科 是正事項3】・・・・・・・・・・12

3. 【全体計画審査意見6の回答について】＜入学意向調査の適正性が不明確＞

高校2年生や施設等職員を対象に入学意向調査を実施し、その結果をもって学生確保の見通しを説明しているが、入学者選抜方法に照らして、入学を想定している者を対象として適切に調査・分析がなされているか不明確であることから、明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項4、作業療法学科 是正事項4】・・・・・・・・・・17

【教育課程等】

4. 【全体計画審査意見7の回答について】＜シラバス上の到達目標が不明確＞

「英語Ⅱ」のシラバスにおける到達目標について、授業の終了段階で身に付けていることが期待される行動・能力をより具体的に明示することが望まれる。【2学科共通 理学療法学科 改善事項5、作業療法学科 改善事項5】・・・・・・・・・・27

5. 【全体計画審査意見9の回答について】＜総合科目の実施方法等が不明確＞

総合科目の以下の点を是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項6、作業療法学科 是正事項6】・・28

(1) 本学では、「教員から学生への口頭による学習内容の伝達を踏まえた上で、課題などによって学修を深める科目」を「演習」、「理学療法、作業療法の評価や治療の考え方について事例の検討や発表を通して学ぶ科目」を含む「授業で学習した手技・手法について体験を通して学ぶ科目」を「実習」と定義しているが、「理学療法総合演習／作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」のシラバスの記載は、その違いが不明確であることから、授業形態の定義を踏まえた適切な記載に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項6 (1)、作業療法学科 是正事項6 (1)】・・28

(2) 「理学療法総合演習／作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」について、複数の教員が担当するが、教員と学生の割り振りをどのようにするかなど、具体的な実施方法が不明確であることから、明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項6 (2)、作業療法学科 是正事項6 (2)】・・31

(3) 「協働連携論総合実習」の実施方法について、「理学療法学科80名、作業療法学科40名の合計120名を各学科4グループに分け、理学療法学科20名、作業療法学科10名の合計30名を1教室の構成人数」としている。さらに、「理学療法学科3名、作業療法学科2名の5名を1グループとし、1教室を6グループ構成とする」との記載があるが、全30回の授業のうち、グループによる実習は数回であると見受けられ、そのグループ単位が30名のグループなのか、5名のグループなのか不明確である。また、グループによる実習以外の授業を、両学科合計120名が同時に履修するのか、それとも30名又は5名のグループ単位で履修するのかも不明確である。「協働連携論総合実習」の実施方法について、各グループの位置付けも踏まえ、明確に説明すること。さらに、当該科目の履修年次の妥当性についても、明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項6 (3)、作業療法学科 是正事項6 (3)】・・33

6. 【全体計画審査意見10の回答について】<適切な学修時間を勘案した単位設定となっているか不明確>

1 単位科目の単位設定の考え方について、「2単位30時間の内容を1単位30時間とし、本学では授業内でより丁寧な指導を行うために、科目数を増やすことで学生の理解を深めることとした」との説明があったが、学生の総学修時間が長時間化し、各科目で求められている予習・復習時間を十分に確保できないことが懸念されることから、専門職大学設置基準第14条第2項に定める「授業時間外に必要な学修等」に考慮した単位設定となっているか、時間割も含め、明確に説明すること。

【2学科共通 理学療法学科 是正事項7、作業療法学科 是正事項7】・・36

7. 【全体計画審査意見17の回答について】<国家試験受験資格の位置付けに係る記載が不適切>

本学が、国家資格の取得のみならず、本学科における教育全般に対して責任を負うことに照らせば、「そのため、学生が国家資格を取得できるよう本学として責任を持って取り組む。」との記載は不

適切であることから削除すること。【2学科共通 理学療法学科 改善事項8、作業療法学科 改善事項8】・・ 43

【教員組織等】

8. 【全体計画審査意見 19 の回答について】 <専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>
専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分との指摘に対応し、理論系の専任教員が補充されたが、依然として専攻分野に係る理論系の専任教員が適切に補充されたとは認められないため、是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項9、作業療法学科 是正事項9】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
9. 【全体計画審査意見 21 の回答について】 <専任教員数が設置基準を満たしていない>
専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項10、作業療法学科 是正事項10】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
10. 【全体計画審査意見 24 の回答について】 <十分な研究室のスペースが確保されているか不明確>
「助教・助手室（研究室 25）」について、面積 52.00 m²のスペースに対して 8 人の教員が使用する計画となっており、教員一人当たりの面積は 6.50 m²と窮屈と考えられることから、教員が研究や学生指導を行うために必要なスペースが確保されているか疑義がある。教育研究上支障のないスペースが確保されているか、明確に説明するとともに、必要に応じて改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項11、作業療法学科 是正事項11】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
11. 【全体計画審査意見 26 の回答について】 <図書等の更なる充実>
図書等の整備について、より充実した環境整備が推進されるよう、養成する人材像に照らして、教育・研究に要する図書等の更なる拡充が望まれる。【2学科共通 理学療法学科 改善事項12、作業療法学科 改善事項12】・・ 51

リハビリテーション学部 理学療法学科

【大学等の設置の趣旨・必要性】

12. 【全体計画審査意見 2・8・11 の回答について】 <3つの履修モデルが不明確>
3つの「履修モデル」について、以下の観点で不明確なため、具体的に説明するとともに、必要に応じて修正すること。【理学療法学科 是正事項2】
- (1) 理学療法学科における履修モデルについて、履修モデルごとに受講すべき職業専門科目の選択科目があらかじめ決定されているが、その関連付けが妥当なものか疑義があるほか、当該履修モデルの一つである「地域支援」については、他の2モデルと重複する内容を含んでいるように見受けられ、その設定が妥当なものか判断し難（がた）い。理学療法学科における履修モデルと職業専門科目の選択科目との関連付けの妥当性について、明確に説明するとともに、必要に応じて修正すること。【理学療法学科 是正事項2（1）】
- (2) 今回、3つの「コース・領域」を「履修モデル」として定義し直しているが、「学生の希望と2年次後期時点の累積 GPA を参考に、偏りが生じないように振り分ける」とされており、名称と運用とに不整合が生じている。また、「履修モデル」は履修選択の参考として例示するものであることから、運用方法を踏まえた適切な名称に修正すること。【理学療法学科 是正

リハビリテーション学部 作業療法学科

【大学等の設置の趣旨・必要性】

13. **【全体計画審査意見2・9・12の回答について】** <3つの履修モデルが不明確>

今回、3つの「コース・領域」を「履修モデル」として定義し直しているが、「学生の希望と2年次後期時点の累積 GPA を参考に、偏りが生じないように振り分ける」とされており、名称と運用とに不整合が生じている。また、「履修モデル」は履修選択の参考として例示するものであることから、運用方法を踏まえた適切な名称に修正すること。**【作業療法学科 是正事項2】**・・・・・・・・・・56

【大学等の設置の趣旨・必要性】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 是正事項1 (1)、作業療法学科 是正事項1 (1)】

1. 【全体計画審査意見1の回答について】 <ポリシーとの対応関係が不明確>

カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係が依然として不明確である。また、社会人入試について、アドミッション・ポリシーとの対応関係が不明確なため、以下の点について、明確に説明すること。

- (1) カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係が不明確であることから、対応関係を明らかにした上で、カリキュラム・ポリシーの実現性についても明確に説明すること。

(対応)

補正申請書類において、カリキュラム・ポリシーと教育課程との対応関係をカリキュラムマップで図示したが、基礎科目や職業専門科目等のカテゴリーとカリキュラム・ポリシーとの対応関係の図示に留まっていたため、記載が不十分であった。そのため、各授業科目とカリキュラム・ポリシーの対応について、資料1-1、資料1-2のとおり明確とした。

資料1-1：カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（理学療法学科）

資料1-2：カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（作業療法学科）

続いて、理学療法学科、作業療法学科ともに、カリキュラム・ポリシー1～5を踏まえ、次のとおり授業科目を配置しているため、カリキュラム・ポリシーが実現可能な教育課程となっていることを説明する。

1) 理学療法学科

(1) カリキュラム・ポリシー1（以下、「CP1」と呼ぶ。）

理学療法学科のCP1は次のとおりである。

理学療法学科 CP1

倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。

倫理観に基づき生命を尊重する態度を涵養するために基盤となる授業科目として「倫理学入門」、「キャリア発達論」、「心理学」、「教育学」、「生物学」及び「統計学」などを配置する。さらに職業専門科目の「人間発達学」、「リハビリテーション概論」及び「社会福祉学」などの授業科目から、理学療法士に必要な資質を理解するとともに、責任をもって生涯にわたり理学療法士として働く上で必要となる態度を学修する。また、以上の資質・態度を会得するために、臨地実務実習である「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「理学療法評価実習」、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「理学療法地域実習」を学年進行に合わせ配置する。展開科目では、「地域共生論」、「ボランティア論」及び「災害支援論」を配置することで、理学療法技術を用いて、地域住民の社会生活を支援する能力の獲得につながるように構成する。

(2) カリキュラム・ポリシー2（以下、「CP2」と呼ぶ。）

理学療法学科の CP2 は次のとおりである。

理学療法学科 CP2

理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。

理学療法士に必要なコミュニケーション能力を養う上で基礎となる授業科目として「コミュニケーション論」を配置し、「英語Ⅰ・Ⅱ」、「韓国語」及び「中国語」の語学教育科目で、外国語でのコミュニケーションに必要となる能力を養う。さらに、理学療法士に必要な関係形成を学修する授業科目として「臨床技能論実習」や「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「理学療法評価実習」、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「理学療法地域実習」を配置する。机上の学修を実践することで、他者と関係を構築する能力を身につけることを目的とする。また、「地域共生論」及び「協働連携論総合実習」では、対象者や作業療法学科の学生と交わり授業を進めることで、多職種との関わり方を体験として学び、地域住民との関係性を構築する能力の獲得につながるよう構成する。

(3) カリキュラム・ポリシー3 (以下、「CP3」と呼ぶ。)

理学療法学科の CP3 は次のとおりである。

理学療法学科 CP3

理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。

理学療法に必要な専門知識と技術を養うために、職業専門科目の理学療法理論科目群である「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学実習」、「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」、「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「老年医学」、「リハビリテーション概論」及び「地域包括ケア論」によって、その知識の学修を行う。

併せて、職業専門科目の職業実践科目群である「基礎理学療法学Ⅰ・Ⅱ」、「基礎理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「基礎理学療法研究法」、「理学療法評価学」、「理学療法評価学実習」、「理学療法評価学演習」、「臨床技能論実習」、「運動療法学」、「運動療法学実習」、「日常生活活動学」、「神経系障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「運動器障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「内部障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「地域理学療法学」及び「地域理学療法学実習」などの授業科目により、科学的かつ論理的思考を身に付け、根拠に基づいた理学療法を実践できるように学修を進める。

そして、机上の学修を実践につなげるために、臨地実務実習である「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「理学療法評価実習」、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「理学療法地域実習」を行うとともに、理学療法のより専門的な実習として「神経筋骨格障害応用論実習」、「内部障害応用論実習」及び「スポーツ障害応用論実習」を行う。また、総合科目の「協働連携論総合実習」、「理学療法総合実習」及び「リハビリテーション総合演習」を学修することで、学んだ知識や技術を活かし、それを実践できるように構成する。

(4) カリキュラム・ポリシー4 (以下、「CP4」と呼ぶ。)

理学療法学科の CP4 は次のとおりである。

理学療法学科 CP4

理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。

地域住民の支援に必要な知識と能力の基盤となる授業科目として、「地域包括ケア論」、「地域共生論」、「地域理学療法学」、「地域理学療法学実習」及び「保健医療福祉関連制度論」を配置する。また、地域の支援の在り方の基礎を学ぶ授業科目として、「ボランティア論」、「労働衛生論」、「子育て支援論」、「災害支援論」、及び「教育支援論」を配置する。

次に、地域住民の支援につながる課題の発見から、理学療法を応用し、解決策を導く上で必要となる能力を涵養するために、展開科目の「生涯スポーツ論」、「メンタルヘルスマネジメント論」、「障がい者スポーツ論」、「障がい者スポーツ論実習」、「健康増進実践演習」、「健康増進実践実習」及び「身体障がい者就労環境論」などを配置する。支援を展開するための基盤となる事業や組織の構造を学修する授業科目として「マーケティング論」及び「施設起業運営論」を配置する。

これらの授業科目での学修を基盤に、総合科目で「協働連携論総合実習」、「理学療法総合実習」及び「リハビリテーション総合演習」を学修することで、学んだ知識や技術を活かし、広い視野を持ち、地域課題の発見と問題解決を実践するための能力の獲得につながるように構成する。

(5) カリキュラム・ポリシー5 (以下、「CP5」と呼ぶ。)

理学療法学科の CP5 は次のとおりである。

理学療法学科 CP5

理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。

理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、創造的に活用して、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持を目的に支援できるよう理学療法の知識や技術を養うための授業科目を配置する。

まず、地域共生社会の理解を深める授業科目として、「地域共生論」、「地域包括ケア論」、「ボランティア論」、「労働衛生論」、「子育て支援論」、「災害支援論」、及び「教育支援論」を配置する。

さらに、理学療法士としての知識・技術を学修した学生が、関連する他分野について学ぶことで、柔軟な思考を持ち、様々な問題を解決できる理学療法士を養成する。そのための授業科目として、展開科目で「障がい者スポーツ論」、「障がい者スポーツ論実習」、「体力測定論」、「健康増進実践実習」、「パフォーマンス向上論」、「フィットネス論」、「ランニングトレーニング論」、「生きがい創造」、「シューフィッシング論」、「福祉工学地域活用論」、「ロボット工学地域活用論基礎」及び「身体障がい者就労環境論」など様々な分野の授業科目を配置し選択できるようにしている。また、支援を展開するための基盤として、事業や組織の構造を学修する「マーケティング論」、「施設起業運営論」及び「組織運営論」などを配置する。

4年次後期には、臨地実務実習を終え、展開科目で関連する他分野についても学んだ学生が、発展的に学ぶための授業科目として「神経筋骨格障害応用論実習」、「スポーツ障害応用論実習」及び「内部障害応用論実習」を配置し、理学療法士としての応用力・実践力を高める。

これらの授業科目での学修を基盤に、総合科目の「協働連携論総合実習」、「理学療法総合実習」及び「リハビリテーション総合演習」により、多職種と協働して地域住民を支援するために、理学療法士としての専門性を活用し、応用するための能力の獲得につながるように構成する。

2) 作業療法学科

(1) CP1

作業療法学科の CP1 は次のとおりである。

作業療法学科 CP1

人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。

倫理観に基づき生命を尊重する態度を涵養するために基盤となる授業科目として「倫理学入門」、「キャリア発達論」、「心理学」、「教育学」、「社会学」、「生物学」及び「統計学」などを配置する。また、人の暮らす地域社会の理解を深めるために、展開科目の「地域社会共生論」、「ボランティア論」及び「災害支援論」などを配置する。これらを基盤として職業専門科目では「人間発達学」、「社会福祉学」及び「リハビリテーション概論」などの授業科目から作業療法士に必要な資質を理解するとともに、責任をもって生涯にわたり作業療法士として働く上で必要となる態度を学修する。また、以上の資質・態度を会得するために、臨地実務実習である「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法評価実習」、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」を学年進行に合わせ配置する。

(2) CP2

作業療法学科の CP2 は次のとおりである。

作業療法学科 CP2

多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。

作業療法士として必要なコミュニケーション能力を養う上で、基礎となる授業科目として「コミュニケーション論」を配置し、コミュニケーションに必要となる語学の能力を高めるため「英語Ⅰ・Ⅱ」、「韓国語」及び「中国語」などを配置する。さらに、対象者や多職種との信頼関係の構築にむけて、実際の体験を通して対人関係能力を養うため、臨地実務実習である「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法評価実習」、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」を配置する。また、学内に対象者を招いて学修する機会として「地域生活作業療法学実習Ⅱ・Ⅲ」等を配置する。展開科目では、関連領域の職種や地域住民との関わりを通して対人関係能力を高めるため「地域社会共生論実習」、「就労環境論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「児童期地域生活適応論実習」などの授業科目を配置する。また、総合科目では「協働連携論総合実習」において、対象者や理学療法学科の学生と交わり授業を進めることで、多職種との関わり方を体験として学び、地域住民との関係性を構築する能力の獲得につながるように構成する。

(3) CP3

作業療法学科の CP3 は次のとおりである。

作業療法学科 CP3

作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。

作業療法士として必要な専門知識と技術を養うために、職業専門科目の作業療法理論科目群では、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」、「精神医学」、「画像診断学」、「リハビリテーション概論」及び「地域包括ケア論」などの授業科目を配置する。

また、職業専門科目の職業実践科目群である「作業療法学総論」、「作業療法と倫理」、「基礎作業学」、「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業分析活用論」、「日常生活活動論実習」、「作業療法評価学総論」、「身体障害作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」、「精神障害作業療法評価学実習」、「発達障害作業療法評価学実習」、「身体障害作業療法基礎技術論」、「運動器疾患作業療法学実習」、「中枢神経疾患作業療法学実習」、「精神障害作業療法学」、「発達障害作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「老年期障害作業療法学」、「地域生活作業療法学総論」及び「域生活作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ」などにより、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付ける。

そして、各年次に学修した知識と技術を活かし、具体的な実践例から体験を通して学ぶ臨地実務実習である「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法評価実習」、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」を各年次に配置する。さらに、4年後期には、総合科目として「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」及び「協働連携論総合実習」を配置し、生活課題の解決に向けた作業療法の実践力を獲得することにつながるよう構成する。

(4) CP4

作業療法学科のCP4は次のとおりである。

作業療法学科 CP4

人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。

地域生活課題の解決に向けて、作業療法の特徴を活かして地域生活を構造的に捉え、生活課題を発見する能力を養うために、「地域社会共生論」及び「地域社会共生論実習」を配置する。

また、地域共生社会の基本的概念を理解し、それを基盤として地域の作業療法関連領域を理解するための授業科目を配置する。地域の支援構造を理解するための授業科目が「地域包括ケア論」、「子育て支援論」及び「教育支援論」であり、組織や行われている事業の構造を学修する授業科目が「マーケティング論」及び「施設起業運営論」などである。また、地域の作業療法関連領域においては、課題の発見に向けて、人が生涯にわたり取り組む作業である仕事と余暇について学ぶための授業科目として「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者就労環境論」及び「障がい者スポーツ論」を配置する。

さらに、児童期、成人期、老年期の年齢層に分けた3つの各ライフステージに関する現状理解と職種理解を深める授業科目として「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を配置する。また、実際の体験を通して学ぶ授業科目として「就労環境論実習」、「障がい者スポーツ論実習」、「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」を配置する。総合科目では「作業療法総合実習Ⅰ」、「作業療法総合実習Ⅱ」及び「協働連携論総合実習」を学修することで、学んだ知識や技術を活用し、地域課題の発見と問題解決を実践できる能力の獲得につながるよう授業科目を構成する。

(5) CP5

作業療法学科の CP5 は次のとおりである。

作業療法学科 CP5

地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。

作業療法に関連する他分野の専門的知識を習得し、地域での支援展開にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための授業科目を配置する。

初年次に「地域社会共生論」及び「地域社会共生論実習」から地域共生社会に関する基本概念を理解し、その上で、「ボランティア論」、「災害支援論」、「地域包括ケア論」、「子育て支援論」、「教育支援論」から地域の支援構造を理解する。また、「マーケティング論」、「施設起業運営論」から組織や行われている事業の構造を学修する。さらに、地域の関連分野の各領域の専門家から現状と課題を学ぶ授業科目として「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者就労環境論」及び「障がい者スポーツ論」を配置する。また、児童分野、成人分野、老年期分野の年齢層に分けた 3 つの領域について現状を理解し職種理解を深める授業科目として「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を配置した。さらに体験を通じてこれまでの学修で培った作業療法士としての専門性を活用しながら、現状と課題を構造的にとらえる機会として「就労環境論実習」、「障がい者スポーツ論実習」、「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」を配置する。

最後に、総合科目として、「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」、「協働連携論総合実習」を配置し、多職種と協働して地域住民の支援に作業療法士としての専門性を活用し応用できる能力の獲得につながるように構成する。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 是正事項1(2)、作業療法学科 是正事項1(2)】

1. 【全体計画審査意見1の回答について】 <ポリシーとの対応関係が不明確>

カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係が依然として不明確である。また、社会人入試について、アドミッション・ポリシーとの対応関係が不明確なため、以下の点について、明確に説明すること。

(2) 社会人入試を実施するとあるが、どのような社会人を受け入れるか不明確なため、アドミッション・ポリシーとの対応関係も踏まえて明確に説明すること。また、受け入れた社会人の既修得単位の認定に係る考え方についても明確に説明すること。

(対応)

社会人入試において、どのような社会人を受け入れるか記載が不十分であったため、本学が想定する社会人を明確に記載し、アドミッション・ポリシー(以下、「AP」と呼ぶ。)との対応関係について記載を行った。さらに、社会人推薦入試における選抜方法とAPとの対応関係について説明する。また、社会人の既修得単位認定の方針を定め、具体例を挙げてその説明を行う。

1) 社会人の受け入れについて

本学は、次の者を、本学に入学する可能性のある社会人として想定しており、以下でその説明を行う。

本学が入学を想定する社会人

- ① キャリアアップ及びスキルアップを目的としたリハビリテーションと関連の深い周辺領域の職種
介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、特別支援学校教員、アスレティックトレーナー、福祉施設職員、医療事務職員等
- ② 資格の多重取得を目的とした看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の医療従事者
- ③ キャリアチェンジを目的とした全く異なる職種からの転職者

① キャリアアップ及びスキルアップを目的としたリハビリテーションと関連の深い周辺領域の職種 介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、特別支援学校教員、アスレティックトレーナー、福祉施設職員、医療事務職員等

リハビリテーションと関連の深い周辺領域の職種の例として、介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、特別支援学校教員、アスレティックトレーナー、福祉施設職員、医療事務職員等がある。公的資格を有する介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、特別支援学校教員、認定資格のアスレティックトレーナー、資格を持たない福祉施設職員、医療事務職員等がある。これらの職種は、現在の仕事において理学療法士・作業療法士と協働する関係にあり、全く関わりのない他の職種と比べると、理学療法士・作業療法士の職業に対する理解が深く、本学が社会人入学者として最も多いと想定している職種である。

入学意向者調査において、本学への入学意向者数が、理学療法学科では39名(介護福祉士29名、介護支援専門員10名)となり、作業療法学科では33名(介護福祉士15名、特別支援学校教員13名、医療事務職員5名)と、両学科ともに最多であった。これらの職種からは、スキルアップとキャリアアップを目的とした学び直しのニーズがあると考えている。

AP との対応関連では、既に公的資格を持っている者は AP1 の知識を有していることが想定され、実務経験は職業の特性から AP3 と対応していると考えている。また、入学を希望している点で AP2、学び直しの意欲から AP4 と AP5 に対応していると考えている。

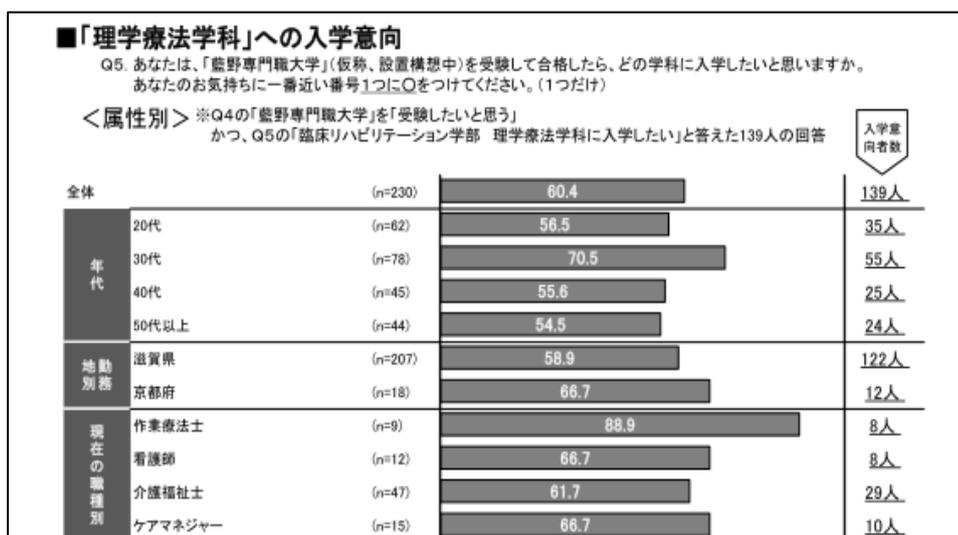
リハビリテーション学部の AP	
AP1	高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。
AP2	人を尊重し人に興味を持ち、リハビリテーションの専門職として社会に貢献することに意欲を持つ人。
AP3	良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力を有し、他者と協働して物事を進めることができる人。
AP4	客観的に状況を把握し、課題を発見するとともにその解決に向け、自主的に取り組み継続できる人。
AP5	多角的に物事を捉え、新しい展開への探求と論理的思考ができる人。

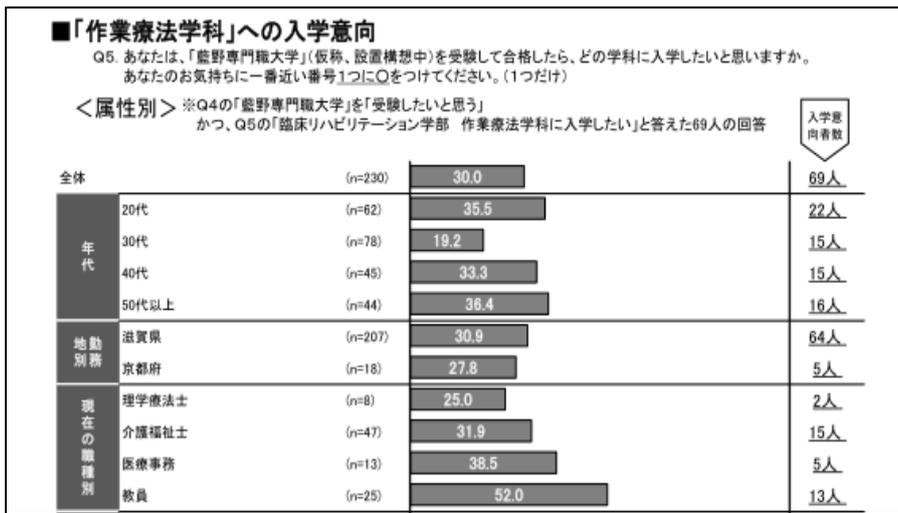
②資格の多重取得を目的とした看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の医療従事者

看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等は、すでに医療専門職としての国家資格をもっており、互いに協働して行う業務関係にある。入学意向者調査において、①の次に入学意向者数が多かった職種である。これらは、職務上、複数の資格を持つことで、多角的に物事を捉え、問題解決能力を高めることができる。また、既に医学的な知識をもち、実務経験があるため、本学が求める AP1、AP3 を満たしていることが予想され、理学療法、作業療法への学び直しから AP2、AP4、AP5 に対応すると考えている。

③キャリアチェンジを目的とした全く異なる職種からの転職者

全く異なる職種からの転職者は学び直しの動機は様々で、キャリアチェンジを目的としている職種である。職業が多すぎるため、入学意向者調査が難しく、ニーズがどの程度あるかは不明であるものの、本学として受け入れることを想定している。全く異なる分野からの転職者は、社会経験が新たな発想を生み、新しい分野を開拓できる可能性が期待されることから、AP との関連では AP2、AP3、AP5 に対応すると考えている。





※「藍野専門職大学」(仮称) 設置に関するニーズ調査結果報告書【施設等職員対象調査】平成 30 年 9 月 株式会社 進研アド」より抜粋

2) 推薦入試 (社会人推薦入試) について内容の再検討と AP との対応

入学者選抜の制度について、社会人推薦入試の対象と AP との対応関係が不明確であるのご指摘を受け、選抜方法に照らし合わせ、AP との対応関係を検討した。本学は、多様な人材確保のため、入学者選抜において、推薦入試の中に社会人推薦入試を用意しており、高等学校卒業見込の者又は既卒者以外に、学び直しの機会を求める社会人にも門戸を開いている。そこで、社会人推薦入試の出願資格には、「入学時において社会人経験としての実務経験を 1 年以上有する者」とし、その実務経験は、パートタイム、アルバイト等も実務経験に含むこととしている。また、入学者選抜においても、机上の学修から離れ、時間が経っていても、社会人としての経験を選考の判断材料の 1 つとして重視し、学び直したいという強い意志を持った者に機会が与えられるように社会人推薦入試を設けている。社会人推薦入試では、①自己推薦書、②個人面接、③小論文をもって選考する。他の入試区分にはない自己推薦書では、社会人としての経験・自らの強み・適正や志願理由を評価する入試区分を用意している。社会人推薦入試と AP の関係について、次にまとめる。

理学療法学科

選抜方法	知識・技能	主体性・多様性・協調性		思考力・判断力・表現力	
	AP1	AP2	AP3	AP4	AP5
高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人	人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、理学療法士として社会に貢献することに意欲を持つ人	協調性を持ち他者と良好な関係を築き、協働して自己の役割を責任を持って果たすことができる人		客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、自立的に物事に取り組み継続できる人	論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人
自己推薦書	○	○		○	○
個人面接		○	○	○	○
小論文	○				○

作業療法学科

選抜方法	知識・技能	主体性・多様性・協調性		思考力・判断力・表現力	
	AP1	AP2	AP3	AP4	AP5
高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人	人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、作業療法士として社会に貢献することに意欲を持つ人	協調性に富み他者と良好な関係を築き、柔軟な思考をもって、物事を協働して進めることができる人	客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、継続性をもって自ら考えて積極的に取り組むことができる人	論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人	
自己推薦書	○	○		○	○
個人面接		○	○	○	○
小論文	○				○

自己推薦書においては、「社会人としての経験」、「自らの強み」、「適性」、「理学療法士・作業療法士への志願理由」などを受験生に記載させる。自己推薦書の文章構成から AP1、その内容から AP2、AP4、AP5 を判定する。

個人面接においては、志願理由や社会人の経験、理学療法士・作業療法士の職業専門性について聴取することで、職業への関心、就学への意欲を AP2 として判定する。また、面接での受け答えから、良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション能力として AP3、質問に対する回答の内容から、物事の捉え方と自分の意見を的確に述べる能力である思考力・判断力・表現力を判定する事で AP4 と AP5 を判定する。

小論文では、決められた課題に対する論述において、課題文を読み解く力や文章の構成、表現力から AP1、AP5 を判定する。

以上のとおりに、社会人推薦入試と AP の関連を結び付け、本学の AP に見合う社会人を受け入れていく。

3) 社会人の既修得単位の認定及び実務経験の単位認定に係る考え方について

びわこリハビリテーション専門職大学の既修得単位の認定に関して、学則第 5 章「教育課程及び履修方法」第 16 条に定め、それに従い、既修得単位の認定の審査を行い、認定の可否を決定する。

以下では、入学前の「大学や短期大学などで修得した単位」及び「社会人の経験に対する単位」の認定について、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目に分けて、認定に係る考え方を記す。なお、既修得単位の認定に関する内規を資料 1-3 のとおり定める。

資料 1-3：びわこリハビリテーション専門職大学既修得単位の認定に関する内規

①基礎科目について

入学時に、成績証明書（在学期間を明記したもの）及び認定を受けようとする既修得科目の概要を記

載した書類を提出し、成績、単位数、時間数及び授業内容を鑑みて、単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

英語検定、TOEIC 及び TOEFL は、当該担当教員が審査を行った上で、点数に応じて、「英語Ⅰ・Ⅱ」の単位として認定する。

②職業専門科目について

職業専門科目は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則により定められた所定の単位を履修し単位を修得する必要があるため、原則として単位認定は行わない。

ただし、理学療法／作業療法理論科目群のうち「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」等の授業科目については、保健衛生学関係の学問体系において基礎的かつ共通的な授業科目となるため、①に準じて単位を認定する。

③展開科目について

入学時、成績証明書（在学期間を明記したもの）及び認定を受けようとする既修得授業科目の概要を記載した書類を提出し、成績、単位数、時間数及び授業内容等を鑑みて、単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

社会人の「専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力」は、職業資格や技能検定に基づいて、展開科目の中で、読み替えに該当する授業科目がある場合に行う。入学時に「資格を証明する証書の写し」及び「認定を受けようとする授業科目を記載した書類」を提出する。単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

例) 障がい者スポーツ指導員（中級・上級）の資格の場合

障がい者スポーツ論 1 単位・障がい者スポーツ論実習 1 単位、合計 2 単位を認定する。

④総合科目について

総合科目は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則により定められた所定の単位を履修し単位を修得する必要があるため、単位認定は行わない。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 是正事項3、作業療法学科 是正事項3】

2. 【全体計画審査意見3の回答について】 <大学、短期大学及び専門学校との違いが不明確>

専門職大学の特色や創造性、実習における支援体制などの観点から、大学、短期大学及び専門学校との違いについて、単に制度や目的の違いにとどまらず、カリキュラムとの整合性も含めて、改めて明確に説明すること。

(対応)

大学、短期大学及び専門学校との違いが不明確とのご指摘を受け、改めて、学校制度の違いや地域実情からくる本学の特色と創造性、具体的なカリキュラムの違いや実習支援体制について説明する。

1) 学校制度の違い

現在、日本における理学療法士・作業療法士の養成は、大学、短期大学及び専門学校等において実施されており、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則が定める内容を学生に教授するという点においては、大学、専門学校に違いはない。だが、大学においては、教養教育と専門教育、併せて理学療法、作業療法の理論の研究を学ぶため、学問的色彩の強い教育研究活動が行われている。しかしながら、専門教育としてのすそ野がやや広く社会ニーズを満たせていない側面を持っている。一方、専門学校は、それぞれの学校の工夫により、より質の高い実務家を養成しているものの、教員組織や施設・設備に関する基準が柔軟であるために、教育の質が制度上担保しきれていない側面も持っている。これら双方の弱点を補う意味でも専門職大学という新しい大学制度が期待されているところである。

専門職大学では、大学としての学問レベルを保ちながらも、より実学的な研究が重視され、理論に裏付けられた実践力をもつ人材を養成する。さらに、社会のニーズに即した新しい概念のプロフェッショナルリズムを身に着けさせることを重視している。教員組織については実務家教員を積極的に登用し、カリキュラムについては教養教育に加えて、専攻に係る特定の職業の分野に関連する分野について学修する展開科目を設定する。また、社会の人材ニーズに即応した職業専門人を養成するにあたり、社会の要請等を学内へと不断に取り入れることは非常に重要で、教育課程連携協議会を通じて、そのような情報を入手し、教育課程に組み込むことが可能となっている。これらの専門職大学制度は本学においても当然遵守するものである。

2) 地域の実情と養成する人材像

本学が養成する人材像については、地域の実情を踏まえたものであり、まずその説明を行う。

地域包括ケアシステムは、入院患者の在院日数の短縮や施設生活から在宅生活への移行の推進により、病気や障害を抱えながら地域で生活する高齢者を対象として構築された。青壮年期の患者を対象とした医療は、救命・延命、治癒、社会復帰を前提とした「病院完結型」のものである。一方、高齢化社会においては、慢性疾患による受療が多くなり、患者の住み慣れた地域や自宅における生活のための医療、つまり、地域全体で治し、支える「地域完結型」への早期転換が必要となる。

特に滋賀県では、県南部の人口増加地域を除けば、深刻な高齢化社会が到来していることや、病院が散在していて公共交通機関が不便なこともあり、地域完結型のリハビリテーション医療が求められている。今後、重要となる医療の目標は、地域社会全体での健康寿命の延伸、すなわち、要介護人口の抑制であり、生涯を通じたヘルスプロモーションと、住み慣れた地域で自立して暮らすための地域包括ケア

システムの構築となる。

一方、日本理学療法士協会による会員分布調査（2018）では、理学療法士は約 78.7%が医療・介護分野の施設に集中し、滋賀県の就労状況も同様である。日本作業療法士協会の会員の就労状況調査（作業療法白書 2015）でも、作業療法士の 65.4%が、医療法関連施設に就職しており、滋賀県の就労状況も同様である。滋賀県保健医療計画 2018 では、今後、充実してほしい対策として、リハビリテーション専門職の福祉領域や教育、就労、地域づくりへの参入が期待されている。

このような課題を解決するために、滋賀県知事は、「健康」をキーワードとした政策を実施している。例えば、「健康しが」共創会議では、「健康」をキーワードに集まった企業がお互いに意見交換をし、新たなビジネスモデルを提案し合い、実践（地域の薬局と乳飲料の会社が協同で行う子供向けの健康教室など）している。このような中、リハビリテーション職への期待は大きく、2017 年度から理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を対象に「地域共生社会」の実現に向けた人材育成研修会を行っている。

本学の特徴的な要素として、滋賀県唯一の理学療法士・作業療法士の養成教育機関として、県や県民からの要請を受けており、自治体の施策や社会の要請に応えるために、次のとおりの「養成する人材像」を設定した。

- ①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。
- ②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。

3) 本学のディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP) 及びカリキュラムの特色

以上の人材を養成するにあたり、卒業時に備えておくべき能力・資質を次のとおり DP に定めた。

- DP1：生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。
- DP2：地域住民や多職種と円滑なコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築くことができる。
- DP3：理論に裏付けられた知識と技術を有し、適切なリハビリテーションを実践することができる。
- DP4：地域及び地域住民が抱える課題を発見することができ、解決するための方法を論理的に考案することができる。
- DP5：専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を創造することができる。

また、このような DP を達成するために、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則って、以下の 5 つの CP を定めた。

- CP1：倫理観に基づき人を尊重し、生涯にわたり自己研鑽し、地域住民の社会生活を支援できるようになるための科目を配置する。
- CP2：専門職に必要なコミュニケーション能力を有し、対象者や多職種と良好な対人関係を築くことができるようになるための科目を配置する。
- CP3：専門職として必要な専門的知識や技術を修得し、論理的思考に基づいた問題解決策を考案できるようになるための科目を配置する。
- CP4：自らの専門性を基盤とし、地域住民と地域社会の課題発掘と問題解決を実践できるようになるための科目を配置する。
- CP5：専門領域に関連する専門分野の知識を修得し、地域共生社会の実現に向けて多職種と連携して支援できるようになるための科目を配置する。

CP1 に対応する授業科目として、例えば「倫理学」や「心理学」がある。前者は、理学療法士・作業療法士としての倫理観や人間性の構築を学修し、後者は子どもから高齢者といった幅広い対象者の心理的側面を学修する。

CP2 に対応する授業科目として「コミュニケーション論」、「英語」及び「韓国語」がある。前者は、幅広い対象者とコミュニケーションを図る上での基本を学修し、後者の語学系科目は海外の方とのコミュニケーションを図る技術を身につける。また、両学科に共通する臨地実務実習において、学内で学んだコミュニケーション技術を対象者への関わりを通して実践する。

CP3 に対応する授業科目としては、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「生理学Ⅰ・Ⅱ」などの理学療法・作業療法理論科目群や「運動療法学」及び「作業療法学総論」といった各学科の職業実践科目群がある。職業実践科目群は、理学療法、作業療法の理論に裏付けられた専門性を涵養するために十分な時間を配当するとともに、多くの実習科目については、担当教員を実務家教員とし、高度な実践力が身に付くよう配慮した。実務家教員は、より実践の理論に裏付けられた教育研究活動を展開することが可能であり、これは本学の教育の特色にもなっている。また、養成校で学修した知識・技術は、臨地実務実習を行うことにより、対象者に対して適切なリハビリテーションを提供する技術を学修する。

CP4 に対応する授業科目として展開科目を中心に配当した。1年次より授業科目を配当し、早い段階から地域共生社会の理念の理解を図る。両学科共に地域共生社会を理解するための必修科目を12単位とし、選択科目は、学生が希望するキャリアパスを想定した授業科目を配当した。これにより地域共生社会の実現に向けて、対象者を多様な視点から捉える能力を涵養し、保健・福祉・スポーツ・就労等の分野での支援の在り方について学修する。

CP5 に対応する授業科目として総合科目を主として配当した。例えば、「協働連携総合実習」は両学科の学生が合同で行い、お互いの専門性を小グループ内で議論し合うことを通して、理学療法や作業療法のスペシャリストとしての視点とジェネラリストとしての互いの違いを認めあう過程を学修する。これにより多職種を理解し、協業をしていくことの重要性を学修する。

このような教育を行うことで、地域共生社会の実現に向けて、医療保険制度や介護保険制度下に留まらない幅広いフィールドで、創造的な役割を果たすリハビリテーション専門家を養成することが本学の特色である。

4) 実習における支援体制

実習の特性、支援・指導体制については、臨地実務実習、学内での実習科目、展開科目での実習科目の3点について記述する。

(1) 臨地実務実習

臨地実務実習は、両学科共に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則って、実習の全体を構成した。両学科共に学生が主体的に体験を通して学修ができるような実習の手引きを作成した。具体的な学修支援は、実習前には本学内での課題（実習前テスト、レポート、OSCE）を設定し、実習後には学生の到達度を確保するための課題（OSCE、レポート課題・発表）を設定した。各実習期間中は、実務家教員による巡回指導を充実させる一方、実習指導者とメール等で頻回に連絡をとることにより、十分な教学支援体制をとる。また、学修支援ツールとしての「manaba」を導入し、学生の時間外学修をサポートする。専門学校及び大学とびわこリハビリテーション専門職大学との臨地実務実習（臨床実習）の体制の違いを、本法人の設置校を例にして次の表のとおり示す。

臨地実務実習（臨床実習）における違い（学校法人藍野大学の専門学校・大学・専門職大学の例）

	滋賀医療技術専門学校	藍野大学	びわこリハビリテーション 専門職大学
指導要領	2学科が、それぞれに作成し、実施	2学科が、それぞれに作成し、実施	2学科が、1つの枠組みとして、統一したものを作成し実施
学修	担当症例を通じた、臨床思考過程を中心とした学修	担当症例を通じた、臨床思考過程を中心とした学修	「臨床参加型」の学生の体験を中心とした学修
実習前後の 課題設定	未実施	実習前（実技や臨床思考過程の演習）のみ実施	実習前（実習前テスト、レポート、OSCE）、実習後（OSCE、レポート課題・発表）を実施

(2) 学内での実習科目

学内での実習科目（展開科目での実習除く）は、理学療法学科では23科目、作業療法学科では25科目とした。職業専門科目における実習は、実務家教員が学生にデモンストレーションを行い、学生同士で技術を実施し、確認し合うことを多く設けるといった特徴がある。また、総合科目の「協働連携論総合実習」は、地域在住の障がい者を授業に招聘し、当事者のインタビューから両学科合同でグループワークを実践する。両学科の学生が合同で議論することにより、多職種との連携について自らの専門性に基づいた支援を考えることを意図している。このような授業形態も、本学の特色であるとともに、専門職展開という点で創造的な取り組みと考えている。

(3) 展開科目での実習科目

展開科目での実習は、地域共生社会を理解するための実習として「障がい者スポーツ論実習」、「健康増進実践実習」、「児童期地域社会適応論実習」、「成人期地域社会適応論実習」及び「老年期地域社会適応論実習」を配当した。これらの実習は、理学療法士、作業療法士が未だ介入できていない領域

で、他領域の指導者による実習を経験することで、キャリアパスにおける創造性を養うことを目的としている。

以上、3つの特色のある実習を経験することで、地域共生社会で活躍できる創造的なリハビリテーション人材を養成することが特色となっている。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通 理学療法学科 是正事項4、作業療法学科 是正事項4】

3. 【全体計画審査意見6の回答について】 <入学意向調査の適正性が不明確>

高校2年生や施設等職員を対象に入学意向調査を実施し、その結果をもって学生確保の見通しを説明しているが、入学者選抜方法に照らして、入学を想定している者を対象として適切に調査・分析がなされているか不明確であることから、明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項4、作業療法学科 是正事項4】

(対応)

本学が、高校2年生および施設等職員を対象として行った「藍野専門職大学」(仮称)設置に関するニーズ調査結果報告書が、入学意向調査としての適正性が不明確であるとのこと指摘を受け、再度その適正性及び学生確保の見通しを述べる。

なお、是正事項1(2)の対応として、社会人入試におけるアドミッション・ポリシーとの対応関係見直しに伴い、関連する他の入試区分においても見直しを行ったため、その概要を説明する。

1) 高校2年生、施設等職員に対する入学意向調査

(1) 入学意向調査の概要

「藍野専門職大学」(仮称)設置に関するニーズ調査 結果報告書(資料1-1 高校生対象調査 施設等職員対象調査)は、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」に対する進学需要を確認するために、2018年7月2日から2018年9月7日の期間にアンケート調査を実施した。

公正性を担保するために第3者機関に調査を依頼した。同様の調査実績のある「株式会社進研アド」を選んだ。入学意向調査で高校生2年生を対象にした理由は、アドミッション・オフィス(以下、「AO」と呼ぶ。)入試、指定校及び公募制推薦入試、一般入試を受験する生徒を想定したからである。一方、施設における多職種を対象としたのは、社会人推薦入試を想定したからである。本学が想定した社会人推薦入試の対象者とは、以下に示すとおりである。

本学が入学を想定する社会人

- ①キャリアアップ及びスキルアップを目的としたリハビリテーションと関連の深い周辺領域の職種
介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、特別支援学校教員、アスレティックトレーナー、福祉施設職員、医療事務職員等
- ②資格の多重取得を目的とした看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の医療従事者
- ③キャリアチェンジを目的とした全く異なる職種からの転職者

この中の①と②に属する者は、本学が社会人入学者として想定した主な職種であり、その多くが医療・介護・福祉関係の施設、特別支援学校等で働いているため、これらを総称して「施設等職員」と表現した。また、③については、あらゆる職種が考えられ、且つ、ごく少数であるため、調査は困難と判断した。そのような経緯から、社会人を対象とした調査結果報告書のタイトルが「施設等職員に対する入学意向調査」となった。

なお、調査終了後の2019年3月の補正申請で大学名及び学部名を変更したため、本学の大学名での調査ではなくなるが、調査時に対象者に配布したリーフレットには、藍野専門職大学（仮称、設置構想中）、また、学部名についても同様に「臨床リハビリテーション学部」（仮称、設置構想中）と記していることから、大学名や学部名から想起される内容や職業へのイメージへの影響は少ないと考えている。

（2）高校生対象に行った調査・分析

①アンケート調査に関する一般的事項

調査は、本学が学生確保における主要なエリア（近畿地方と中部地方・北陸地方の一部）に所在する高校の進路指導課に対し依頼し、承諾が得られた54校に送付し、高校留置き調査を行った。

回収状況

依頼校数54校、9,490名に対し、回収数が3,817名（回収率40.2%）であった。

性別は、男性47.2%、女性52.2%であった。

高校卒業後の希望進路

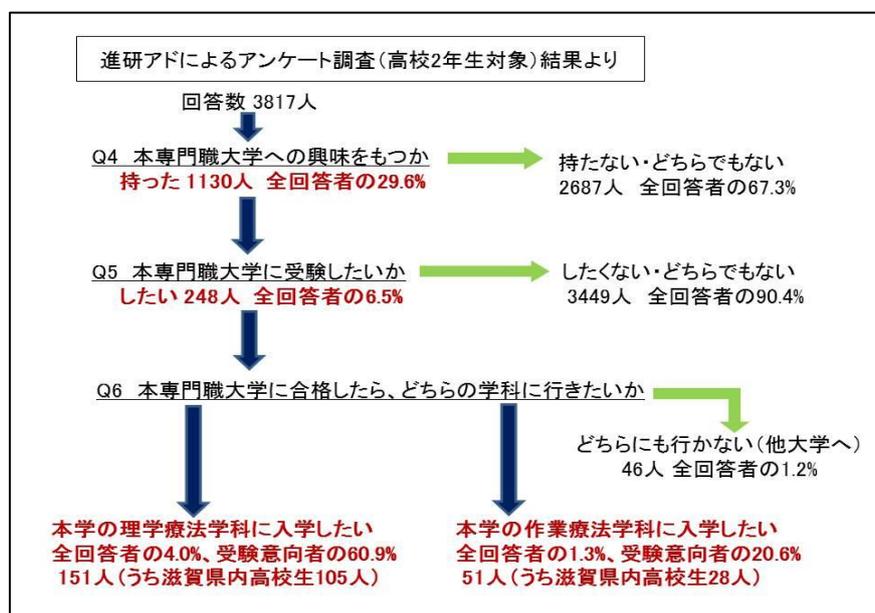
高校卒業後の希望進路では、複数回答の質問形式で、就職（22.8%）、その他（2.4%）、無回答（0.8%）となり、これらを合計すると26.0%、つまりそれ以外の74.0%は、進学希望を示していると考えられる。進学先の希望は、国公立大学32.6%、私立大学36%、専門職大学6.0%、短期大学11.7%、専修学校・専門学校31.8%であった。

興味のある学問系統

興味のある学問系統について「看護学」の13%にらび、「医療技術・リハビリテーション学」は12.5%、「スポーツ・体育・健康科学」12.1%と上位の比率をしめして、高校生にとって関心が高いと言える。

②調査結果から本学への受験意向・入学意向を分析

調査結果から本学への受験意向・入学意向に関する結果は下図のとおりである。



まず、興味度に関する質問に対して、設置構想中の本専門職大学に「興味をもった」と答えた人は29.6%、次に「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)への受験意向に関する質問に対して、「受験したいと思う」と回答した人は248名(6.5%)であった。この248名のみを抽出して、本専門職大学に合格した場合の入学意向を聞いたところ、「臨床リハビリテーション学部理学療法学科に入学したい」151名(60.9%、全回答者の4.0%)で、「臨床リハビリテーション学部作業療法学科に入学したい」51名(20.6%、全回答者の1.3%)であった。入学希望しない(すなわち、他大学に行く)と答えた生徒は46名であった。本学の理学療法学科80名、作業療法学科40名の定員に対し、入学定員以上(理学療法学科1.89倍、作業療法学科1.28倍)の実数を得ることができた。

本学近隣の滋賀県・湖北・湖東・湖南・甲賀地区における高校生と中学生(本学設置5年後まで)の人口推移に関する表を以下に示す。18歳人口が数年先まで維持されていることが分かる。上記の調査結果で得られた比率をもとに計算すると、この地域から理学療法でおおよそ500名、作業療法で160名が、本学受験を希望し、更に入学意向を表明していることになる。なお、これらの地域の中で、特に東近江市に南接する滋賀県湖南地域は、全国的に稀な、18歳人口増加地域である。特に東近江市に南接する滋賀県南部地域は現在、全国的にまれな18歳人口増加地域である。(「平成30年度学校基本調査 滋賀県/第26表高等学校学年別生徒数」より抽出作成した以下の表中の四角囲み部分)

計算式：入学意向者予測値＝(対象地域の高校2年生人口)×(本学への受験意向・入学意向者比率)

理学療法学科 12,464名×4.0%＝498.6名

作業療法学科 12,464名×1.3%＝162.0名

滋賀県湖北・湖東・湖南地域の高等学校・中学校生徒数(開設5年目までを想定)

平成30年5月1日現在
単位：人

区分	高等学校		全 日 制												専 攻 科	別 科		
	学校数	全 日制	全						本								専 攻 科	別 科
			計			1 学 年 2			2 学 年 3			3 学 年						
			計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女				
大津市	13	10	9,725	4,947	4,778	3,278	1,667	1,611	3,278	1,676	1,602	3,169	1,604	1,565	-	-		
彦根市	6	5	4,797	2,832	1,965	1,617	957	660	1,584	832	652	1,596	943	653	-	-		
長浜市	5	4	3,058	1,475	1,583	992	471	521	1,058	514	544	1,008	490	518	-	-		
近江八幡市	4	4	3,461	1,832	1,629	1,184	634	550	1,187	631	556	1,090	567	523	-	-		
草津市	6	5	4,674	2,400	2,274	1,621	817	804	1,564	835	729	1,489	748	741	-	-		
守山市	3	3	2,292	1,159	1,133	804	394	410	767	407	360	721	358	363	-	-		
栗東市	2	2	1,414	618	796	486	216	270	459	186	273	469	216	253	-	-		
甲賀市	4	4	1,942	1,043	899	676	355	321	633	345	288	633	343	290	-	-		
野洲市	1	1	437	238	199	160	93	67	139	74	65	138	71	67	-	-		
湖南市	2	2	1,113	507	606	361	157	204	381	157	224	371	193	178	-	-		
東近江市	4	3	2,264	1,148	1,116	791	399	392	738	389	349	735	360	375	-	-		
米原市	2	2	1,186	667	519	391	214	177	401	198	203	394	255	139	-	-		
日野町	1	1	470	228	242	160	87	73	158	71	87	152	70	82	-	-		
竜王町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
愛荘町	1	1	345	138	207	121	54	67	117	46	71	107	38	69	-	-		
豊郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
甲良町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
多賀町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
合 計	54	47	37,178	19,232	17,946	12,642	6,515	6,127	12,464	6,461	6,003	12,072	6,256	5,816	-	-		
						専門職大学 開設2年目対象			専門職大学 開設年度対象									

出所：「平成30年度学校基本調査(滋賀県/第26表 高等学校 学校数、学部数および学年別生徒数)」より、抽出し作成

中学校

単位：人

区 分	学 校 数			生 徒												数
	計	本校	分校	計			1 学 年			2 学 年			3 学 年			
				計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
大 津 市	18	18	-	8,771	4,467	4,304	2,810	1,440	1,370	2,901	1,450	1,451	3,060	1,577	1,483	
彦 根 市	7	7	-	3,055	1,575	1,480	994	513	481	1,000	518	482	1,061	544	517	
長 浜 市	12	12	-	3,348	1,720	1,628	1,090	562	528	1,158	592	566	1,100	566	534	
近江八幡市	4	4	-	2,061	1,020	1,041	700	361	339	656	322	334	705	337	368	
草 津 市	6	6	-	3,363	1,752	1,611	1,098	564	534	1,152	597	555	1,113	591	522	
守 山 市	4	4	-	2,685	1,378	1,307	865	443	422	900	453	447	920	482	438	
栗 東 市	3	3	-	2,112	1,132	980	688	402	286	721	364	357	703	366	337	
甲 賀 市	6	6	-	2,475	1,300	1,175	799	422	377	806	420	386	870	458	412	
野 洲 市	3	3	-	1,377	750	627	441	246	195	502	265	237	434	239	195	
湖 南 市	4	4	-	1,450	763	687	459	223	236	487	256	231	504	284	220	
東 近 江 市	9	9	-	3,154	1,610	1,544	1,021	521	500	1,079	556	523	1,054	533	521	
米 原 市	7	7	-	1,057	552	505	349	181	168	342	182	160	366	189	177	
日 野 町	1	1	-	548	265	283	178	82	96	187	90	97	183	93	90	
竜 王 町	1	1	-	320	184	136	119	70	49	78	42	36	123	72	51	
愛 荘 町	2	2	-	644	322	322	222	117	105	217	106	111	205	99	106	
豊 郷 町	1	1	-	215	98	117	72	37	35	74	28	46	69	33	36	
甲 良 町	1	1	-	179	89	90	45	24	21	64	26	38	70	39	31	
多 賀 町	1	1	-	200	110	90	74	40	34	55	35	20	71	35	36	
	90	90	-	37,014	19,087	17,927	12,024	6,248	5,776	12,379	6,302	6,077	12,611	6,537	6,074	
							専門職大学 開設5年目対象			専門職大学 開設4年目対象			専門職大学 開設3年目対象			

出所：「平成30年度 学校基本調査（滋賀県/第17表 中学校 学校数、学級数および学年別生徒数）」より、抽出し作成

③ 学生確保の見通しを裏付ける他の判断材料

滋賀医療技術専門学校の実績

滋賀医療技術専門学校の実績から考えると、直近3年間の平均は、理学療法学科の志願者数が87名であり、単純にみると本専門職大学の入学定員を上回る。滋賀医療技術専門学校では、成績不良者を避けるために入学許可を7割程度に絞っているが、「理学療法士になりたいが、専門学校だからという理由から進学先として検討にならない場合も多いため、大学になればもっと成績の良い受験者数が増える」と予想する高校進路指導者も多い。また、滋賀医療技術専門学校を受験し合格しても、実際には入学しなかった受験生が毎年数名～10名程度存在する。これまでに直接事情を聞くことが可能だった辞退者にヒアリングしたところ、「A大学またはB大学にも合格したので『大学』に行きたい、しかも京都の大学は自宅通学できるので」という辞退理由であった。これらのことから、本学が設置されれば、現役高校生の入学希望者は、滋賀医療技術専門学校の時よりも増加すると見通しを立てている。

通学手段に関する地域事情

地域の特性として、世帯当たりの車保有台数の多いこと、高校卒業時に免許取得する人が多いことから、駅まで自家用車・バイクで行き、そこからJRなどで長時間通学する学生も多い。

前身の滋賀医療技術専門学校では、約35%の生徒が自家用車（4輪）にて通学している状況である。友人同士で乗り合うケースや2輪バイクで通学する生徒も考慮すると、約半数の生徒が公共交通機関以外の方法で通学していることになる。実際に、学校まで最寄りのJR能登川駅から通学バスで約30分

かかるため、車やバイクを利用することで学校まで最短距離で移動でき、本学は、学生が利用できる駐車場を用意しているため、通学にかかる時間を大幅に短縮できる。立地の不便さは支障がないものと考えている。

競合大学との関係

京都・大阪北部・三重県隣接地域の 11 大学リハビリテーション系学部における志願者倍率は、各大学のホームページによると、理学療法学科の倍率 2.9～19.8%、作業療法学科の倍率 1.4～19.9%となっており、競合大学同学科の入学定員は充足していることから、4 年制大学への進学需要は、供給を超えていることが分かる。さらに、競合する可能性のある大学に比べ、本学の学費は 4 年間合計で 520 万円であり、競合大学と比較して 97 万円以上安価であり、進学先を選択する際には、経済的負担が少ないという点は優位に働くと考える。

競合の志願者倍率

理学療法学科

大学名	所在地	入学定員	2016 年		2017 年		2018 年	
			志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率
佛教大学	京都市中京区	40	1,153	28.8	952	23.8	616	15.4
京都橘大学	京都市山科区	66	986	14.9	1,154	17.5	1,307	19.8
藍野大学	大阪府茨木市	80	469	5.9	263	3.3	230	2.9
大和大学	大阪府吹田市	40	645	16.1	689	17.2	724	18.1
大阪人間科学大学	大阪府摂津市	60	374	6.2	307	5.1	242	4.0
大阪保健医療大学	大阪市北区	70	306	4.4	195	2.8	217	3.1
森ノ宮医療大学	大阪市住之江区	60	792	13.2	722	12.0	712	11.9
大阪電気通信大学	大阪府四条畷市	40	99	2.5	71	1.8	116	2.9
中部学院大学	岐阜県関市	60	191	3.2	134	2.2	276	4.6
鈴鹿医療科学大学	三重県鈴鹿市	40	251	6.3	264	6.6	276	6.9

作業療法学科

大学名	所在地	入学定員	2016 年		2017 年		2018 年	
			志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率
佛教大学	京都市中京区	40	490	12.3	423	10.6	429	10.7
京都橘大学	京都市山科区	40	—	—	—	—	796	19.9
藍野大学	大阪府茨木市	40	161	4.0	97	2.4	75	1.9
大和大学	大阪府吹田市	40	417	10.4	448	11.2	489	12.2
大阪保健医療大学	大阪市北区	30	89	3.0	75	2.5	41	1.4
森ノ宮医療大学	大阪市住之江区	40	244	6.1	381	9.5	305	7.6

○学費の状況

びわこリハビリテーション専門職大学（本学）

リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科

単位：千円

区分	入学金	授業料（年額）	実験実習費	施設設備費	合計
初年度	400	900	100	200	1,600
2年次以降	—	900	100	200	1,200
				4年間の合計	5,200

類似の大学の学費（出所：各大学のホームページより抽出）

単位：千円

大学名	区分	入学金	授業料（年額）	施設設備費 など	合計	本学との 差異
佛教大学	初年度	170	1,380	400	1,950	+350
	2年次以降	—	1,380	400	1,780	+580
	4年間の合計				7,290	+2,090
京都橘大学	初年度	250	1,200	280	1,730	+130
	2年次以降	—	1,200	280	1,480	+280
	4年間の合計				6,170	+970
大和大学	初年度	180	1,150	400	1,730	+130
	2年次以降	—	1,150	400	1,550	+350
	4年間の合計				6,380	+1,180
森ノ宮医療大学	初年度	250	1,200	280	1,730	+130
	2年次以降	—	1,200	280	1,480	+280
	4年間の合計				6,170	+970

（3）施設等職員を対象に行った調査・分析

調査は、滋賀県を中心とした近畿エリアの施設等に依頼し、承諾が得られた 47 施設へ調査票を送付し、郵送にて回収した。依頼数は 47 施設 959 名に対して、回収数 622 名（回収率 64.9%）であった。

①調査の一般的事項・対象者属性

勤務地は、滋賀県（87.5%）が約 9 割を占め、次いで京都府（9.6%）となり、本学への通学が可能な範囲に所在する施設が大半であった。対象者の性別は、男性 33.1%、女性 65.9%で、回答者の年齢は、20代（25.9%）、30代（30.5%）、40代（22.7%）、50代（16.6%）、となり、20代から50代の男性・女性の意向を反映している。なお、回答者の最終学歴は、四年制大学 29.9%、次いで高等学校 22.5%、専門学校 22.0%の順で多かった。

②「学び直しへの関心」及び「本専門職大学への魅力度」について

資格取得や専門知識・スキルアップのために大学や専門学校に入学し、「学び直し」することに関心があるかという質問に対し、「関心がある」と回答した人は 59.2%であった。前述した本学が想定する社会人入学者を対象は、予想通り「学び直しへの関心」がある結果となった。

「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）の特色に対する魅力度について、A～E すべての項目について、「とても魅力を感じる」、「ある程度魅力を感じる」と回答した人が 8 割を超えている。対象者が、本学の領域に関心の高い人であるため、魅力度は高くなると予測していたが、想定を上回る高い結果であり、本学の特色に加え、社会人においても専門職大学という新しい制度への期待は大きく、結果を押し

上げるほうへ影響したと考えた。

③調査結果での本学への受験意向・入学意向

受験意向については、「受験したい」と回答した人は230名（37%）であった。

この230人のみを抽出して、入学意向を示した人数をみると、全体で207名（90%）が、受験して合格したら入学したいと回答している。さらに詳細にみていくと、「理学療法学科に入学したい」と回答した人は139名（60.4%）、現在の職種別では、介護福祉士29名、介護支援専門員10名、作業療法士8名、看護師8名の順で多かった。「作業療法学科に入学したい」と回答した人は69名（30.0%）、現在の職業別では、介護福祉士15名、教員13名、医療事務職員5名、理学療法士2名の順で多かった。

この結果から、理学療法学科と作業療法学科に共通していたのは、介護福祉士が最も多かったこと、すでに何らかの資格を取得している人が多く、多重資格取得を目指している人が多かったことである。違いは、理学療法学科では看護師と介護支援専門員が多いこと、作業療法学科は教員（特別支援学校）、医療事務職員が多いことであった。

本調査では、「受験したい」と回答した人230名（理学療法学科139名、作業療法学科69名）であったが、対象者の年齢は20代から50代であり、学び直しの時期やタイミングは、就学するための条件が整わないと難しいと思われ、受験のタイミングには幅があると捉えるほうが妥当と考え、下方修正する必要があるが、「学び直したい」というニーズが高いこと、受験までこぎつければ、合格したら入学する意欲が高い集団が存在し、長期にわたり一定数の入学者は確保できると想定している。

④調査を裏付ける他の判断材料

前身の滋賀医療技術専門学校の直近3年間の社会人入試・学士入試の状況は下表の通りである。社会人（社会人の経験を持つ者+大卒の者）の受験者数（社会人入試と学士入試受験者数の合計）の平均は、19.7名（理学療法学科11.3名、作業療法学科8.3名）で、合格者すれば全員必ず入学している。

滋賀医療技術専門学校 社会人入試・学士入試状況

	理学療法学科			作業療法学科		
	受験者	合格者	入学者	受験者	合格者	入学者
2018年	8	4	4	5	3	3
2017年	11	8	8	9	9	9
2016年	15	6	6	11	11	11

これらの結果をもとに、本学が社会人枠として想定した理学療法学科8名程度、作業療法学科4名程度の入学者の確保の見通しは立っているものとする。

2) 入学者選抜方法の概要

是正事項1（2）の対応として、社会人入試におけるアドミッション・ポリシーとの対応関係見直しに伴い、関連する他の入試区分においても見直しを行った。その内容を次に記述する。

（1）入学者選抜方法における指定校推薦入試の追加、学校推薦の入試区分名称の変更及び一般試験の学力試験の変更

入学者選抜は、本学のアドミッション・ポリシーに見合う、医療専門職業人としての目的意識が明確で、学習意欲の高い、大学教育を受けるにふさわしい能力をもった人材を選考するために実施するものである。そこで、2019年3月の補正申請では、AO入試、公募制推薦入試（学校推薦、社会人推薦）、一般入試の4つの入試区分で選考を行うとしていたが、入学者選抜にも多様性をもたせ、受験者を多面的・総合的に評価する目的で、学業成績・人物ともに優れ、心身ともに健康であることを出身学校長が保証することを前提とした「指定校推薦入試」を追加する。なお、指定校の選定基準は、原則として、本学に通学可能な地域に所在し、本学への入学希望のニーズが高い学生がいる高校とし、約20～30校に指定校推薦枠を設ける。実際には、前身の滋賀医療技術専門学校における入学者が過去数年に合計数名以上存在する高校からの入学実績、成績、卒業実績を参考に選定する。

また、2019年3月の補正申請において、「公募制推薦入試」に「学校推薦」と「社会人推薦」の2つの入試区分を設けていたが、「公募制推薦入試」を「推薦入試」に変更し、推薦入試の中の入試区分を「指定校推薦入試」、「公募制推薦入試」及び「社会人推薦入試」の3つに再編成した。変更することにより、受験生にとって、本学の入試区分がより分かりやすくなり、多様な選抜方法から選ぶことができるようになること、本学にとっては、アドミッション・ポリシーに見合う学生を異なる選抜方法から多面的に評価し、選考できる点でメリットがあると考えられる。

一方、一般試験の学力試験の実施方法を 国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ及びⅡから1科目選択、数学Ⅰ、物理基礎及び生物基礎から1科目選択する2科目としていたが、入試による選択科目の試験の難易度を統一することは難しく、より多様な人材を確保するために以下の通り変更する。コミュニケーション能力を評価する文系科目（国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから出題）と職業に直結する知識を評価する理系科目（数学Ⅰ、物理基礎、生物基礎から出題）に分け、それぞれで出題された問題の中から、受験者が（科目ではなく）問題単位で選択して回答する方式とする。この変更により、得意な科目を1科目あるいは複数科目を選択させることによって、多様な人材を確保する。

以上の、変更を踏まえ、募集定員をリハビリテーション学部理学療法学科は80名、リハビリテーション学部作業療法学科は40名として、AO入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、社会人推薦入試、一般入試の5つの区分で実施する。募集人員の想定は、次の通りで、AO入試では、理学療法学科8名、作業療法学科4名とし、推薦入試では、全体の募集定員の4割とし、指定校推薦入試（理学療法学科16名程度、作業療法学科は8名程度）、公募制推薦入試（理学療法学科8名程度、作業療法学科は4名程度）、社会人推薦入試（理学療法学科8名程度、作業療法学科は4名程度）を想定している。また、複数の入試区分を設けているため、可否の判定は多面的かつ合理的な根拠をもって公正に行われるように配慮する。

各入試区分の概要と選考の方法は次の通りである。

AO入試

調査書とエントリーシート、グループディスカッションを通して、学力試験では測ることができない学生の意欲・適性をもとに判定する。部活動などの活動業績やボランティア活動、検定資格なども評価し、選考する。このグループディスカッションは、与えられたテーマをもとにディスカッションさせてAP2からAP4の項目ごとに評価する。

指定校推薦入試

本学が指定する高等学校の卒業見込者で、学業成績・人物ともにきわめて優れ、心身ともに健康であると出身学校長が責任を持って推薦できる者について、高校長からの推薦書、調査書、志願理由書、個人面接を行い、選考する。AP 各項目が判断できるように推薦書や志願理由書には記載内容を指示する。

公募制推薦入試

高等学校の卒業見込の者、または、前年 3 月に卒業した者で、学業成績・人物面における優等性について高校長の推薦のもとに、調査書、志願理由書、グループディスカッション、個別面接を行い、選考する。AP 各項目が判断できるように推薦書や志願理由書には記載内容を指示する。

社会人推薦入試

入学時において社会人経験を 1 年以上有する者（パートタイム・アルバイトの実務経験を含む）で、社会人としての豊かな経験と学び直しの意欲・適性を自己推薦書、個別面接、小論文（課題を読んでそれに対応して論じさせる）をもとに選考する。

一般入試

志願理由書と学力試験をもとに選考する。学力試験は、文系科目（国語総合、コミュニケーション英語 I・II から出題）と理系科目（数学 I、物理基礎、生物基礎から出題）に分ける。文系科目は、コミュニケーション能力や理解力・表現力を見極めるためのもので、理系科目はリハビリテーション専門職にとって重要な理系の基礎知識を問うものである。いずれも出題全問を提示し、問題ごとに選択できる方式とし、得意な科目を 1 科目あるいは複数科目を選択させることによって、多様な人材を確保する。

(2) 入学者選抜の具体的な方法

理学療法学科

入試区分	AO 入試	推薦入試			一般入試
		指定校 推薦入試	公募制 推薦入試	社会人 推薦入試	
募集人数	8 名	32 名			40 名
専願/併願	専願	専願	専願/併願	専願	併願
選抜方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④個人面接	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④グループディスカッション ⑤個人面接	①自己推薦書 ③個人面接 ④小論文	①志願理由書 ②学力試験 文系科目(国語総合、コミュニケーション英語 I・II から出題) 理系科目(数学 I、物理基礎、生物基礎から出題) ※両科目とも出題から、選択して回答

作業療法学科

入試区分	AO 入試	推薦入試			一般入試
		指定校 推薦入試	公募制 推薦入試	社会人 推薦入試	
募集人数	4名	16名			20名
専願/併願	専願	専願	専願/併願	専願	併願
選抜方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④個人面接	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④グループディスカッション ⑤個人面接	①自己推薦書 ②個人面接 ③小論文	①志願理由書 ②学力試験 文系科目(国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから出題) 理系科目(数学Ⅰ、物理基礎、生物基礎から出題) ※両科目とも出題から、選択して回答

なお、この入学者選抜方法は、高大接続改革の一環としての大学入学共通テストが導入されるまでを想定しており、その後は試験実施方法等については見直しを行う予定である。

【教育課程等】

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 改善事項5、作業療法学科 改善事項5】

4. 【全体計画審査意見7の回答について】 <シラバス上の到達目標が不明確>

「英語Ⅱ」のシラバスにおける到達目標について、授業の終了段階で身に付けていることが期待される行動・能力をより具体的に明示することが望まれる。

(対応)

「英語Ⅱ」のシラバスの授業概要到達目標では、「英語4技能の向上」、「応用的な読解力」、「リスニング力」、「異文化理解力」及び「積極性を身に付けること」などと記載したが、指摘を受け、授業の終了段階における到達目標としては、抽象的であったものと認識した。そのため、「授業の終了段階で身に付けていることが期待される行動・能力」を『「読み、書き、リスニング、スピーキング」を職場を含む社会生活で実践できる』と定めることで、本改善事項への対応とする。

資料 4-1：シラバス（英語Ⅱ）変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス 英語Ⅱ 授業概要到達目標

新	旧
<p>グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために、<u>また、基礎的な英語4技能の向上と幅広い知識の習得のために、テキストを利用しながら様々なケースについて知識を得るとともに、臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら、実践的に学ぶ機会を提供する。</u></p> <p><u>日常的に接する「読み、書き、リスニング、スピーキング」に気づかせる教材を利用し、基礎的文法、構文、語彙、慣用表現を復習・認識させながら、「読み、書き、リスニング、スピーキング」を職場を含む社会生活で実践できるようになるための基礎的な英語力を修得する。</u></p>	<p>グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために英語4技能の向上と幅広い知識を習得し、テキストを利用しながら様々なケースを知る。臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら応用的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与え、社会・文化・学術交流の英語力、知識、異文化理解力をつける。</p> <p>語学の授業は、インプットしたものをアウトプットすることで実践的な英語力が身につく。実践的に「読み、書き、リスニング、スピーキング」することでさらなる英語力を磨きます。また新しい知識を自分の言葉で他者と話し、考える機会を多く作るため、論議できるスキルを習得し、積極性を身に付けることも大切な到達目標の要素である。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 是正事項6(1)、作業療法学科 是正事項6(1)】

5. 【全体計画審査意見9の回答について】 <総合科目の実施方法等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。

- (1) 本学では、「教員から学生への口頭による学習内容の伝達を踏まえた上で、課題などによつて学修を深める科目」を「演習」、「理学療法、作業療法の評価や治療の考え方について事例の検討や発表を通して学ぶ科目」を含む「授業で学習した手技・手法について体験を通して学ぶ科目」を「実習」と定義しているが、「理学療法総合演習／作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」のシラバスの記載は、その違いが不明確であることから、授業形態の定義を踏まえた適切な記載に改めること。

(対応)

総合科目の実施方法等が不明確とのご指摘を受け、シラバスの内容を改めて確認したところ、「理学療法総合演習」は、理学療法の「評価や治療の考え方について事例の検討や発表を通して学ぶ科目」であり、実習の定義に該当するため、授業形態を演習としていたことが不適切であった。そのため、授業科目名称を「理学療法総合演習」から「理学療法総合実習」に改めるとともに、授業形態を「演習」から「実習」に改め、そのことがより分かるように、資料5-1のとおり、シラバスの「授業概要到達目標」を修正する。

また、「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」については、作業療法の「評価や治療の考え方について事例の検討や発表を通して学ぶ科目」であり、実習の定義に合致するが、そのことがより分かるように、資料5-2、資料5-3のとおり、シラバスの「授業概要到達目標」を修正する。

資料5-1：シラバス（理学療法総合実習）変更後・変更前

資料5-2：シラバス（作業療法総合実習Ⅰ）変更後・変更前

資料5-3：シラバス（作業療法総合実習Ⅱ）変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス 科目名及び授業形態

新		旧	
科目名	授業形態	科目名	授業形態
理学療法総合実習	実習	理学療法総合演習	演習

(新旧対照表) シラバス 授業概要到達目標

科目名	新	旧
理学療法総合実習	<p>本科目では、<u>展開科目で学んだ知識と、職業専門科目から得た知識や技術に基づいて、地域共生社会の実現に向けて、地域社会が抱える課題を検討し、その課題に対して取りうるアプローチとその効果について情報を整理する。そして、整理した情報に基づき、地域が抱える固有の課題を発見し、ディスカッションを通して、調査・研究計画を立案していく。さらに、調査・研究結果を発表するとともに、得られた結果から、展開科目や職業専門科目で学んだことを応用・展開させ、地域課題を解決するためのプロジェクトについても企画する。</u></p>	<p>本科目では、これまで学修した理学療法の知識や技術を統合し、地域が抱える課題に対し、どのようにそれを応用し活用できるかについて自ら考え、学ぶ授業である。地域が抱える課題については、各自が選択した分野からテーマを決定しその解決につながる方法を計画する。理学療法の職業専門科目で行った、神経筋骨格障害応用論実習や内部障害応用論実習およびスポーツ障害応用論実習と、展開科目で学修した地域共生社会における理学療法士が貢献できる課題とを考え合わせ、実践可能な課題解決策の計画をたてる。それをもとに、グループワークを行い、理学療法と隣接領域での知識、技術を融合し、それを地域社会の中で応用し活用できる力を育成する。</p>
作業療法総合実習Ⅰ	<p>これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することを目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるかを発見するために、<u>作業療法評価を応用・活用する方法について学修する。これまでの展開科目や実習で得た情報、事例を基にグループワークを通じて、作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学修する。</u></p>	<p>これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することも目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるのかを発見するために、どのように作業療法評価を応用活用できるかについて学習する授業である。展開科目実習でいった児童期、成人期、老年期分野からグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学習する。</p>

科目名	新	旧
作業療法総合実習Ⅱ	<p>本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談(事例)から、<u>地域障害者の課題をグループごとに発見し、分析すること</u>で応用力を育成する。</p>	<p>本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し分析する応用力を育成する。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 是正事項6(2)、作業療法学科 是正事項6(2)】

5. 【全体計画審査意見9の回答について】 <総合科目の実施方法等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。

- (2) 「理学療法総合演習／作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」について、複数の教員が担当するが、教員と学生の割り振りをどのようにするかなど、具体的な実施方法が不明確であることから、明確に説明すること。

(対応)

ご指摘を受け、シラバスの内容をあらためて確認したところ、「理学療法総合実習(補正申請時:理学療法総合演習)」及び「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」について、具体的な実施方法が不明確な記載となっていた。教育と学生の割り振りを含めた具体的な実施方法については、それぞれ次のとおりであり、シラバスの各回の内容等についても資料5-1、資料5-2、資料5-3のとおり改める。

資料5-1: シラバス(理学療法総合実習) 変更後・変更前

資料5-2: シラバス(作業療法総合実習Ⅰ) 変更後・変更前

資料5-3: シラバス(作業療法総合実習Ⅱ) 変更後・変更前

1) 理学療法総合実習(補正申請時:理学療法総合演習)の実施方法

理学療法学科の学生80名を17グループに分け、1グループ(学生数4~5名)につき1名の専任教員を配置し、ゼミ形式で進める。また、本授業科目の学生数は40名(40名×2教室、合計80名)を1教室当たりの最大学生数としており、80名を1教室で授業を行うことはなく、担当教員は、8名と9名に分かれて行う。教室全体で行う回とグループで行う回は次のとおりであり、オリエンテーションの回とプレゼンテーションの回以外はグループ単位で行う。

1教室40名全体で行う回 : 第1回、第12回、第13回

5~6名グループで行う回 : 第2~第11回、第14回、第15回

本授業科目では、グループで問題解決の方法を考案し、解決策を検討・提案できることを目標としている。グループにおいて情報を整理し、問題点を抽出し、調査・研究計画の検討、立案を行うとともに、プロジェクトの企画までを行う。チームとして意見交換しやすく、各学生が活躍・貢献可能な人数であることを考慮し、4~5名とした。

2) 作業療法総合実習Ⅰの実施方法

作業療法学科の学生40名を1グループ5名の8グループに分け、2グループにつき1名の専任教員(総計4名)を配置し、グループワーク形式で進める。本科目の担当教員は5名であり、残りの1名は、総合的な指導・統括を行う位置に配置する。教室全体で行う回とグループで行う回は次のとおりであり、オリエンテーションの回と発表の回以外はグループ単位で行う。

- 1 教室 40 名全体で行う回 : 第 1 回、第 10 回～第 13 回
5 名グループで行う回 : 第 2 回～第 9 回、第 14 回、第 15 回

本授業科目ではグループでの問題の抽出、アプローチ法の検討、発表、レポート作成をチームで行う。そのため、一人一人が意見交換しやすく、各人が活躍・貢献出来る人数として 1 グループ 5 名に設定した。また、第 10 回～第 13 回の発表に関しては、20 分発表、20 分質疑応答、5 分間は統括する教員からのフィードバックの時間とする。発表時には、グループ担当教員が発表時の座長を務め、発表内容の補足説明等を行い、グループ発表における学生の理解を深める。また、5 名で行うグループ実習においては、少人数ということで、役割の確立や意見交換が行いやすい状況を作ることで、互いに知識や技術、その他得た情報の共有を行いながら応用・発展した問題点の発見、解決策の模索を行っていく。担当教員は情報交換や、検討時にファシリテータとして適宜関与しながら進めていく。

3) 作業療法総合実習Ⅱの実施方法

作業療法学科の学生 40 名を 1 グループ 5 名の 8 グループに分け、2 グループにつき 1 名の専任教員（総計 4 名）を配置し、グループワーク形式で進める。本授業科目の担当教員は 5 名であり、残りの 1 名は、総合的な指導・統括を行う位置に配置する。教室全体で行う回とグループで行う回は次のとおりであり、オリエンテーションの回と発表の回以外はグループ単位で行う。

- 1 教室 40 名全体で行う回 : 第 1 回～第 3 回、第 10 回～第 13 回
5 名グループで行う回 : 第 4 回～第 9 回、第 14 回、第 15 回

本授業科目では地域生活障がい者の体験談を聞くことで、疾患や障害を抱えながら地域生活障がい者としての生活像や障害像をイメージした後、グループでの問題の抽出、アプローチ法の検討、発表、レポート作成をチームで行う。そのため、一人一人が意見交換しやすく、各人が活躍・貢献出来る人数として 1 グループ 5 名に設定した。また、第 10 回～第 13 回の発表に関しては、20 分発表、20 分質疑応答、5 分間は統括する教員からのフィードバックの時間とする。発表時には、グループ担当教員が発表時の座長を務め、発表内容の補足説明等を行い、グループ発表における学生の理解を深める。また、5 名で行うグループ実習においては、少人数ということで、役割の確立や意見交換が行いやすい状況を作ることで、互いに知識や技術、その他得た情報の共有を行いながら応用・発展した問題点の発見、解決策の模索を行っていく。担当教員は情報交換や、検討時にファシリテータとして適宜関与しながら進めていく。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 是正事項6(3)、作業療法学科 是正事項6(3)】

5. 【全体計画審査意見9の回答について】 <総合科目の実施方法等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。

(3) 「協働連携論総合実習」の実施方法について、「理学療法学科80名、作業療法学科40名の合計120名を各学科4グループに分け、理学療法学科20名、作業療法学科10名の合計30名を1教室の構成人数」としている。さらに、「理学療法学科3名、作業療法学科2名の5名を1グループとし、1教室を6グループ構成とする」との記載があるが、全30回の授業のうち、グループによる実習は数回であると見受けられ、そのグループ単位が30名のグループなのか、5名のグループなのか不明確である。また、グループによる実習以外の授業を、両学科合計120名が同時に履修するのか、それとも30名又は5名のグループ単位で履修するのかも不明確である。「協働連携論総合実習」の実施方法について、各グループの位置付けも踏まえ、明確に説明すること。さらに、当該科目の履修年次の妥当性についても、明確に説明すること。

(対応)

総合科目「協働連携論総合実習」について、授業回ごとのグループ構成について不明確な記載となっていたため、次の通りとし、シラバスの備考欄に明記した。また、本授業の学生数は30名(30名×4教室、合計120名)を1教室当たりの最大学生数としており、120名を1教室で授業を行うことはない。

- ①1教室30名 : 第1回～第6回、第8回、第25回～第28回
- ②5名グループ : 第7回、第9回～第24回、第29回、第30回

また各グループの位置づけは次のとおりである。

- ①1教室30名 : 授業内容の主体が講話、または発表の場合は、30名のグループにて実習を行う。体験談からは知識・情報の共有、発表では質疑・応答による意見交換を多く取り入れることを目的としているため30名としている。
- ②5名グループ : 本授業科目ではリハビリテーションチームとして、問題点解決へのアプローチを想像し、解決策を検討・提案できることを目標としている。グループでの問題の抽出、アプローチ法の検討、発表、レポート作成をチームとして、意見交換しやすく、各人が活躍・貢献出来る人数としている。

実施方法については、いずれのグループにおいても30名あたり、学科の異なる教員(担当教員、助手)2名を配置する。①の30名グループにおいては担当教員、ゲストスピーカーによる講話のあと質疑応答の機会を設け、情報・知識の共有を深める形で進めていく。②の5名グループにおいては、少人数ということで、役割の確立や意見交換が行いやすい状況を作ることで、チームとして所属学科の専門的観点から意見交換を行い、応用・発展した問題点の発掘、解決策の模索を行っていく。2名の教員を配置することで、少人数グループの情報交換や、検討にファシリテータとして適宜関与しながら進めていく。

以上の実習を通じて、学部の DP4 に該当する「地域及び地域住民が抱える課題を発見することができ、解決するための方法を論理的に考案することができる」と DP5 に該当する「専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を想像することができる」を主として涵養することが本授業科目の目的となる。

地域で生活する障がい者の講話から、それまでに履修した知識を総合して、地域における課題を想像する上で、必要となる知識として、理学療法学科では、3年次前期の「地域包括ケア論」、3年次後期の「福祉工学地域活用論」及び「ロボット工学地域活用論基礎・応用」、4年次前期の「理学療法地域実習」などが挙げられる。また、作業療法学科では、3年次前期の「家族援助論」及び「住環境支援論」や、3年次後期の「精神障がい者就労環境論」及び「身体障がい者就労環境論」、4年前期の「作業療法地域実習」などが挙げられる。

本授業科目は、地域で生活する障がい者の体験談から、その実態を想像する能力が必要となり、すべての臨地実務実習とともに、上述の授業科目を履修し終えた4年次後期に配置することが妥当であると考えている。

資料 5-4：シラバス（協働連携論総合実習）変更後・変更前

新	旧
<p>4) 同時に授業を行う学生数</p> <p><u>本学は、全ての授業科目を 40 名以下の人数で行う。選択科目についても、受講者が 40 名を超える場合は、2 回授業を開講することで対応する。</u></p>	<p>4) 同時に授業を行う学生数</p> <p>理学療法学科及び作業療法学科共に 40 人以下で授業を行うことを原則とし、40 人以上で行う授業科目は、総合科目の「協働連携論総合実習」のみである。本科目は、理学療法学科及び作業療法学科が合同で行うため、最大人数は、入学定員の 120 名となる。協働連携論総合実習は、理学療法学科、作業療法学科の学生が一緒になり、リハビリテーションチームとして、障がい者が抱える生活課題の発見と解決のために思考することで、実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを目的にした科目である。そのため、両学科の学生が同時に受講する必要があることが、受講人数が 40 名を超える理由である。</p> <p>授業形態としては、理学療法学科 80 名、作業療法学科 40 名の合計 120 名を各学科 4 グループに分け、理学療法学科 20 名、作業療法学科 10 名の合計 30 名を 1 教室の構成人数とする。さらに、理学療法学科 3 名、作業療法学科 2 名の 5 名を 1 グループとし、1 教室を 6 グループ構成とすることで、小グループでのグループディスカッションができる環境を設定する。なお、1 教室には学科の異なる担当教員及び補助教員(科目担当以外の専任教員)の 2 名を配置する。そのため、2 名の教員に対して学生が最大 30 名となることから学習において学生に不利益が生じることはない。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 是正事項7、作業療法学科 是正事項7】

6. 【全体計画審査意見10の回答について】<適切な学修時間を勘案した単位設定となっているか不明確>

1 単位科目の単位設定の考え方について、「2 単位 30 時間の内容を 1 単位 30 時間とし、本学では授業内でより丁寧な指導を行うために、科目数を増やすことで学生の理解を深めることとした」との説明があったが、学生の総学修時間が長時間化し、各科目で求められている予習・復習時間を十分に確保できないことが懸念されることから、専門職大学設置基準第14条第2項に定める「授業時間外に必要な学修等」に考慮した単位設定となっているか、時間割も含め、明確に説明すること。

(対応)

補正申請時の審査意見への対応において、誤解を招く表現を行ってしまっていたため、改めて、単位設定の考え方を説明させていただきたい。

まず、専門職大学設置基準（以下、「設置基準」と呼ぶ。）及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則（以下、「指定規則」と呼ぶ。）との関係から、本学としての基本的な単位設定の考え方を述べる。続いて、それを踏まえた上で、各授業科目の単位設定の考え方と 授業内・外の学修時間の配分について述べる。その上で、時間割表を示すことで、各授業科目で求められる予習・復習時間が、十分に確保可能であることを示す。

1) 設置基準と指定規則からの考え方

設置基準第14条では、講義・演習の授業時間について15時間から30時間で1単位、実習の授業時間について30時間から45時間で1単位と規定されている。また、第29条では、卒業要件として124単位のうち、基礎科目20単位以上、職業選択科目60単位以上、展開科目20単位以上及び総合科目4単位以上と規定されている。

一方、指定規則が、2020年4月に施行され、理学療法士養成課程・作業療法士養成課程ともに、最低履修単位数が93単位から101単位に引き上げられた。併せて、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン（以下、「ガイドライン」と呼ぶ。）において、最低履修時間数がはじめて規定され、理学療法士養成課程では、3,120時間、作業療法士養成課程では、3,150時間とされた。また、指定規則の別表において、理学療法士養成課程について、基礎分野が14単位、専門基礎分野が30単位、専門分野が57単位（うち臨床実習20単位）と規定されており、作業療法士養成課程については、基礎分野が14単位、専門基礎分野が30単位、専門分野が57単位（うち臨床実習22単位）と規定された。

理学療法士養成課程について、指定規則での単位数の内訳と総時間から推し量ると、基礎分野210時間、専門基礎分野900時間、専門分野2,010時間（うち臨床実習900時間）が目安となる。つまり、基礎分野で1単位あたり15時間（210時間/14単位）、専門基礎分野で1単位あたり30時間（900時間/30単位）、専門分野（臨床実習を除く）で1単位あたり30時間（1,110時間/37単位）、臨床実習で1単位あたり45時間（900時間/20単位）となる。また、作業療法士養成課程について、指定規則での単位数と総時間から推し量ると、基礎分野210時間、専門基礎分野900時間、専門分野2,040時間

(うち臨床実習 990 時間) となる。つまり、基礎分野で 1 単位当たり 15 時間 (210 時間/14 単位)、専門基礎分野で 1 単位あたり 30 時間 (900 時間/30 単位)、専門分野 (臨床実習を除く) で 1 単位あたり 30 時間 (1,050 時間/35 単位)、臨床実習で 1 単位当たり 45 時間 (990 時間/22 単位) となる。

以上を踏まえた上で、設置基準及び指定規則と本学教育課程の対応は次の表のとおりとなる。なお、展開科目については、「専攻に係る特定の職業の分野に関連する分野における応用的な能力」を涵養することを目的とした授業科目であり、指定規則上の授業科目とは対応しないため、「その他」の欄を設け、記載している。

理学療法学科

【理学療法学科】	理学療法士作業療法士 学校養成施設指定規則	基礎分野			専門基礎分野			専門分野					その他	計	
		科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎理学療法学	理学療法管理学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学			臨床実習
		授業時間数	210h(推)	900h(推)			1,110h(推)					900h(推)		3,120h	
専門職 大学 設置 基準	①基礎科目	20	20												20
	②職業専門科目 理学療法理論科目群	40		14	14	2									30
	③職業専門科目 職業実践科目群(④除く)	(60-④)					6	2	5	21	3				37
	④臨地実務実習	20										20			20
	⑤展開科目	20											20		20
	⑥総合科目	4				2			1	1					4
	合計単位数	124	20	14	14	4	6	2	6	22	3	20	20		131
	指定規則上の授業科目の授業時間数	最小300h 最大315h	855h			1,080h					900h		最小3135h 最大3150h		
	合計授業時間数 (全体)	最小300h 最大315h	855h			1,080h					900h	最小300h 最大330h	最小3,435h 最大3,480h		

作業療法学科

【作業療法学科】	理学療法士作業療法士 学校養成施設指定規則	基礎分野			専門基礎分野			専門分野					その他	計	
		科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎作業療法学	作業療法管理学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法学			臨床実習
授業時間数	210(推)	900h(推)			1,050h(推)					990(推)		3,150h			
専門職 大学 設置 基準	①基礎科目	20	20												20
	②職業専門科目 作業療法理論科目群	40		13	14	3								30	
	③職業専門科目 職業実践科目群(④除く)	(60-④)					5	2	5	18	4			34	
	④臨地実務実習	20										22		22	
	⑤展開科目	20											20	20	
	⑥総合科目	4				2			1	1				4	
	合計単位数	124	20			13	14	5	5	2	6	19	4	22	130
	指定規則上の授業科目の授業時間数		最小300h 最大315h	855h			1,005h					990h		最小3,150h 最大3,165h	
合計授業時間数(全体)		最小300h 最大315h	840h			1,005h					990h	最小390h 最大405h	最小3,540h 最大3,570h		

資料 6-1: 設置基準及び指定規則と本学教育課程の対応表

学生は、指定規則上の授業科目とは別に展開科目 20 単位分の学修が必要となるため、指定規則上の授業科目について理学療法学科で総学修時間 3,120 時間のところ、3,135 時間から 3,150 時間、作業療法学科で 3,150 時間のところ、3,150 時間から 3,165 時間とし、学生に過度な負担をかけないように配慮した。

また、指定規則上の最低授業時間数である 3,120 時間(理学療法学科)と 3,150 時間(作業療法学科)に、展開科目の最低授業時間数である 300 時間(1 単位 15 時間×20 単位)を加えた 3,420 時間と 3,450 時間が設置基準及び指定規則を満たす最低授業時間数となる。

一方、本学の総授業時間数は、表のとおり、理学療法学科で、3,420 時間が最低基準のところ、3,435 時間から 3,480 時間、作業療法学科で、最低基準が 3,450 時間のところ、3,540 時間から 3,570 時間となる。これは、設置基準及び指定規則を遵守した上で、特色ある教育課程を組むことを考えた結果としての総授業時間数であり、予習・復習時間を確保できるものと考えている。

2) 各授業科目の単位設定の考え方と講義内一外の学修時間の配分

続いて、各授業科目の単位設定の考え方と講義内一外の学修時間の配分について説明する。資料 6-2 において、講義科目における単位と授業時間を整理した。併せて、資料 6-3 において、全ての授業科目の単位数と授業時間を整理した。以下では、各授業科目の単位設定の考え方と講義内一外の学修時間の配分について、①1 単位 15 時間の講義科目、②2 単位 30 時間の講義科目、③1 単位 30 時間の講義科目、④2 単位 60 時間の講義科目、⑤1 単位 30 時間の演習科目・実習科目、⑥1 単位当たり 45 時間の臨地実務実習科目・実習科目ごとに説明を行う。

資料 6-2：講義科目における単位と授業時間の整理表

資料 6-3：教育課程等の概要【改変】

①1 単位 15 時間の講義科目

基礎科目と展開科目における 1 単位 15 時間の授業科目は、リハビリテーション学部のディプロマ・ポリシー（以下、「DP」と呼ぶ。）1「生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。」及び DP5「理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。」のうち、特に DP1 の「幅広い教養」を涵養することや、DP5 の「多職種と連携」する能力を涵養する目的で設定した。既存の大学が一般的に採用する 2 単位 30 時間の科目ではなく、1 単位 15 時間の講義で行える授業科目を多数用意することによって、卒業までに多くの科目を履修できるようにした。そうすることによって、教養の幅を広げ、多職種と連携する際の基盤を築くことを企図した。

職業専門科目における 1 単位 15 時間の科目については、配当年次の順次性の観点から単位設定を行った。例えば、理学療法学科 1 年次前期の「基礎理学療法学Ⅰ」は、1 年次後期の「基礎理学療法学実習Ⅰ」の前段階として学修される。医学の基礎となる解剖学や生理学の進捗に応じて、段階的に授業科目を配置することによって、教育効果を高めることが可能であると考えた。作業療法学科においても、同様の考えに立っており、職業専門科目に 1 単位 15 時間の科目を用意した。

いずれの場合も講義内外の学修時間の配分については標準的な配分と考えている。

②2 単位 30 時間の講義科目

展開科目のうち 30 時間分の講義が必要な授業科目については、2 単位 30 時間とした。教授すべき内容が多いため、講義時間を 30 時間（15 回）とっており、学生の予習・復習時間を十分に設けることで主体的な学修を促すことを企図している。この場合も講義内外の学修時間の配分については標準的な配分と考えている。

③1 単位 30 時間の講義科目

1 単位 30 時間の授業科目は、全て職業専門科目（理学療法／作業療法理論科目群）と職業専門科目（職業実践科目群）である。講義の中で、物（義肢・装具・評価器具・疾患の画像・標本）や環境（ADL 室や補装具室）を必要とし、かつ、教員が説明しなければ理解しにくいいため、講義時間内に知識の定着を図れるようにする。そのため、講義時間数に比し、予習・復習の時間数を軽減している。なお、演習室、実習室、補装具室、水浴室などについて、授業のない時間は学生に開放し、予習・復習ができるようにする。

④2 単位 60 時間の講義科目

2 単位 60 時間の授業科目は、職業専門科目（理学療法／作業療法理論科目群）に該当する「解剖学Ⅰ・Ⅱ」及び「生理学Ⅰ・Ⅱ」のみである。難解な専門用語が多く、内容的にも膨大で、分厚い教科書・参考書を読むという予習は、学生にとって難しい。講義の中で一から解きほぐし十分理解させたうえで、参加型授業形態（いわゆるアクティブラーニング）をとり、知識の定着を図る。そのため、予習・復習

の時間比率は低い。

⑤1 単位 30 時間の演習科目・実習科目

演習科目・実習科目については、物（義肢・装具・評価器具・疾患の画像・標本）や環境（ADL 室や補装具室）を必要とし、いわゆる「知識習得型」教育ではなく、「体験型」教育の範疇に属する授業科目である。授業時間内での学修効果が高いため、1 単位当たりの授業時間を 30 時間、予習・復習時間を 15 時間の配分とした。

⑥1 単位あたり 45 時間の臨地実務実習科目及び実習科目

設置基準における臨地実務実習は、臨床実習にあたり、ガイドラインにおいて 1 単位当たり、40 時間以上と規定されている。基本的に、臨地実務実習先においてその授業科目が完結し、実習での到達度が評価の対象となるため、1 単位あたり 45 時間の授業時間とした。

1 単位あたり 45 時間の実習科目は、臨地実務実習と同様に、全て学外での実習となり、基本的には、実習先においてその授業科目が完結し、実習での到達度が評価の対象となるため、臨地実務実習にない 1 単位あたり 45 時間の授業時間とした。

3) 授業時間外の学修時間の確保について

最後に、時間割表を示すことによって、各授業科目で求められている予習・復習時間を十分に確保できていることを示す。

(1) 時間割表について

資料 6-4、資料 6-5 が、理学療法学科、作業療法学科の時間割表である。1 単位 15 時間・8 回の授業科目があるため、便宜的に、半期を前半（8 週）、後半（8 週）に分け、16 期間（1 年生前期（前半）～4 年生後期（後半））ごとに時間割表を作成した。選択科目については、卒業要件を満たすために必要な授業科目数としている。なお、1 単位 45 時間の臨地実務実習や学外での実習については、授業時間外の学修時間を想定していないため、時間割表からは除いている。

資料 6-4：時間割表（理学療法学科）

資料 6-5：時間割表（作業療法学科）

本時間割には、当該期間に、授業科目ごとに必要な授業時間外の学修時間を次のように算出した。

授業科目の区分	当該期間の時間外学修時間	理由
1 単位 15 時間の授業科目	30 時間	当該期間のみで 30 時間 (45 時間-15 時間) の時間外学修が必要となるため
1 単位 30 時間の授業科目	7.5 時間	前半・後半で 15 時間 (45 時間-30 時間) の時間外学修が必要であり、当該期間についてはさらに半分の 7.5 時間必要となるため。
2 単位 30 時間の授業科目	30 時間 (2 単位)	前半・後半で 60 時間 (90 時間-30 時間) の時間外学修が必要であり、当該期間についてはさらに半分の 30 時間必要となるため。
2 単位 60 時間の授業科目	7.5 時間 (1 単位)	前半・後半ともに 2 回の授業を行うこととなるため、1 回あたりは、1 単位 30 時間の科目として表現することとしたため。

(2) 1 日当たりの平均時間外学修時間と 1 日当たりの平均空き時間

以上の時間割表をもとに、学生が時間外学修を行う余裕があるかを検証するために、「1 日当たりの平均時間外学修時間」と「1 日当たりの平均空き時間」という概念を導入し、その数値を表にまとめたのが、資料 6-6 となる。

資料 6-6 : 1 日当たりの平均時間外学修時間と 1 日当たりの平均空き時間

① 「1 日当たりの平均時間外学修時間」

1 日当たりの平均時間外学修時間は、各期間において必要な時間外学修の総計を期間 (8 週間) で割り、その値をさらに、7 日 (1 週間) で割ることによって、算出を行った。そのため、授業のない土・日においても、授業のある平日と同様の時間、時間外学修を行った場合の数値となる。なお、計算式は次のとおりである。

$$\text{「1 日当たりの平均時間外学修時間」} = 1 \text{ 期間の総時間外学修時間} / 8 \text{ (週)} / 7 \text{ (日)}$$

② 「1 日当たりの平均空き時間」

学内にいる時間帯で、授業がない時間 (昼食時間除く) は、予習・復習等の時間外学修にあてることが可能な時間である。「1 限の開始時間 (9 時 00 分) から 5 限の終了時間 (17 時 50 分)」から「昼食時間」と「授業と授業の間の時間」を引いた時間がそれにあたる。1 日当たりの平均空き時間は、時間外学修時間を履行できるかどうかを判断する際の基準となると考え、期間ごとに算出を行った。なお、1 日当たりの平均空き時間を導出する計算式は次のとおりである。

「1日当たりの平均空き時間」

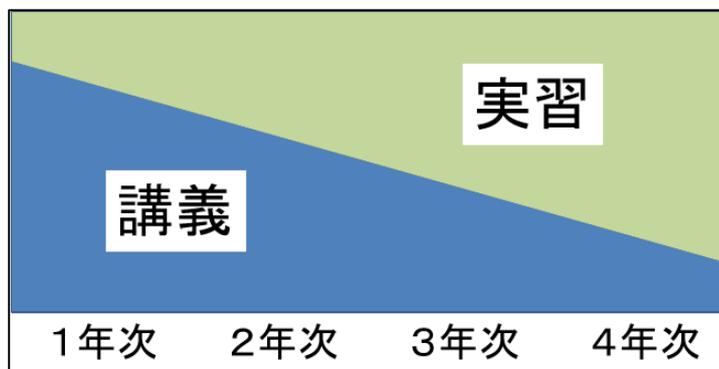
=5回(1日の最大授業回数) - 「1日当たりの平均授業回数」×1.5時間

※「1日当たりの平均授業回数」=「月曜日から金曜日までの総授業回数」÷5日(月曜日から金曜日)

(3) 時間外学修時間の確保について

理学療法士・作業療法士の養成課程では、講義の後に実習を行う組み立てになっているため、1年次及び2年次は講義形式の授業科目が多くなる。そのため、学年が進行するにしたがって、講義形態をとる授業科目が減り、実習形態の科目が増加することになる。本学の時間割から、授業時間外の学修時間の状況を算出すると、1年次から4年次までの1日当たりの平均時間外学修時間の最大値は、理学療法学科1年次前期4.4時間、作業療法学科1年次前期5.3時間となっており、両学科とも1年次前期が最も長い。特に1年次は基礎科目が多い上に、職業専門科目の理学療法／作業療法理論科目群の講義が配置されているためである。そのため、自宅や学外、あるいは土日の時間外学修が当然に発生することとなる。

予習・復習など時間外学修に必要な時間は、講義形式の基礎科目や職業専門科目の理学療法／作業療法理論科目は、必然的に長くなるが、実習形式の科目は、環境・設備が必要となるため、予習や復習を行うには時間以外の制約が多く、時間外学修時間は少なくなる。このことから、1年次は予習・復習に費やす時間多くなるが、学年が進行していくと、実習形式の授業科目が増えるため、予習・復習に必要な時間も少なくなり、余裕を持つことができ、各科目で求められている予習・復習時間を十分に確保した単位数及び授業時間数となっている。



また、図書館、学生ホール、大教室2部屋については、平時は学生に開放するとともに、前述のとおり実習室等についても授業のない時間帯は開放をするため、学生が授業のない時間帯に、時間外学修に取り組める環境を整えている。その他、情報処理室、図書室及び学生ホールには、ネットワーク環境を整備しており、ネットワーク経由で情報を収集できる環境も確保している。

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 改善事項8、作業療法学科 改善事項8】

7. 【全体計画審査意見 17 の回答について】 <国家試験受験資格の位置付けに係る記載が不適切>
本学が、国家資格の取得のみならず、本学科における教育全般に対して責任を負うことに照ら
せば、「そのため、学生が国家資格を取得できるよう本学として責任を持って取り組む。」との記
載は不適切であることから削除すること。

(対応)

「そのため、学生が国家資格を取得できるよう本学として責任を持って取り組む。」と記載したが、本
学が、教育全般に対して責任を負うことに照らし、不適切であったため、以上の一文を削除することで、
本改善事項への対応とする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 74 頁

新	旧
<p>理学療法士・作業療法士というリハビリテーシ ョンの専門家を養成することが、本学の根幹とな るため、理学療法学科の学生は、理学療法士の国 家資格を取得することが、また、作業療法学科の 学生は、作業療法士の国家資格を取得すること が、主要な目標となる。そのため、学生が国家資 格を取得できるよう本学として責任を持って取 り組む。</p>	<p>理学療法士・作業療法士というリハビリテーシ ョンの専門家を養成することが、本学の根幹とな るため、理学療法学科の学生は、理学療法士の国 家資格を取得することが、また、作業療法学科の 学生は、作業療法士の国家資格を取得すること が、主要な目標となる。そのため、学生が国家資 格を取得できるよう本学として責任を持って取 り組む。</p>

【教員組織等】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 是正事項9、作業療法学科 是正事項9】

8. 【全体計画審査意見19の回答について】<専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>
専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分との指摘に対応し、理論系の専任教員が補充された
が、依然として専攻分野に係る理論系の専任教員が適切に補充されたとは認められないため、
是正すること。

(対応)

ご指摘を受け、専攻分野に係る理論系の専任教員を、理学療法学科で5名(そのうち前回職位不適格
となった者は3名)、作業療法学科で2名(そのうち前回職位不適格となった者は0名)補充した。本
学として、専攻分野に係る理論系の専任教員を、「実務の経験等を有する専任教員ではなく、理学療法学
科においては理学療法士の国家資格を有した者、作業療法学科においては作業療法士の国家資格を有し
た者」と理解し、本是正事項へ対応した。補充した者の略歴と担当科目は、両学科それぞれ次のとおり
である。

なお、補充した専任教員のうち2名は本学の定年(65歳)を超えており、教員の年齢構成が比較的高
齢に偏ってしまったため、教育研究の維持継続の観点から、今後の対応方針についても述べる。

1) 補充教員(理学療法学科)

専攻分野に係る理論系の専任教員について、2名はこれまでの教育歴と各専門分野における業績とを
鑑み教授の候補とした。前回職位不適格となった3名と合わせて、5名を補充した。

・千住秀明 教授(候補)

専門分野：内部障害系理学療法

担当科目：「内部障害系理学療法実習Ⅰ・Ⅱ」、「内部障害応用論実習」、「理学療法総合実習」

昭和49年3月	九州リハビリテーション大学校	理学療法学科	卒業	
昭和49年4月	星ヶ丘厚生年金病院	理学療法士	(昭和51年11月まで)	
昭和51年12月	国立療養所近畿中央病院附属	リハビリテーション学院	理学療法士(昭和54年12月まで)	
昭和55年1月	国立療養所近畿中央病院附属	リハビリテーション学院	専任教員(昭和60年3月まで)	
昭和57年3月	大阪産業大学工学部	機械工学科	卒業	
昭和60年4月	長崎大学医療技術短期大学部	理学療法学科	講師(昭和63年3月まで)	
昭和63年4月	長崎大学医療技術短期大学部	理学療法学科	助教授(平成13年9月まで)	
平成11年3月	学位取得	博士(医学)	(長崎大学)	
平成12年2月	Curtin 工科大学	理学療法学科	留学(文部省在外研究員)(平成12年11月)	
平成13年10月	長崎大学医学部	保健学科	理学療法専攻教授(平成27年3月まで)	
平成18年4月	長崎大学大学院	医歯薬学総合研究科	保健学専攻教授(平成27年3月まで)	
平成22年4月	長崎大学大学院	医歯薬学総合研究科	医療科学専攻教授(平成27年3月まで)	
平成27年4月	公益財団法人	結核予防会複十字病院	(現在に至る)	
平成28年1月	長崎大学大学院	医歯薬学総合研究科	新興感染症病態制御学系専攻抗酸菌感染症学講座	連携大学院 教授(現在に至る)

理学療法士養成の教育に長い経験があり、かつ大学院教育にも10年以上携わり、理学療法士の研究者育成にも貢献してきた。また、内部障害系理学療法の中でも呼吸リハビリテーションの分野での業績は突出しており、長年に渡り呼吸理学療法の業務及び研究を第一線で牽引し、現在も呼吸器疾患の臨床現場で理学療法士の指導と研究に携わっている。よって、本学科の教授として、また上記科目の担当者として相応しいと考え補充した。

・**富田昌夫 教授（候補）**

専門分野：中枢神経系理学療法、臨床運動学

担当科目：「神経障害系理学療法学実習Ⅰ」、「神経筋骨格障害応用論実習」、「理学療法総合実習」

昭和43年4月	茨城大学工学部電子工学科	卒業
昭和50年1月	国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院	卒業
昭和50年1月	神奈川リハビリテーション病院	勤務（昭和55年12月まで）
昭和56年4月	スイス バレンツ病院	勤務（昭和60年12月まで）
昭和61年4月	神奈川リハビリテーション病院	勤務（平成15年3月まで）
平成15年4月	藤田保健衛生大学 衛生学部 看護学科	教授
平成16年4月	藤田保健衛生大学 衛生学部 リハビリテーション学科	教授
平成20年4月	藤田保健衛生大学 医療学部 リハビリテーション学科	教授
	藤田保健衛生大学大学院 保健学研究科	教授
平成24年4月	藤田保健衛生大学 医療科学部 リハビリテーション学科	客員教授（現在に至る）
	藤田保健衛生大学大学院 保健学研究科	客員教授（現在に至る）
	佛教大学 保健医療技術学部	客員教授（平成29年3月まで）
平成29年4月	森ノ宮医療大学 保健医療学部	客員教授（現在に至る）

理学療法士の教育に長年携わり、大学や大学院での教育及び研究指導に貢献してきた。また、中枢神経系障害に対する理学療法の業績が非常に多く、研究と臨床において常に研鑽を積んで、治療技術の開発と研究に長年携わっている。これらの理学療法士養成と理学療法水準の向上に対する熱意と行動は、多くの理学療法士の模範となっている。よって、本学科の教授としてまた上記科目の担当者として相応しいと考え補充した。

・**植田昌治 講師（候補）**

専門分野：心身相関、精神的要因、運動

担当科目：「日常生活活動学」、「地域理学療法学」、「基礎理学療法学Ⅰ」、「理学療法総合演習」、「リハビリテーション総合演習」、その他、全ての臨地実務実習

昭和 62 年 3 月	藍野医療技術専門学校	理学療法学科	卒業
昭和 62 年 4 月	京都市身体障害者リハビリテーションセンター	訓練課	勤務 (平成 5 年 3 月まで)
平成 5 年 4 月	藍野医療技術専門学校	理学療法学科	専任教員 (平成 11 年 3 月まで)
平成 12 年 4 月	藍野医療技術専門学校	理学療法学科	学科主任 (平成 16 年 3 月まで)
平成 16 年 4 月	藍野大学医療保健学部	理学療法学科	講師 (平成 20 年 3 月まで)
平成 20 年 4 月	藍野大学医療保健学部	理学療法学科	准教授 (平成 22 年 3 月まで)
平成 21 年 4 月	藍野学院短期大学(平成 24 年に藍野大学短期大学部に名称変更)	専攻科地域看護学専攻	非常勤講師(現在に至る)
平成 22 年 4 月	藍野大学医療保健学部	理学療法学科	教授 (現在に至る)
平成 28 年 4 月	藍野大学医療保健学部	理学療法学科	学科長補佐 (現在に至る)

・里中綾子 講師 (候補)

専門分野：リハビリテーション科学、福祉工学、スポーツ科学、応用健康科学

担当科目：「運動学Ⅱ」、「基礎理学療法学実習Ⅰ」、「基礎理学療法研究法」、「小児期理学療法学演習」、「理学療法総合演習」、「リハビリテーション総合演習」、その他、全ての臨地実務実習

平成 8 年 3 月	名古屋大学医療技術短期大学部	理学療法学科	卒業
平成 8 年 4 月	小山田記念温泉病院,	理学療法士	(平成 9 年 3 月まで)
平成 9 年 4 月	ふく田整形外科,	理学療法士	(平成 13 年 3 月まで)
平成 13 年 4 月	ひがし春日井病院,	理学療法士	(平成 21 年 12 月まで)
平成 14 年 4 月	障害者療護施設夢の家,	理学療法士	(非常勤, 平成 16 年 3 月まで)
平成 15 年 4 月	障害者療護施設麦の里,	理学療法士	(非常勤, 平成 18 年 3 月まで)
平成 16 年 4 月	障害者療護施設ハートランド小牧の杜,	理学療法士	(非常勤, 平成 18 年 6 月まで)
平成 21 年 3 月	名古屋大学大学院医学系研究科	リハビリテーション療法学専攻	博士前期課程 修了
平成 22 年 1 月	あさひ病院,	理学療法士	(平成 23 年 3 月まで)
平成 23 年 4 月	訪問看護ステーション仁,	理学療法士	(平成 24 年 3 月以降は非常勤勤務)
平成 24 年 3 月	名古屋大学大学院医学系研究科	リハビリテーション療法学専攻	博士後期課程 修了 学位取得 博士 (リハビリテーション療法学) (名古屋大学)
平成 24 年 4 月	愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所,	リサーチレジデント	(平成 25 年 12 月まで)
平成 24 年 4 月	名古屋大学医学部保健学科,	非常勤講師	(平成 25 年 12 月まで)
平成 26 年 1 月	名古屋大学大学院医学系研究科	ウェルビーイング in アジア	特任助教 (平成 30 年 3 月まで)
平成 30 年 4 月	名古屋大学大学院医学系研究科	ウェルビーイング in アジア	特任准教授 (現在に至る)

・堀寛史 講師 (候補)

研究分野：痛み、臨床哲学、理学療法学

担当科目：「哲学入門」、「基礎理学療法学Ⅱ」、「理学療法総合演習」、「リハビリテーション総合演習」、その他、全ての臨地実務実習

平成 11 年 3 月	西日本リハビリテーション学院	卒業
平成 11 年 4 月	医療法人 寿量会 熊本機能病院 総合リハビリテーション部	入職 (平成 15 年 3 月退職)
平成 15 年 3 月	放送大学 教養学部	卒業 学士 (教養)
平成 15 年 4 月	医療法人 光寿会 アラキ整形外科 リハビリテーション科	入職 (平成 17 年 3 月退職)
平成 17 年 3 月	熊本大学大学院文学研究科人間科学専攻	修了 修士 (文学)
平成 17 年 4 月	藍野大学 医療保健学部 理学療法学科	入職 助手
平成 20 年 4 月	藍野大学 医療保健学部 理学療法学科	助教
平成 21 年 3 月	大阪大学大学院文学研究科文化形態学専攻臨床哲学研究室	博士後期課程 単位取得後退学
平成 21 年 4 月	藍野大学 医療保健学部 理学療法学科	講師 (現在に至る)
平成 29 年 7 月	博士 (学術) 大阪大学文学研究科	取得

2) 補充教員 (作業療法学科)

専攻分野に係る理論系の専任教員について、2 名を補充した。教育歴と各専門分野における業績とを鑑み 2 名を講師の候補とした。

・辻村肇 講師 (候補)

専門分野：介護予防、福祉用具、認知症

担当科目：「基礎作業学実習Ⅰ」、「住環境支援論」、「地域生活作業療法学実習Ⅲ」、「地域包括ケア論」、「作業療法総合実習Ⅱ」、「地域生活作業療法学実習Ⅰ」、その他、全ての臨地実務実習

平成 5 年	大阪電気通信大学工学部電子物性工学科	卒業
平成 8 年	大阪電気通信大学大学院工学研究科博士課程前期	修了 修士 (工学)
平成 11 年	彦根モーターズ	勤務 (平成 14 年まで)
平成 19 年	サンビレッジ国際医療福祉専門学校作業療法学科	卒業
平成 19 年	雪野会介護老人保健施設ケアセンター蒲生野	勤務 (平成 26 年まで)
平成 22 年	大阪電気通信大学医療福祉工学部医療福祉工学科	客員准教授 (現在に至る)
平成 24 年	大阪電気通信大学大学院医療福祉工学研究科博士課程後期	修了 博士 (医療福祉工学)
平成 26 年	大阪滋慶学園鳥取市医療看護専門学校	作業療法学科長 (現在に至る)

老年期を対象者とした作業療法介入では、工学的な知識を使った環境適応への介入 (車椅子や福祉用具) の経験が豊富であり、そのような知識・技術研修会での実績も多い。また、「笑い」についての研究業績も多く、身体機能や環境適応といった側面だけでなく、対象者の生活の質、満足度に関する視点も兼ね備えている。このような研修は公民館や老人クラブ等で地域住民を対象に実施しており、「健康」や「笑い」をキーワードにした地域づくりの実践とその事例に基づく研究業績がある。このようなことから、幅広い作業療法の介入視点を学生に教育できる。よって、本学科の講師として、また上記科目の担当者として相応しいと考え補充した。

・園田悠馬 講師 (候補)

専門分野：認知症、神経リハビリテーション、神経難病、慢性痛、小児がん

担当科目：「身体障害作業療法評価学実習Ⅱ」、「老年期障害作業療法学実習」、「身体障害作業療法基礎技術論」、「作業療法評価学総論」、「協働連携論総合実習」、その他全ての臨地実務実習

平成 15 年	福井医療技術専門学校作業療法学科	卒業
平成 15 年	セラピット リハ・リハ	勤務（平成 23 年まで）
平成 17 年	神戸大学医学部保健学科作業療法学専攻	卒業
平成 19 年	神戸大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程前期	修了 修士（保健学）
平成 22 年	神戸大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程後期	修了 博士（保健学）
平成 22 年	神戸大学保健学研究科川又研究室	研究員（平成 23 年まで）
平成 23 年	滋賀医科大学医学部附属病院リハビリテーション科	勤務（現在に至る）

大学病院にて、小児から高齢者、そして脳血管疾患や神経疾患だけでなく、がんや難病など幅広い疾患の作業療法介入の実践を行い、その業績も多い。研究は、医師らと協業している身体障害領域に関するテーマが多く、多職種にも実証できるエビデンスに基づいた作業療法介入を実践している。このような研究実績から作業療法士の育成とその水準の向上に重要となる者である。よって、本学科の講師として、また上記科目の担当者として相応しいと考え補充した。

3) 教員組織に関する対応方針

基本方針として、教員の退職の際には本学の教育研究活動に支障が生じないように、教育課程を担うことができる十分な教育研究業績を備え、かつ退職する教員の専門分野等を考慮した後任人事を行う。

その具体的な対応方針として、第一に、このたび補充を行った 2 名の専任教員について、完成年度を迎えるまで定年を超えて契約を延長することの議決を、2019 年（令和元年）6 月 24 日実施の令和元年度第 2 回評議員会及び第 3 回理事会の第 1 号議案「専門職大学設置認可申請に係る再補正申請について」において行った。

第二に、教育研究業績を積み重ねるための学内的な支援策として、1 週間に 1 日取得可能な「研究日制度」を実施する。その研究日制度を活用することにより、40 歳代以下の若手の教員は、高年齢教員により研究指導を受け、教育研究業績を積み上げることにより、准教授から教授、講師から准教授、助教から講師へと昇任を積極的に促し、本学としての教育研究活動の継続に支障をきたさないよう教員配置を行なっていく。

第三に、完成年度終了時に退職となる高年齢教員の後任採用については、2022 年度前期に教員採用に関する調整委員会を立ち上げ、将来を見据えた教員の昇任及び採用を計画的に実施することによって、年齢構成のバランスをとり、教育研究活動の継続性を図る。

以上のとおり、大学設置基準第 7 条第 3 項の「大学は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。」の主旨を十分にふまえ、将来にわたって本学の専任教員を確保し、教育研究活動体制の維持及び向上を図る。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 是正事項10、作業療法学科 是正事項10】

9. 【全体計画審査意見21の回答について】 <専任教員数が設置基準を満たしていない>

専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

この度の教員審査の結果として、理学療法学科、作業療法学科の専任教員数は、それぞれ次の表のとおりであり、専門職大学設置基準の規定を満たしている。なお、次の表には、職位不適格となった者は含んでいない。

補正申請における教員審査を受けての専任教員数（理学療法学科）

区 分	教授		准教授		講師		助教		合計	
	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準
専任教員	6	4	6	-	7	-	0	-	19	8
うち実務の経験等を有する専任教員	1	-	4	-	6	-	0	-	11	4
うち実（研）	1	-	3	-	1	-	0	-	5	2

※実数は教員審査の結果を受けての人数を、基準は、専門職大学設置基準上必要な人数を表す。

補正申請における教員審査を受けての専任教員数（作業療法学科）

区 分	教授		准教授		講師		助教		合計	
	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準
専任教員	7	4	2	-	1	-	4	-	14	8
うち実務の経験等を有する専任教員	0	-	1	-	1	-	4	-	6	4
うち実（研）	0	-	1	-	1	-	1	-	3	2

補正申請における教員審査を受けての専任教員数（大学全体の合算）

区 分	教授		准教授		講師		助教		合計	
	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準
専任教員	13	12	8	-	8	-	4	-	33	24
うち実務の経験等を有する専任教員	1	-	5	-	7	-	4	-	17	11
うち実（研）	1	-	4	-	2	-	1	-	8	6

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 是正事項11、作業療法学科 是正事項11】

10. 【全体計画審査意見 24 の回答について】 <十分な研究室のスペースが確保されているか不明
確>

「助教・助手室 (研究室 25)」について、面積 52.00 m²のスペースに対して 8 人の教員が使用する計画となっており、教員一人当たりの面積は 6.50 m²と窮屈と考えられることから、教員が研究や学生指導を行うために必要なスペースが確保されているか疑義がある。教育研究上支障のないスペースが確保されているか、明確に説明するとともに、必要に応じて改めること。

(対応)

ご指摘を受け、助教・助手室 (研究室 25) について、研究や学生指導を行うために必要なスペースが確保できていないと認識したため、次の①から⑧の変更と専任教員の割り振りの見直しを行ったことにより、専任教員 (教授、准教授、講師、助教) 1 人当たりの研究室の面積を最低で 15.04 m²、最大で 35.54 m²とし、研究や学生指導を行うために必要なスペースの確保を行った。変更の詳細は、資料 10-1 のとおりである。

- ①助教・助手室 (研究室 25) (現：共同研究室 (研究室 26)) を 3 人部屋 (全員助教) とした。
- ②補正申請時に、名称を記載していなかった学生サポート室 (2) の奥の部屋と運転手控室を助手室 (現：研究室 28、研究室 29) とした。
- ③個別研究室 (研究室 9) を共同研究室 (研究室 9) とし、1 人部屋から 2 人部屋とした。
- ④個別研究室 (研究室 10) を共同研究室 (研究室 10) とし、1 人部屋から 2 人部屋とした。
- ⑤個別研究室 (研究室 13) を共同研究室 (研究室 13) とし、1 人部屋から 2 人部屋とした。
- ⑥個別研究室 (研究室 15) を共同研究室 (研究室 15) とし、2 人部屋から 1 人部屋とした。
- ⑦共同研究室 (研究室 22) を個別研究室 (研究室 22)、個別研究室 (研究室 23) に部屋を分割した。
- ⑧専任教員を配置していなかった個別研究室 (研究室 26) (現、研究室 27) に 1 名配置した。

資料 10-1：専任教員の研究室の割り振り 新旧対照表

本学の教員はその研究の性質上、データの収集に使用する場所は、学外の病院、診療所、地域の学校、スポーツ現場、健康教室など、及び学内の実習室である。収集されたデータを持ち帰り分析する場合に、自身の研究室を用いパソコンを使用するが、今回のご指摘を受け、変更した面積で、研究は可能であると考えている。

また、学生指導に必要なテーブルとイスはすべての研究室に配置する。学生面談は、1 階の学生サポート室の隣に、面接室を 2 部屋用意しており、必要に応じて、こちらを利用することとする。

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科
共通 理学療法学科 改善事項12、作業療法学科 改善事項12】

11. 【全体計画審査意見26の回答について】＜図書等の更なる充実＞

図書等の整備について、より充実した環境整備が推進されるよう、養成する人材像に照らして、教育・研究に要する図書等の更なる拡充が望まれる。【2学科共通 理学療法学科 改善事項12、作業療法学科 改善事項12】

(対応)

ご指摘を受け、改めて、専門学校から転用する書籍、購入予定の書籍及び購入予定の電子書籍のリストを見直した結果、展開科目で学生に教授する授業科目に関する書籍が不十分であると認識したため、それらの書籍を200冊経年的に整備することとした。その書籍の一覧は資料11-1のとおりである。

さらに、専門職大学として、研究の方法について主として学生が学修できるよう45冊経年的に整備することとした。その書籍の一覧は資料11-2のとおりである。

また、理学療法学、作業療法学の教育・研究を進める上で、重要な書籍を追加で、理学療法学科40冊、作業療法学科48冊を経年的に整備することとした。その書籍の一覧は資料11-3、資料11-4のとおりである。

資料11-1：展開科目に係る購入予定の書籍一覧

資料11-2：研究の方法に係る購入予定の書籍一覧

資料11-3：理学療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

資料11-4：作業療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

【大学等の設置の趣旨・必要性】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科【理学療法学科 是正事項 2 (1)】

1 2. 【全体計画審査意見 2・8・11 の回答について】 < 3つの履修モデルが不明確 >

3つの「履修モデル」について、以下の観点で不明確なため、具体的に説明するとともに、必要に応じて修正すること。

(1) 理学療法学科における履修モデルについて、履修モデルごとに受講すべき職業専門科目の選択科目があらかじめ決定されているが、その関連付けが妥当なものか疑義があるほか、当該履修モデルの一つである「地域支援」については、他の2モデルと重複する内容を含んでいるように見受けられ、その設定が妥当なものか判断し難(がた)い。理学療法学科における履修モデルと職業専門科目の選択科目との関連付けの妥当性について、明確に説明するとともに、必要に応じて修正すること。

(2) 今回、3つの「コース・領域」を「履修モデル」として定義し直しているが、「学生の希望と2年次後期時点の累積 GPA を参考に、偏りが生じないように振り分ける」とされており、名称と運用とに不整合が生じている。また、「履修モデル」は履修選択の参考として例示するものであることから、運用方法を踏まえた適切な名称に修正すること。

(対応)

ご指摘を受けた上記の是正事項に対する対応について、(1)と(2)に重複する内容があるため、2つをまとめて、次のように順序立てて記述する。はじめに「履修モデル」の運用の見直しを説明した上で、職業実践科目の選択科目の扱いとそれに伴う卒業要件について記述する。次に、「履修モデル」について、「生活工学」(旧名称「地域支援」)の独立性を含めて、3つの履修モデルの内容を記述する。

1) 「履修モデル」の運用方法の見直し

当初(10月申請時点)、びわこリハビリテーション専門職大学(旧:藍野専門職大学)の特色を出すために、理学療法学科においては、3つのコースを設けると設置の趣旨等を記載した書類において論じた。しかし、補正申請における審査意見において、コースの趣旨や運用方法についてご指摘をいただき、再考したところ、一般に使われるコースには、本学が用意している教育課程の実施方法は適さないと判断し、履修モデルと定義し直し、補正申請を行った。また、この度のご指摘のとおり、履修モデルには該当しない運用(GPAによる振り分け、卒業要件への明記など)を実施すると記載を行ってしまっていた。そもそも、履修モデルとは、履修する際の参考例であり、目安である以上、それをもって、本学の特色・魅力として打ち出すこと自体が不適切であるとも認識した。

そこで、「履修モデル」は、コースのような体系性はなく、授業科目の選択に縛りがあるものでもない。学生に将来のキャリアパスを想定させ、「履修選択の参考として提示する例」とする。選択科目については、学生が自由に選択できるものとし、累積 GPA によって学生を振り分けず2回開講して対応する。

2) 職業実践科目の「選択科目の関連付け」の扱いについて

履修モデルごとに受講すべき職業専門科目の選択科目があらかじめ決定されていたが、その関連付けの妥当性について疑義があることをご指摘を受け、「履修モデル」の定義を学生に将来のキャリアパスを想定させ、「履修選択の参考として提示する例」と改めたことに伴い、選択科目についても、学生が自由に履修選択できるように改めた。それにより、履修モデルごとの職業選択科目との紐づけを解消するこ

とし、キャリアパスのための選択性を高め、より多くの専門性の高い技術を学び、視野の広い理学療法士を養成するという観点から、職業専門科目の3つの応用論実習「神経筋骨格障害応用論実習」、「内部障害応用論実習」及び「スポーツ障害応用論実習」のうち4単位以上を学生が自由に選択できるように変更した。

3) 卒業要件

履修選択の変更に伴い、卒業要件を次のとおり変更する。

学則に則り、本学に4年以上在籍し、所定の要件を満たして、131単位以上を修得した者に対し卒業を認定する。修得すべき授業科目は、講義の他に実習や演習、臨地実務実習の授業科目が含まれる。基礎科目を通じてなされた教養教育と、学科の特性に応じて編成された職業専門科目、展開科目、総合科目をともに修得しているかどうか、学士を授与する要件となる。

理学療法学科は、必須科目109単位、選択科目22単位以上、合計131単位以上を修得することを規定する。基礎科目は20単位以上、内訳は必修科目が10単位、選択科目が人間と社会系科目から6単位以上、自然科学系科目と語学教育系科目から4単位以上を選択する。職業専門科目は必修科目を83単位、選択科目は4単位以上を選択する。展開科目は必修科目12単位、選択科目は8単位以上を選択し、20単位以上とする。総合科目は必修科目を4単位とする。

ディプロマ・ポリシーに基づき、地域共生社会で活躍できるリハビリテーション人材の養成を謳っているため、職業専門科目では、医学系の理論科目と各学科の基盤となる職業実践科目を設定し、学科のリハビリテーション職としての質を保証した。また、展開科目は、地域共生社会を理解するための授業科目を必修科目とし、多様な視点を学ぶための授業科目を選択科目とした。そして、総合科目において、職業専門科目と展開科目での学修を統合することを企図した。

4) 履修モデル

履修モデル「地域支援」について、他の2つの履修モデルとは異なる設定を持つが、それが分かりにくい記載となっていたため、この履修モデルの名称を「生活工学」へと変更した。「生活工学」の履修モデルでは、リハビリテーション・福祉工学分野の知識を学修し、キャリア形成として就労支援事業所（作業所）、リハビリテーション機器開発企業、福祉機器メーカーなどを想定し、工学系の知識と技術をいかにして生活・就労環境に活用するかを学修する履修モデルである。そのため、「ヘルスプロモーション」や「生涯スポーツ」とは内容が異なる。

その上で、以下のとおり想定しているキャリア形成と関連付けて3つの履修モデルの違いを説明する。

ヘルスプロモーションに関連する就職先を希望するモデルは、将来のキャリア形成として地方自治体（健康教室・高齢者サロン）、健康増進施設、企業の健康推進室、健康関連企業などを想定している。本履修モデルでは、「体力測定論」で体力の客観的評価の重要性とその方法論を学修し、「健康増進実践演習」及び「健康増進実践実習」で運動の提供についての実践力を身に付ける。また、生活習慣病、呼吸器疾患、循環器疾患、がんなどの予防を、子供から高齢者までを対象として支援していく必要がある。そのためには多様な人々と良好な関係を形成する力が必要であり、このような力を育む目的で「遊びとレクリエーション」、「生きがい創造」、「伝承遊び」及び「メンタルヘルスマネジメント論」を学修する。

生涯スポーツに関連する就職先を希望するモデルは、将来のキャリア形成として地方自治体・教育機

関（部活指導）、体育協会、スポーツクラブ、フィットネスクラブ、スポーツ・健康・食・ファッション関連企業などを想定している。本履修モデルでは、「スポーツリズムトレーニング論」、「フィットネス論」、「ランニングトレーニング論」、「ゴルフトレーニング論」、「ビジョントレーニング論」及び「シューフィッティング論」及び「パフォーマンス向上論」を履修する。様々なスポーツのトレーニング理論を学ぶことで、様々な年代が生涯を通して健康的にスポーツを実践するための知識・技術を修得する。

生活工学に関連する就職先を希望するモデルは、将来のキャリア形成として就労支援事業所（作業所）、放課後等デイサービス、グループホーム、特別支援学校、リハビリ機器開発企業、福祉機器メーカーなどを想定している。本履修モデルでは、障害予防に対する生活工学の利用だけでなく、神経・運動障害の有無にかかわらず、安全・安心な生活・就労の支援に関する生活工学について学修する。「福祉工学地域活用論」、「ロボット工学地域活用論基礎」、「ロボット工学地域活用論応用」及び「身体障がい者就労環境論」を履修することで、工学系の知識と技術をいかにして生活・就労環境に活用するかを学修する。

資料 12-1：履修モデル（理学療法学科）

（新旧対照表）別記様式第 2 号（その 2 の 1）教育課程等の概要 卒業要件及び履修方法

新	旧
<p>【卒業要件】 次により、必修科目 109 単位、選択科目 <u>22 単位</u> 以上を修得すること。</p> <p>1. 基礎科目 20 単位以上 (1) 必修科目 10 単位 (2) 選択科目 10 単位以上 ・人間と社会系科目の内から 6 単位以上、自然科学系科目と語学教育科目の内から 4 単位以上を選び、合計 10 単位以上を修得すること。</p> <p>2. 職業専門科目 <u>87 単位</u> 以上 (1) 必修科目 83 単位 (2) 選択科目 <u>4 単位</u> 以上</p> <p>3. 展開科目 20 単位以上 (1) 必修科目 12 単位 (2) 選択科目 8 単位以上</p> <p>4. 総合科目 4 単位 (1) 必修科目 4 単位</p>	<p>【卒業要件】 次により、必修科目 109 単位、選択科目 20 単位以上を修得すること。</p> <p>1. 基礎科目 20 単位以上 (1) 必修科目 10 単位 (2) 選択科目 10 単位以上 ・人間と社会系科目の内から 6 単位以上、自然科学系科目と語学教育科目の内から 4 単位以上を選び、合計 10 単位以上を修得すること。</p> <p>2. 職業専門科目 85 単位以上 (1) 必修科目 83 単位 (2) 選択科目 2 単位以上 ・次の①～②の選択肢から 1 つ以上選び、合計 2 単位以上を修得すること。 ①神経筋骨格障害応用論実習 ②内部障害応用論実習 ③スポーツ障害応用論実習</p> <p>3. 展開科目 20 単位以上 (1) 必修科目 12 単位 (2) 選択科目 8 単位以上 ・選択科目は、職業専門科目の選択科目におい</p>

	<p>て、①を選択した場合は④を選択し、②を選択した場合は⑤を、③を選択した場合は⑥を選択し、8単位以上履修すること。</p> <p>④：身体障がい者就労環境論、福祉工学地域活用論、ロボット工学地域活用論基礎、ロボット工学地域活用論応用、組織運営論</p> <p>⑤：遊びとレクリエーション、生きがい創造、伝承遊び、体力測定論、メンタルヘルスマネジメント論、健康増進実践演習、健康増進実践実習</p> <p>⑥：スポーツリズムトレーニング論、パフォーマンス向上論、フィットネス論、ランニングトレーニング論、ゴルフトレーニング論、ビジョントレーニング論、シューフィッティング論</p> <p>4. 総合科目 4 単位 (1) 必修科目 4 単位</p>
--	---

【大学等の設置の趣旨・必要性】

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科【作業療法学科 是正事項2】

1 3. 【全体計画審査意見 2・9・12 の回答について】 < 3つの履修モデルが不明確 >

今回、3つの「コース・領域」を「履修モデル」として定義し直しているが、「学生の希望と2年次後期時点の累積 GPA を参考に、偏りが生じないように振り分ける」とされており、名称と運用とに不整合が生じている。また、「履修モデル」は履修選択の参考として例示するものであることから、運用方法を踏まえた適切な名称に修正すること。

(対応)

当初(10月申請時点)、びわこリハビリテーション専門職大学(旧:藍野専門職大学)の特色を出すために、作業療法学科においては、3つの領域を設けると設置の趣旨等を記載した書類において論じた。しかし、補正申請における審査意見において、領域の趣旨や運用方法についてご指摘をいただき、再考したところ、一般に使われるコースには、本学が用意している教育課程の実施方法は適さないと判断し、履修モデルと定義し直し、補正申請を行った。しかし、この度のご指摘のとおり、履修モデルには該当しない運用(GPAによる振り分け、卒業要件への明記など)を実施するとの記載を行ってしまっていた。そもそも、履修モデルとは、履修する際の参考例であり、目安である以上、それをもって、本学の特色・魅力として打ち出すこと自体が不適切であるとも認識した。

以上の経緯を踏まえ、教育課程の実施方法について改めてその見直しを図った。本学科は、作業療法の一般的専門教育に加え、地域共生社会の実現を見据え、地域住民に支援を展開できる「展開型スペシャリスト」を養成するために、児童期、成人期、老年期と3つの履修モデルを提示していた。しかし、この3つは、決して、不変的なものではなく、時代の変化に応じ、変わり得るものである。そのため、コースのようにある程度の体系性を持ったものというよりは、学生に将来のキャリアパスを想定させるために、本学として設定する履修の参考例(モデル)であることを改めて確認をした。

よって、履修モデルに合うように、教育課程の実施方法を改めた。第一に、累積 GPA によって学生の振り分けることはやめ、学生が自由に授業科目を履修できるようにした。第二に、次のとおり卒業要件の見直しを行った。最後に、それぞれ用意した履修モデルを改めて示す。

1) 卒業要件

学則に則り、本学に4年以上在籍し、所定の要件を満たして、130単位以上を修得した者に対し卒業を認定する。修得すべき授業科目は、講義の他に実習や演習、臨地実務実習の授業科目が含まれる。基礎科目を通じてなされた教養教育と、学科の特性に応じて編成された職業専門科目、展開科目、総合科目をともに修得しているかどうか、学士を授与する要件となる。

作業療法学科は、必須科目118単位、選択科目12単位以上、合計130単位以上を修得すること。基礎科目は20単位以上、内訳は必修科目が11単位、選択科目が人間と社会系科目から5単位以上、自然科学系科目と語学教育系科目から4単位以上を選択する。職業専門科目は必修科目を86単位。展開科目は必修科目17単位、選択科目は3単位以上を選択し、20単位以上とする。総合科目は必修科目を4単位とする。

ディプロマ・ポリシーに基づき、地域共生社会で活躍できるリハビリテーション人材の養成を謳っているため、職業専門科目では、医学系の理論科目と各学科の基盤となる職業実践科目を設定し、学科のリハビリテーション職としての質を保証した。また、展開科目は、地域共生社会を理解するための授業

科目を必修科目とし、多様な視点を学ぶための授業科目を選択科目とした。そして、総合科目において、職業専門科目と展開科目での学修を統合することを企図した。

2) 履修モデル

学生の主な卒業先の進路としては、病院や福祉施設といった今までの就職先だけでなく、地域共生社会の実現に向け、地方自治体、健康関連企業、就労支援事業所、生活訓練施設、有料老人ホーム等といった企業や施設を想定している。そして、このような産業への参入を想定したカリキュラムを構成している。職業専門科目において、作業療法の医療や福祉領域でのその専門性を学び、展開科目では、作業療法の関連領域での関わりを学ぶ。

例えば、保育園、小学校、特別支援学校、学童保育、放課後等デイサービス等で活躍する作業療法士を目指す学生の履修モデルは、「児童期地域生活適応論」及び「児童期地域生活適応論実習」を選択する。これらの授業科目では、作業療法士がまだ介入していない保育園や放課後等デイサービスの現状を学び、実習を行う。その過程を通して、児童期における作業療法の多様な支援についての学修を深める。

就労移行支援事業所、特例子会社、生活訓練施設、グループホーム等で活躍する作業療法士を目指す学生の履修モデルは、「成人期地域生活適応論」及び「成人期地域生活適応論実習」を選択する。これらの授業科目では、作業療法士が介入していない施設での成人期の方の QOL の向上に向けた関わりを学び、実習を行う。その過程を通して、成人期の方の生活支援の多様性について学修を深める。

通所介護施設、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム等で活躍する作業療法士を目指す学生の履修モデルは、「老年期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論実習」を選択する。これらの授業科目では、作業療法士が介入していない老年期の方の通所や施設での関わり方を学び、実習を行う。その過程を通して、老年期の方が自分らしく生活することについて学修を深める。

以上で説明を行った 3 つの履修モデルを資料 13-1 に示す。

資料 13-1 : 履修モデル (作業療法学科)

(新旧対照表) 教育課程等の概要 卒業要件及び履修方法

新	旧
<p>【卒業要件】 次により、必修科目 118 単位、選択科目 12 単位以上を修得すること。</p> <p>1. 基礎科目 20 単位以上 (1) 必修科目 11 単位 (2) 選択科目 9 単位以上 ・人間と社会系科目の内から 5 単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から 4 単位以上を選び、合計 9 単位以上を修得すること。</p> <p>2. 職業専門科目 86 単位 (1) 必修科目 86 単位</p>	<p>【卒業要件】 次により、必修科目 118 単位、選択科目 12 単位以上を修得すること。</p> <p>1. 基礎科目 20 単位以上 (1) 必修科目 11 単位 (2) 選択科目 9 単位以上 ・人間と社会系科目の内から 5 単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から 4 単位以上を選び、合計 9 単位以上を修得すること。</p> <p>2. 職業専門科目 86 単位 (1) 必修科目 86 単位</p>

<p>3. 展開科目 20 単位</p> <p>(1) 必修科目 17 単位</p> <p>(2) 選択科目 3 単位</p> <p>4. 総合科目 4 単位</p> <p>(1) 必修科目 4 単位</p>	<p>3. 展開科目 20 単位</p> <p>(1) 必修科目 17 単位</p> <p>(2) 選択科目 3 単位</p> <p>選択科目は以下の①～③のいずれかの組み合わせにより履修すること</p> <p>① 老年期地域生活適応論及び老年期地域生活適応論実習</p> <p>② 成人期地域生活適応論及び成人期地域生活適応論実習</p> <p>③ 児童期地域生活適応論及び児童期地域生活適応論実習</p> <p>4. 総合科目 4 単位</p> <p>(1) 必修科目 4 単位</p>
--	---

審査意見への対応を記載した書類（7月）資料編 目次

- 資料 1-1：カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（理学療法学科）
- 資料 1-2：カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（作業療法学科）
- 資料 1-3：びわこリハビリテーション専門職大学既修得単位の認定に関する内規
- 資料 4-1：シラバス（英語Ⅱ）変更後・変更前
- 資料 5-1：シラバス（理学療法総合実習）変更後・変更前
- 資料 5-2：シラバス（作業療法総合実習Ⅰ）変更後・変更前
- 資料 5-3：シラバス（作業療法総合実習Ⅱ）変更後・変更前
- 資料 5-4：シラバス（協働連携論総合実習）変更後・変更前
- 資料 6-1：設置基準及び指定規則と本学教育課程の対応表
- 資料 6-2：講義科目における単位と授業時間の整理表
- 資料 6-3：教育課程等の概要【改変】
- 資料 6-4：時間割表（理学療法学科）
- 資料 6-5：時間割表（作業療法学科）
- 資料 6-6：1日当たりの平均時間外学修時間と1日当たりの平均空き時間
- 資料 10-1：専任教員の研究室の割り振り 新旧対照表
- 資料 11-1：展開科目に係る購入予定の書籍一覧
- 資料 11-2：研究の方法に係る購入予定の書籍一覧
- 資料 11-3：理学療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧
- 資料 11-4：作業療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧
- 資料 12-1：履修モデル（理学療法学科）
- 資料 13-1：履修モデル（作業療法学科）

カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（理学療法学科）

理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。

CP1：倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。

CP2：理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。

CP3：理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。

CP4：理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。

CP5：理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	
			必修	選択						
基礎科目	初年次教育 学びの基盤	1前	1		◎					
	コミュニケーション論	1前	1			◎				
	人間と社会科学系科目	音楽	1後		1	◎				
		キャリア発達論	2後	1		◎				
		教育学	1前	1		◎				
		倫理学入門	1前	1		◎				
		哲学入門	1前		1	◎				
		心理学	1後	1		◎				
		経営学入門	2前		1	◎				
		社会学	1前		1	◎				
		日本の伝統文化	1前		1	◎				
		日本の近代史	1前		1	◎				
	体育	1後		1	◎					
	自然科学系科目	生物学	1前	1		◎				
		物理学Ⅰ	1前	1		◎				
		物理学Ⅱ	1後		1	◎				
		統計学	2後	1		◎				
		数学	1前		1	◎				
	語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1		◎	◎			
		英語Ⅱ	1後		1	◎	◎			
韓国語		2後		1	◎	◎				
中国語		2後		1	◎	◎				
②職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			◎			
		解剖学Ⅱ	1後	2			◎			
		解剖学Ⅲ	1後	1			◎			
		生理学Ⅰ	1前	2			◎			
		生理学Ⅱ	1後	2			◎			
		運動学Ⅰ	1後	1			◎			
		運動学Ⅱ	2前	1			◎			
		運動学実習	2後	1			◎			
		運動生理学実習	2後	1			◎			
		人間発達学	1後	1		◎				
		救急援助論	2後	1			◎			
		内科学Ⅰ	2前	1			◎			
		内科学Ⅱ	2後	1			◎			
		神経内科学Ⅰ	2前	1			◎			
	神経内科学Ⅱ	2後	1			◎				
	職業実践科目群	整形外科Ⅰ	2前	1			◎			
		整形外科Ⅱ	2後	1			◎			
		精神医学	1後	1			◎			
		小児科学	2前	1			◎			
		老年医学	2前	1			◎			
		薬理学概論	1後	1			◎			
		予防医学	3前	1			◎			
		画像診断学	2前	1			◎			
		栄養学	2前	1			◎			
		社会福祉学	2後	1		◎				
		地域包括ケア論	3前	1			◎	◎	◎	
リハビリテーション概論		1前	1		◎		◎			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	
			必修	選択						
② 職業専門科目	職業実践科目群	基礎理学療法実習Ⅱ	1後	1			◎			
		臨床技能論実習	3前	1		◎	◎			
		理学療法管理学	4後	1			◎			
		保健医療福祉関連制度論	4後	1			◎	◎		
		理学療法評価学	1後	1				◎		
		理学療法評価学実習	2前	2				◎		
		理学療法評価学演習	3前	1				◎		
		画像評価学	2後	1				◎		
		運動療法学	2前	1				◎		
		運動療法学実習	2後	1				◎		
		徒手理学療法学	3前	1				◎		
		徒手理学療法学実習	3後	1				◎		
		物理療法学	2前	1				◎		
		日常生活活動学	2前	1				◎		
		義肢装具学Ⅰ	2前	1				◎		
		義肢装具学Ⅱ	2後	1				◎		
		神経障害系理学療法実習Ⅰ	3前	1				◎		
		神経障害系理学療法実習Ⅱ	3前	1				◎		
		運動器障害系理学療法実習Ⅰ	2後	1				◎		
		運動器障害系理学療法実習Ⅱ	3前	1				◎		
		内部障害系理学療法実習Ⅰ	3前	1				◎		
		内部障害系理学療法実習Ⅱ	3前	1				◎		
		小児期理学療法演習	2後	1				◎		
		老年期理学療法演習	2後	1				◎		
		スポーツ障害系理学療法実習	2後	1				◎		
		神経筋骨格障害応用論実習	4後		2			◎		◎
		内部障害応用論実習	4後		2			◎		◎
		スポーツ障害応用論実習	4後		2			◎		◎
		地域理学療法学	2後	1				◎	◎	
		地域理学療法実習	3前	1				◎	◎	
		理学療法見学実習Ⅰ	1前	1		◎	◎	◎	◎	
		理学療法見学実習Ⅱ	1後	1		◎	◎	◎		
		理学療法見学実習Ⅲ	2前	1		◎	◎	◎	◎	
		理学療法評価実習	3前	4		◎	◎	◎		
		理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6		◎	◎	◎		
		理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6		◎	◎	◎		
		理学療法地域実習	4前	1		◎	◎	◎	◎	
		③ 展開科目	マーケティング論	3後	1				◎	◎
			施設起業運営論	3後	1				◎	◎
			ボランティア論	1後	1		◎		◎	◎
			生涯スポーツ論	1前	1				◎	◎
			労働衛生論	1後	1				◎	◎
			子育て支援論	2前	1				◎	◎
災害支援論	2前		1		◎		◎	◎		
教育支援論	2前		1				◎	◎		
メンタルヘルスマネジメント論	3後			1			◎	◎		
地域共生論	3前		2		◎	◎	◎	◎		
障がい者スポーツ論	3後		1				◎	◎		
障がい者スポーツ論実習	4前		1				◎	◎		
スポーツリズムトレーニング論	3後			1				◎		
体力測定論	3後			1				◎		
健康増進実践演習	3後			1			◎	◎		
健康増進実践実習	3後			1			◎	◎		
パフォーマンス向上論	3後			1				◎		
フィットネス論	3後			2				◎		
ランニングトレーニング論	3後			2				◎		
ゴルフトレーニング論	3後			2				◎		
ビジョントレーニング論	3後			2				◎		
遊びとレクリエーション	3後			1				◎		
生きがい創造	3後			2				◎		
伝承遊び	3後			2				◎		
シューフィッティング論	3後			1				◎		
福祉工学地域活用論	3後			1				◎		
ロボット工学地域活用論基礎	3後			1				◎		
ロボット工学地域活用論応用	3後			2				◎		
身体障がい者就労環境論	3後			2			◎	◎		
組織運営論	3後			2			◎	◎		
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2		◎	◎	◎	◎		
	理学療法総合実習	4後	1			◎	◎	◎		
	リハビリテーション総合演習	3後	1			◎	◎	◎		

カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（理学療法学科）

カリキュラム・ポリシー	1年次	2年次	3年次	4年次	ディプロマ・ポリシー
<p>理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p>					<p>理学療法学科では、所定の規則に基づき131単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に理学療法士（専門職）の学位を授与する。</p>
<p>CP1 倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 学びの基礎 音楽（選択） 教育学 倫理学入門 哲学入門（選択） 心理学 社会学（選択） 日本の伝統文化（選択） 日本の近代史（選択） 体育（選択） 生物学 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ（選択） 数学 英語Ⅰ 英語Ⅱ（選択） 【職業専門科目】 人間発達学 リハビリテーション概論 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 【展開科目】 ポランティア論</p>	<p>【基礎科目】 キャリア発達論 経営学入門（選択） 統計学 韓国語（選択） 中国語（選択） 【職業専門科目】 社会福祉学 理学療法見学実習Ⅲ 【展開科目】 災害支援論</p>	<p>【職業専門科目】 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 【展開科目】 地域共生論</p>	<p>理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習</p>	<p>DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>
<p>CP2 理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 コミュニケーション論 英語Ⅰ※再掲 英語Ⅱ（選択）※再掲 【職業専門科目】 理学療法見学実習Ⅰ※再掲 理学療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【基礎科目】 韓国語（選択）※再掲 中国語（選択）※再掲 【職業専門科目】 理学療法見学実習Ⅲ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 臨床技能論実習 理学療法評価実習※再掲 理学療法総合臨床実習Ⅰ※再掲 【展開科目】 地域共生論※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 理学療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 理学療法地域実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習</p>	<p>DP2 地域住民を取り巻き多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</p>
<p>CP3 理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅲ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 運動学Ⅰ 精神医学 薬理学概論 リハビリテーション概論※再掲 基礎理学療法Ⅰ 基礎理学療法Ⅱ 基礎理学療法実習Ⅰ 基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法評価学 理学療法見学実習Ⅰ※再掲 理学療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 運動学Ⅱ 運動学実習 運動生理学実習 救急救助論 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ 小児科学 老年医学 画像診断学 栄養学 理学療法評価学実習 画像評価学 運動療法学 運動療法学実習 物理療法学 日常生活活動論 義肢装具学Ⅰ 義肢装具学Ⅱ 運動器障害系理学療法学実習Ⅰ 小児理学療法学実習 老年期理学療法学実習 スポーツ障害系理学療法学実習 地域理学療法学 理学療法見学実習Ⅲ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 予防医学 地域包括ケア論 基礎理学療法研究法 臨床技能論実習※再掲 理学療法評価学演習 徒手理学療法学 徒手理学療法学実習 神経障害系理学療法学実習Ⅰ 神経障害系理学療法学実習Ⅱ 運動器障害系理学療法学実習Ⅰ 運動器障害系理学療法学実習Ⅱ 内部障害系理学療法学実習Ⅰ 内部障害系理学療法学実習Ⅱ 地域理学療法学実習 理学療法評価学実習※再掲 理学療法総合臨床実習Ⅰ※再掲 【総合科目】 リハビリテーション総合演習</p>	<p>【職業専門科目】 理学療法管理学 保健医療福祉関連制度論 神経筋骨格障害応用論実習（選択） 内部障害応用論実習（選択） スポーツ障害応用論実習（選択） 理学療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 理学療法地域実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 理学療法総合実習</p>	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>
<p>CP4 理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を究掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 リハビリテーション概論※再掲 理学療法見学実習Ⅰ※再掲 【展開科目】 ポランティア論※再掲 生涯スポーツ論 労働衛生論</p>	<p>【職業専門科目】 地域理学療法学※再掲 理学療法見学実習Ⅲ※再掲 【展開科目】 子育て支援論 災害支援論※再掲 教育支援論</p>	<p>【職業専門科目】 地域理学療法学実習※再掲 地域包括ケア論※再掲 【展開科目】 マーケティング論 施設企業運営論 メンタルヘルスマネジメント論（選択） 地域共生論※再掲 障がい者スポーツ論 健康増進実践演習（選択） 健康増進実践実習（選択） 身体障がい者就業環境論（選択） 組織運営論（選択） 【総合科目】 リハビリテーション総合演習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 保健医療福祉関連制度※再掲 理学療法地域実習※再掲 【展開科目】 障がい者スポーツ論実習 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 理学療法総合実習※再掲</p>	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を究見し、解決方法を導くことができる。</p>
<p>CP5 理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 リハビリテーション概論※再掲 【展開科目】 ポランティア論※再掲 生涯スポーツ論※再掲 労働衛生論※再掲</p>	<p>【展開科目】 子育て支援論※再掲 災害支援論※再掲 教育支援論※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域包括ケア論 【展開科目】 マーケティング論※再掲 施設企業運営論※再掲 メンタルヘルスマネジメント論（選択）※再掲 地域共生論※再掲 障がい者スポーツ論※再掲 スポーツリズムトレーニング論（選択） 体力測定論（選択） 健康増進実践演習（選択）※再掲 健康増進実践実習（選択）※再掲 パフォーマンス向上論（選択） フィットネス論（選択） ランニングトレーニング論（選択） ゴルフトレーニング論（選択） ビジョントレーニング論（選択） 遊びとレクリエーション（選択） 生きがい創造（選択） 伝承遊び（選択） シューフィッティング論（選択） 福祉工学地域活用論（選択） ロボット工学地域活用論基礎（選択） ロボット工学地域活用論応用（選択） 身体障がい者就業環境論（選択）※再掲 組織運営論（選択）※再掲 【総合科目】 リハビリテーション総合演習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 神経筋骨格障害応用論実習（選択）※再掲 内部障害応用論実習（選択）※再掲 スポーツ障害応用論実習（選択）※再掲 【展開科目】 障がい者スポーツ論実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 理学療法総合実習※再掲</p>	<p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>

凡例

基礎科目
職業専門科目
展開科目
総合科目

カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（作業療法学科）

作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。

CP1：人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。

CP2：多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。

CP3：作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を实践できる能力を養うための科目を配置する。

CP4：人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。

CP5：地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	
			必修	選択						
① 基礎科目	初年次 目次 学びの基盤	1前	1		◎					
	コミュニケーション論	1前	1			◎				
	音楽	1後		1	◎					
	キャリア発達論	2後	1		◎					
	教育学	1前	1		◎					
	倫理学入門	1前	1		◎					
	哲学入門	1前		1	◎					
	心理学	1後	1		◎					
	経営学入門	2前		1	◎					
	社会学	1前	1		◎					
	日本の伝統文化	1前		1	◎					
	日本の近代史	1前		1	◎					
	体育	1後		1	◎					
	自然科学系科目	生物学	1前	1		◎				
	物理学Ⅰ	1前	1		◎					
	物理学Ⅱ	1後		1	◎					
	統計学	2後	1		◎					
	数学	1前		1	◎					
	語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1		◎	◎			
	英語Ⅱ	1後		1	◎	◎				
	韓国語	2後		1	◎	◎				
	中国語	2後		1	◎	◎				
	② 職業専門科目	解剖学Ⅰ	1前	2				◎		
		解剖学Ⅱ	1後	2				◎		
		解剖学Ⅲ	1後	1				◎		
		生理学Ⅰ	1前	2				◎		
		生理学Ⅱ	1後	2				◎		
		運動学Ⅰ	1前	1				◎		
		運動学Ⅱ	1後	1				◎		
		運動学実習	2前	1				◎		
人間発達学		1後	1		◎					
救急援助論		2後	1				◎			
内科学Ⅰ		2前	1				◎			
内科学Ⅱ		2後	1				◎			
神経内科学Ⅰ		2前	1				◎			
神経内科学Ⅱ		2後	1				◎			
整形外科Ⅰ		2前	1				◎			
整形外科Ⅱ		2後	1				◎			
精神医学		2前	1				◎			
小児科学		2前	1				◎			
老年医学		2前	1				◎			
薬理学概論		1後	1				◎			
予防医学		3前	1				◎			
画像診断学		2前	1				◎			
栄養学		2前	1				◎			
社会福祉学		2後	1		◎					
地域包括ケア論		2後	1			◎		◎	◎	
リハビリテーション概論		1前	1		◎		◎			
作業療法学総論		1前	1				◎			
基礎作業学		1前	1				◎			
基礎作業学実習Ⅰ		1前	1				◎			
基礎作業学実習Ⅱ		1後	1				◎			
作業療法研究法		3前	1				◎			
作業療法管理・制度論		1後	1				◎			
作業療法と倫理		1後	1				◎			
作業療法評価学総論		1後	1				◎			
身体障害作業療法評価学実習Ⅰ		2前	1				◎			
身体障害作業療法評価学実習Ⅱ		2前	1				◎			
精神障害作業療法評価学実習		2前	1				◎			
発達障害作業療法評価学実習		2前	1				◎			
身体障害作業療法基礎技術論		2後	1				◎			
運動器疾患作業療法学実習		2後	1				◎			
中枢神経疾患作業療法学実習	2後	1				◎				
高次脳機能障害作業療法学実習	3前	1				◎				
精神障害作業療法学	2後	1				◎				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5
			必修	選択					
② 職業専門科目	職業実践科目群	精神障害作業療法学実習	3前	1			◎		
		発達障害作業療法学実習Ⅰ	2後	1			◎		
		発達障害作業療法学実習Ⅱ	3前	1			◎		
		老年期障害作業療法学	2後	1			◎		
		老年期障害作業療法学実習	3前	1			◎		
		日常生活活動論実習	2前	1			◎		
		社会生活行為論実習	2前	1			◎		
		作業分析活用論	2後	1			◎		
		作業分析活用論実習	2後	1			◎		
		家族援助論	3前	1			◎		
		住環境支援論	3前	1			◎		
		作業療法義肢装具実習	2後	1			◎		
		生活行為向上マネジメント論実習	3前	1			◎		
		地域生活作業療法学総論	2前	1			◎	◎	
		地域生活作業療法学実習Ⅰ	2後	1			◎	◎	
		地域生活作業療法学実習Ⅱ	2後	1			◎	◎	
		地域生活作業療法学実習Ⅲ	3前	1			◎	◎	
		作業療法見学実習Ⅰ	1後	1		◎	◎	◎	
		作業療法見学実習Ⅱ	2前	1		◎	◎	◎	
		作業療法評価実習	3前	5		◎	◎	◎	
		作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7		◎	◎	◎	
		作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7		◎	◎	◎	
		作業療法地域実習	4前	1		◎	◎	◎	◎
③ 展開科目	マーケティング論	2後	1					◎	◎
	施設起業運営論	3前	1					◎	◎
	ボランティア論	1前	1		◎				◎
	子育て支援論	2前	1					◎	◎
	災害支援論	1後	1		◎				◎
	教育支援論	2後	1					◎	◎
	メンタルヘルスマネジメント論	2前	1					◎	◎
	障がい者スポーツ論	3後	1					◎	◎
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					◎	◎
	地域社会共生論	1前	2		◎			◎	◎
	地域社会共生論実習	1後	1			◎		◎	◎
	精神障がい者就労環境論	3後	2					◎	◎
	身体障がい者就労環境論	3後	2					◎	◎
	就労環境論実習	4前	1			◎		◎	◎
	老年期地域生活適応論	3後		2				◎	◎
	老年期地域生活適応論実習	4前		1		◎		◎	◎
	成人期地域生活適応論	3後		2				◎	◎
	成人期地域生活適応論実習	4前		1		◎		◎	◎
	児童期地域生活適応論	3後		2				◎	◎
	児童期地域生活適応論実習	4前		1		◎		◎	◎
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2			◎	◎	◎	◎
	作業療法総合実習Ⅰ	4後	1				◎	◎	◎
	作業療法総合実習Ⅱ	4後	1				◎	◎	◎

カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（作業療法学科）

カリキュラム・ポリシー	1年次	2年次	3年次	4年次	ディプロマ・ポリシー
<p>作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p>					<p>作業療法学科では、所定の規則に基づき130単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に作業療法士（専門職）の学位を授与する。</p>
<p>CP1 人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 学びの基盤 音楽（選択） 教育学 倫理学入門 哲学入門（選択） 心理学 社会学（選択） 日本の伝統文化（選択） 日本の近代史（選択） 体育（選択） 生物学 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ（選択） 数学 英語Ⅰ 英語Ⅱ（選択） 【職業専門科目】 人間発達学 リハビリテーション概論 作業療法見学実習Ⅰ 【展開科目】 ボランティア論 災害支援論 地域社会共生論</p>	<p>【基礎科目】 キャリア発達論 経営学入門（選択） 統計学 韓国語（選択） 中国語（選択） 【職業専門科目】 社会福祉学 作業療法見学実習Ⅱ</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ</p>	<p>作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習</p>	<p>DP1 作業療法として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にす豊富な人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</p>
<p>CP2 多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 コミュニケーション論 英語Ⅰ※再掲 英語Ⅱ（選択）※再掲 【職業専門科目】 作業療法見学実習Ⅰ※再掲 【展開科目】 地域社会共生論実習</p>	<p>【基礎科目】 韓国語（選択）※再掲 中国語（選択）※再掲 【職業専門科目】 地域生活作業療法学総論 地域生活作業療法学実習Ⅰ 地域生活作業療法学実習Ⅱ 作業療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域生活作業療法学実習Ⅲ 作業療法評価実習※再掲 作業療法総合臨床実習Ⅰ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 作業療法地域実習※再掲 【展開科目】 就労環境論実習 老年期地域生活適応論実習 成人期地域生活適応論実習 児童期地域生活適応論実習 【総合科目】 協働連携論総合実習</p>	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p>
<p>CP3 作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅲ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 薬理学概論 リハビリテーション概論※再掲 作業療法学総論 基礎作業学 基礎作業療法学実習Ⅰ 基礎作業療法学実習Ⅱ 作業療法管理・制度論 作業療法と倫理 作業療法評価学総論 作業療法見学実習Ⅰ</p>	<p>【職業専門科目】 運動学実習 救急救助論 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ 精神医学 小児科学 老年医学 画像診断学 栄養学 地域包括ケア論 身体障害作業療法評価学実習Ⅰ 身体障害作業療法評価学実習Ⅱ 精神障害作業療法評価学実習 発達障害作業療法評価学実習 身体障害作業療法基礎技術論 運動器疾患作業療法学実習 中枢神経疾患作業療法学実習 精神障害作業療法学 発達障害作業療法学実習Ⅰ 老年期障害作業療法学 日常生活活動論実習 社会生活行為論実習 作業分析活用論 作業分析活用論実習 作業療法義肢装具実習 地域生活作業療法学総論※再掲 地域生活作業療法学実習Ⅰ※再掲 地域生活作業療法学実習Ⅱ※再掲 作業療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 予防医学 作業療法研究法 高次脳機能障害作業療法学実習 精神障害作業療法学実習 発達障害作業療法学実習Ⅱ 老年期障害作業療法学実習 家族援助論 住環境支援論 生活行為向上マネジメント論実習 地域生活作業療法学実習Ⅲ※再掲 作業療法評価実習※再掲 作業療法総合臨床実習Ⅰ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 作業療法地域実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ</p>	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>
<p>CP4 人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【展開科目】 地域社会共生論※再掲 地域社会共生論実習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域包括ケア論※再掲 【展開科目】 マーケティング論 子育て支援論 教育支援論 メンタルヘルスマネジメント論</p>	<p>【職業専門科目】 地域生活作業療法学実習Ⅲ※再掲 【展開科目】 施設企業運営論 障がい者スポーツ論 精神障がい者就労環境論 身体障がい者就労環境論 老年期地域生活適応論（選択） 成人期地域生活適応論（選択） 児童期地域生活適応論</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法地域実習※再掲 【展開科目】 障がい者スポーツ論実習 就労環境論実習※再掲 老年期地域生活適応論実習※再掲 成人期地域生活適応論実習※再掲 児童期地域生活適応論実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 作業療法総合実習Ⅰ※再掲 作業療法総合実習Ⅱ※再掲</p>	<p>DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。</p>
<p>CP5 地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【展開科目】 ボランティア論※再掲 災害支援論※再掲 地域社会共生論※再掲 地域社会共生論実習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域包括ケア論※再掲 【展開科目】 マーケティング論 子育て支援論 教育支援論 メンタルヘルスマネジメント論</p>	<p>【展開科目】 施設企業運営論※再掲 障がい者スポーツ論※再掲 精神障がい者就労環境論※再掲 身体障がい者就労環境論※再掲 老年期地域生活適応論（選択）※再掲 成人期地域生活適応論（選択）※再掲 児童期地域生活適応論※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 障がい者スポーツ論実習※再掲 就労環境論実習※再掲 老年期地域生活適応論実習※再掲 成人期地域生活適応論実習※再掲 児童期地域生活適応論実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 作業療法総合実習Ⅰ※再掲 作業療法総合実習Ⅱ※再掲</p>	<p>DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる。</p>

凡例

基礎科目
職業専門科目
展開科目
総合科目

びわこリハビリテーション専門職大学 既修得単位の認定に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、本学学則第16条の規定に基づき、既修得単位の認定に関し必要な事項を定める。

(単位認定の対象とする入学前の既修得単位等)

第2条 単位認定の対象とすることができる入学前の既修得科目は、本学において開講する基礎科目、職業専門科目の理学療法／作業療法理論科目群、展開科目の授業科目（以下「当該授業科目」という。）の内容に見合う授業科目とする。

2 単位認定の対象とすることができる入学前の既修得単位等は、次の各号に掲げるとおりとする。

一 大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位

二 前号以外の教育施設等における学修のうち、次に掲げるもの

ア 大学又は短期大学の専攻科における学修

イ 高等専門学校のカリキュラム又は専攻科における学修

ウ 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修

エ 文部科学大臣認定技能審査（英検、漢検等）に係る学修および TOEIC、TOEFL 又はこれらと同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修で、大学が大学教育相当水準と認めたもの

3 単位の認定の対象とすることのできる既修得単位は、在学中に他大学等で修得した単位と合わせて 60 単位以内とする。

(認定の申請)

第3条 単位の認定を受けようとする者は、既修得単位認定願に当該大学及び短期大学等の成績証明書（在学期間を明記したもの）及び認定を受けようとする既修得科目の概要を記載した書類を添えて入学した年度の前学期授業開始1週間以内に学長に提出しなければならない。

(単位の認定)

第4条 単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

(認定の可否)

第5条 学長は、認定の可否について、既修得単位認定通知書により学生に通知する。

(社会人の経験に対する単位の認定)

第6条 社会人の「専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力」の単位認定は、本学において開講する展開科目の授業科目（以下「当該授業科目」という。）

の内容に見合う授業科目とする。

2 単位認定の対象とすることができる入学前の社会人の経験とは、法令の規定に基づく職業資格と技能検定、技能審査その他の実務の能力に関する審査、または同等以上の社会的評価を有する実務の能力に関する審査であって、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 審査を行う者が国、地方公共団体、独立行政法人その他の公益的法人であること
- 二 審査の内容が、学校教育法第八十三条の二第一項に規定する専門職大学の目的に照らして適切なものであること
- 三 審査が全国的な規模において、毎年一回以上行われるものであること
- 四 審査の実施の方法が、適切かつ公正であること

3 単位の認定の対象とすることのできる既修得単位は 30 単位を超えない範囲とし、在学中に他大学等で修得した単位と合わせて 60 単位以内とする。

(社会人の経験に対する単位の認定の申請)

第7条 単位の認定を受けようとする者は、資格等を証明する証書の写しを入学した年度の前学期授業開始1週間以内に学長に提出しなければならない。

(社会人の経験に対する単位の認定)

第8条 単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

(社会人の経験に対する単位の認定の可否)

第9条 学長は、認定の可否について、既修得単位認定通知書により学生に通知する。

(外国の大学等を卒業又は中途退学した場合)

第10条 外国の大学等を卒業又は中途退学した後、本学に入学した学生の単位の認定についても、この内規により取り扱う。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、既修得単位の認定に関し必要な事項は、教授会において定める。

附 則

本内規は、令和2年4月1日から施行する。

変更後

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語Ⅱ	選	鈴木 規己洋	1	15	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために、また、基礎的な英語4技能の向上と幅広い知識の習得のために、テキストを利用しながら様々なケースについて知識を得るとともに、臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら、実践的に学ぶ機会を提供する。</p> <p>日常的に接する「読み、書き、リスニング、スピーキング」に気づかせる教材を利用し、基礎的文法、構文、語彙、慣用表現を復習・認識させながら、「読み、書き、リスニング、スピーキング」を職場を含む社会生活で実践できるようになるための基礎的な英語力を修得する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</p> <p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	Travel and Technology (旅行とテクノロジー)					鈴木 規己洋
第2回	The Color of Fashion (ファッションの色)					鈴木 規己洋
第3回	Disappearing Animal (絶滅動物) I Endangered Species (絶滅危惧種)					鈴木 規己洋
第4回	Disappearing Animal (絶滅動物) II Bring Back the Woolly Mammoth (マンモス呼び戻す)					鈴木 規己洋
第5回	Big Money (大金) I What Does a Million Dollars Buy? (百万ドルで何を買う?)					鈴木 規己洋
第6回	Big Money (大金) II Lottery Winners: Rich...but Happy? (宝くじ: お金持ち、でも幸せ?)					鈴木 規己洋
第7回	Celebrations Around the world (世界の祝い) Wedding Customs (結婚式の習慣)					鈴木 規己洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規己洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験 (30%)、小テスト・中間確認 (20%)、グループワーク (40%)、レポート (10%)					
教科書	「Active 3 (CENGAGE learning)」					
参考書	「リハビリテーションの英会話」清水雅子・Timothy Minton (MEDICAL VIEW) 医学略語用語集、メディカル英語基礎表現100					
オフィスアワー	後期: 水 16:10~17:15 木 16:10~17:15					

変更前

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語Ⅱ	選	鈴木 規己洋	1	15	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために英語4技能の向上と幅広い知識を習得し、テキストを利用しながら様々なケースを知る。臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら応用的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与え、社会・文化・学術交流の英語力、知識、異文化理解力をつける。 語学の授業は、インプットしたものをアウトプットすることで実践的な英語力が身につく。実践的に「読み、書き、リスニング、スピーキング」することでさらなる英語力を磨きます。また新しい知識を自分の言葉で他者と話し、考える機会を多く作るため、論議できるスキルを習得し、積極性を身に付けることも大切な到達目標の要素である。					
学位授与方針との関連	DP1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。 DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。					
	内容					担当教員
第1回	Travel and Technology (旅行とテクノロジー)					鈴木 規己洋
第2回	The Color of Fashion (ファッションの色)					鈴木 規己洋
第3回	Disappearing Animal (絶滅動物) I Endangered Species (絶滅危惧種)					鈴木 規己洋
第4回	Disappearing Animal (絶滅動物) II Bring Back the Woolly Mammoth (マンモス呼び戻す)					鈴木 規己洋
第5回	Big Money (大金) I What Does a Million Dollars Buy? (百万ドルで何を買う?)					鈴木 規己洋
第6回	Big Money (大金) II Lottery Winners: Rich...but Happy? (宝くじ: お金持ち、でも幸せ?)					鈴木 規己洋
第7回	Celebrations Around the world (世界の祝い) Wedding Customs (結婚式の習慣)					鈴木 規己洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規己洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験 (30%)、小テスト・中間確認 (20%)、グループワーク (40%)、レポート (10%)					
教科書	「Active 3 (CENGAGE learning)」					
参考書	「リハビリテーションの英会話」清水雅子・Timothy Minton (MEDICAL VIEW) 医学略語用語集、メディカル英語基礎表現100					
オフィスアワー	後期: 水 16:10~17:15 木 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法総合実習	必	池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西均・里中綾子・治郎丸卓三・千住秀明・富田昌夫・野口真一・弘部重信・藤谷亮・分木ひとみ・堀寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生	1	30	4年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>本科目では、展開科目で学んだ知識と、職業専門科目から得た知識や技術に基づいて、地域共生社会の実現に向けて、地域社会が抱える課題を検討し、その課題に対して取りうるアプローチとその効果について情報を整理する。そして、整理した情報に基づき、地域が抱える固有の課題を発見し、ディスカッションを通して、調査・研究計画を立案していく。さらに、調査・研究結果を発表するとともに、得られた結果から、展開科目や職業専門科目で学んだことを応用・展開させ、地域課題を解決するためのプロジェクトについても企画する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西均・里中綾子・治郎丸卓三・千住秀明・富田昌夫・野口真一・弘部重信・藤谷亮・分木ひとみ・堀寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生
第2回	地域課題に対する現状についてディスカッション					
第3回	地域課題に対する現状についてディスカッションのまとめ					
第4回	地域課題が抱える固有の問題についてディスカッション					
第5回	地域課題が抱える固有の問題についてディスカッションのまとめ					
第6回	地域共生社会実現に向けての調査・研究計画の検討					
第7回	地域共生社会実現に向けての調査・研究計画の立案					
第8回	地域共生社会実現に向けての調査・研究の実施					
第9回	地域共生社会実現に向けての調査・研究の分析					
第10回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション資料検討					
第11回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション資料作成					
第12回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション①					
第13回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション②					
第14回	地域共生社会実現に向けての地域課題を解決するためのプロジェクトの企画書検討					
第15回	地域共生社会実現に向けての地域課題を解決するためのプロジェクトの企画書作成					
備考	<p>本科目の実施方法については、理学療法学科の学生80名を17グループに分け、1グループ4～5名の学生につき1名の専任教員を配置し、ゼミ形式で進める。しかし、オリエンテーション、プレゼンテーションを行う第1回、第12回、第13回の授業は、1グループ40名の学生と8～9名の専任教員の配置により実施する。</p>					
授業時間以外の学習について	<p>予習として展開科目の学修内容をまとめる。地域課題に対する情報収集を行うことと、応用できる理学療法知識や技術について復習すること。プレゼンテーション資料、企画書の作成は授業の進行に合わせて準備すること。</p>					
課題・評価方法	ポートフォリオ40%、レポート30%、プレゼンテーション30%					
教科書	配布資料					
参考書	なし					
オフィスアワー	<p>池谷 後期：水 16：10～17：15 植田 後期：火 16：10～17：15 川崎 後期：月 16：10～17：15 宇於崎 後期：月 16：10～17：15 大西 後期：火 16：10～17：15 里中 後期：水 16：10～17：15 治郎丸 後期：木 16：10～17：15 千住 後期：水 16：10～17：15 富田 後期：月 16：10～17：15 野口 後期：水、金 16：10～17：15 弘部 後期：水 16：10～17：15 藤谷 後期：水 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15 堀 後期：木 16：10～17：15 安田 後期：水 16：10～17：15 山内 後期：水 16：10～17：15 和智 後期：水、金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法総合演習	必	池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西 均・里中綾子・治郎丸卓三・野口真一・弘部重信・藤谷亮・分木ひとみ・堀 寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生	1	30	4年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した理学療法の知識や技術を統合し、地域が抱える課題に対し、どのようにそれを応用し活用できるかについて自ら考え、学ぶ授業である。地域が抱える課題については、各自が選択した分野からテーマを決定しその解決につながる方法を計画する。理学療法の職業専門科目で行った、神経筋骨格障害応用論実習や内部障害応用論実習およびスポーツ障害応用論実習と、展開科目で学修した地域共生社会における理学療法士が貢献できる課題とを考え合わせ、実践可能な課題解決策の計画をたてる。それをもとに、グループワークを行い、理学療法と隣接領域での知識、技術を融合し、それを地域社会の中で応用し活用できる力を育成する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。 DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。 DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西均・里中綾子・治郎丸卓三・野口真一・弘部重信・藤谷 亮・分木ひとみ・堀 寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生
第2回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッション					
第3回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッション					
第4回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッションとフィードバック					
第5回	地域課題に対する選択するテーマの決定					
第6回	テーマに対する理学療法士として実践可能な課題解決策について情報交換					
第7回	テーマに対する理学療法士として実践可能な課題解決策についてディスカッション					
第8回	地域課題に対する理学療法の応用計画書の作成					
第9回	地域課題に対する理学療法の応用計画についてディスカッション					
第10回	地域課題に対する理学療法の応用計画についてディスカッションとフィードバック					
第11回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション作成					
第12回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション					
第13回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション					
第14回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション					
第15回	地域課題に対する理学療法の応用計画書のレポート作成					
備考	授業はゼミ形式で進める					
授業時間以外の学習について	予習として展開科目の中で選択した分野について、これまでの学修内容をまとめる。地域課題に対する情報収集を行うことと、応用できる理学療法知識や技術について復習すること。計画書の作成とプレゼンテーション作成は講義の進行に合わせて準備すること。					
課題・評価方法	ポートフォリオ40%、レポート30%、プレゼンテーション30%					
教科書	配布資料					
参考書	なし					
オフィスアワー	池谷 後期：水 16：10～17：15 植田 後期：火 16：10～17：15 川崎 後期：月 16：10～17：15 宇於崎 後期：月 16：10～17：15 大西 後期：火 16：10～17：15 里中 後期：水 16：10～17：15 治郎丸 後期：木 16：10～17：15 野口 後期：水、金 16：10～17：15 弘部 後期：水 16：10～17：15 藤谷 後期：水 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15 堀 後期：木 16：10～17：15 安田 後期：水 16：10～17：15 山内 後期：水 16：10～17：15 和智 後期：水、金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習 I	必	大西満 安部征哉 嶋川 昌典 木岡和実 杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することを目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるかを発見するために、作業療法評価を応用・活用する方法について学修する。これまでの展開科目や実習で得た情報、事例を基にグループワークを通じて、作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学修する。					
学位授与方 針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 安部 征哉 嶋川 昌典 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	各分野で得た地域生活者の制度や施策の整理					
第3回	個人の得た地域生活に関する情報の整理					
第4回	グループで情報の共有とディスカッション					
第5回	対象とする地域生活者に関する情報の整理					
第6回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出にむけたディスカッション					
第7回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出のまとめ					
第8回	パワーポイントによる発表準備					
第9回	パワーポイントによる発表準備					
第10回	1・2グループの発表と質疑応答					
第11回	3・4グループの発表と質疑応答					
第12回	5・6グループの発表と質疑応答					
第13回	7・8グループの発表・質疑応答					
第14回	グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	グループフィードバック及びレポート作成					
備考	第2回～第9回、第14回、第15回は、学生40名を1グループ5名の8グループに分け、2グループにつき1人の専任教員を配置し、グループワーク形式で進める。					
授業時間以 外の学習に ついて	配布資料などからディスカッション内容など事前に予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価 方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスア ワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、安部（火・金 16：10～17：15） 嶋川（火・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅰ	必	大西満 安部征哉 嶋川 昌典 木岡和実 杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することも目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるのか発見するために、どのように作業療法評価を応用活用できるかについて学習する授業である。展開科目実習でいった児童期、成人期、老年期分野からグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学習する。					
学位授与方 針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 安部 征哉 嶋川 昌典 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	各分野で得た地域生活者の制度や施策の整理					
第3回	個人の得た地域生活に関する情報の整理					
第4回	グループで情報の共有とディスカッション					
第5回	対象とする地域生活者に関する情報の整理					
第6回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出にむけたディスカッション					
第7回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出のまとめ					
第8回	パワーポイントによる発表準備					
第9回	パワーポイントによる発表準備					
第10回	1・2グループの発表と質疑応答					
第11回	3・4グループの発表と質疑応答					
第12回	5・6グループの発表と質疑応答					
第13回	7・8グループの発表・質疑応答					
第14回	グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分かれてディスカッションを行う。					
授業時間以 外の学習に ついて	配布資料などからディスカッション内容など事前に予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価 方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスア ワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、安部（火・金 16：10～17：15） 嶋川（火・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅱ	必	大西満 辻村肇 河津拓 木岡和実 杉本久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談(事例)から、地域障害者の課題をグループごとに発見し、分析することで応用力を育成する。					
学位授与方針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション (授業目標と方法など)					大西 満 辻村 肇 河津 拓 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	地域生活障害者体験談 (片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺)					
第3回	登壇者を交えたディスカッション					
第4回	グループごとの情報のまとめ					
第5回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第6回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第7回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第8回	発表準備					
第9回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第10回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第11回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第12回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第13回	地域生活障害者を前にした7・8グループ目発表・質疑応答					
第14回	1～4グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	5～8グループフィードバック及びレポート作成					
備考	第4回～第9回、第14回、第15回について、学生40名を1グループ5名の8グループに分け、2グループにつき1人の専任教員(総計4名)を配置し、グループワーク形式で進める。					
授業時間以外の学習について	配布資料などからディスカッション内容について予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西 (月・水 16:10～17:15)、辻村 (木・金 16:10～17:15) 河津 (月・水 16:10～17:15)、木岡 (水・金 16:10～17:15) 杉本 (月・金 16:10～17:15)					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅱ	必	大西満 下西徳 木岡和実 澤賢一郎 杉本久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し分析する応用力を育成する。					
学位授与方 針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 下西 徳 澤 賢一郎 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第3回	登壇者を交えたディスカッション					
第4回	グループごとの情報のまとめ					
第5回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第6回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第7回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第8回	発表準備					
第9回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第10回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第11回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第12回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第13回	地域生活障害者を前にした7・8グループ目発表・質疑応答					
第14回	1～4グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	5～8グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分け、2グループごとに4名のゲストスピーカーから体験を聴取する。					
授業時間 以外の学習 について	配布資料などからディスカッション内容について予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価 方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスア ワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、下西（木・金 16：10～17：15） 澤（水・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	大西満 園田悠馬 分木ひとみ 池谷雅江	2	60	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実践について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方 針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					大西満 分木ひとみ 園田悠馬 池谷雅江
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺、 切断 ）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考	講義回ごと下記のグループ単位で実習を行う。 ①30名グループ：第1～6、8、25～28回 ②5名グループ：第7、9～24、29、30回					
授業時間 以外の学習 について	地域生活障害者に関する情報を事前に配布するので、教科書などから予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価 方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスア ワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、分木（水 16：10～17：15） 園田（水・金 16：10～17：15）、池谷（水 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	有田 智氏・大西 満・辛島 千恵子・池谷 雅江・分木 ひとみ	2	60	4年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方針との関連	DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。 DP3 理学療法の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。 DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。 DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					有田 智氏・大西 満・辛島 千恵子・池谷 雅江・分木 ひとみ
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考						
授業時間以外の学習について	症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習行うこと。またレポート作成、発表などの準備を各自で進めるようにしてください。					
課題・評価方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	大西 後期：月、水 16：10～17：15 辛島 後期：水、木 16：10～17：15 有田 後期：月、水 16：10～17：15 池谷 後期：水 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15					

設置基準及び指定規則と本学教育課程の対応表

理学療法学科

【理学療法学科】	理学療法士 作業療法士 施設指定 規則	単位数	基礎分野			専門基礎分野			専門分野					その他	計	
			科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎理学療法学	理学療法管理学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学			臨床実習
			14	12	14	4	6	2	6	20	3	20				
		授業時間数	210h(推)			900h(推)			1,110h(推)					900h(推)	101	3,120h
専門職大学設置基準	①基礎科目	20	20													20
	②職業専門科目 理学療法理論科目群	40 (60-④)		14	14	2										30
	③職業専門科目 職業実践科目群(④除く)						6	2	5	21	3				37	
	④臨地実務実習	20									20				20	
	⑤展開科目	20											20		20	
	⑥総合科目	4					2		1	1					4	
	合計単位数	124	20			14	14	4	6	2	6	22	3	20	20	131
	指定規則上の授業科目の授業時間数			最小300h 最大315h			855h			1,080h					900h	最小3135h 最大3150h
	合計授業時間数(全体)			最小300h 最大315h			855h			1,080h					900h	最小3,435h 最大3,480h

作業療法学科

【作業療法学科】	理学療法士 作業療法士 施設指定 規則	単位数	基礎分野			専門基礎分野			専門分野					その他	計	
			科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎作業療法学	作業療法管理学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法学			臨床実習
			14	12	14	4	5	2	5	19	4	22				
		授業時間数	210(推)			900h(推)			1,050h(推)					990(推)	101	3,150h
専門職大学設置基準	①基礎科目	20	20													20
	②職業専門科目 作業療法理論科目群	40 (60-④)		13	14	3										30
	③職業専門科目 職業実践科目群(④除く)						5	2	5	18	4				34	
	④臨地実務実習	20									22				22	
	⑤展開科目	20											20		20	
	⑥総合科目	4					2		1	1					4	
	合計単位数	124	20			13	14	5	5	2	6	19	4	22		130
	指定規則上の授業科目の授業時間数			最小300h 最大315h			855h			1,005h					990h	最小3,150h 最大3165h
	合計授業時間数(全体)			最小300h 最大315h			840h			1,005h					990h	最小3,540h 最大3,570h

講義科目における単位と授業時間の整理表

理学療法学科

講義	基礎科目	職業専門科目 (理学療法理論科目群)	職業専門科目 (職業実践科目群)	展開科目	総合科目
1単位15時間	学びの基盤、コミュニケーション論、音楽、キャリア発達論、教育学、倫理学入門、哲学入門、心理学、経営学入門、社会学、日本の伝統文化、日本の近代史、生物学、物理学Ⅰ・Ⅱ、統計学、数学、英語Ⅰ・Ⅱ、韓国語、中国語	人間発達学、救急援助論、精神医学、薬理学概論、予防医学、画像診断学、栄養学、社会福祉学	基礎理学療法Ⅰ、基礎理学療法Ⅱ、基礎理学療法研究法、理学療法管理学、保健医療福祉関連制度論、画像評価学、徒手理学療法学、物理療法学、地域理学療法学	マーケティング論、施設起業運営論、ボランティア論、子育て支援論、災害支援論、教育支援論、メンタルヘルスマネジメント論、障がい者スポーツ論、生涯スポーツ論、労働衛生論、体力測定論、パフォーマンス向上論、遊びとレクリエーション、シューフィッティング論、福祉工学地域活用論、ロボット工学地域活用論基礎、スポーツリズムトレーニング論	
2単位30時間				地域共生論、身体障がい者就業環境論、フィットネス論、ランニングトレーニング論、ゴルフトレーニング論、ビジョントレーニング論、生きがい創造、伝承遊び、身体障がい者就業環境論、組織運営論、ロボット工学地域活用論応用	
1単位30時間		解剖学Ⅲ、運動学Ⅰ・Ⅱ、内科学Ⅰ・Ⅱ、神経内科学Ⅰ・Ⅱ、整形外科Ⅰ・Ⅱ、小児科学、老年医学、地域包括ケア論、リハビリテーション概論	理学療法評価学、運動療法学、日常生活活動学、義肢装具学Ⅰ、義肢装具学Ⅱ		
2単位60時間		解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ			

作業療法学科

講義	基礎科目	職業専門科目 (作業療法理論科目群)	職業専門科目 (職業実践科目群)	展開科目	総合科目
1単位15時間	学びの基盤、コミュニケーション論、音楽、キャリア発達論、教育学、倫理学入門、哲学入門、心理学、経営学入門、社会学、日本の伝統文化、日本の近代史、生物学、物理学Ⅰ・Ⅱ、統計学、数学、英語Ⅰ・Ⅱ、韓国語、中国語	人間発達学、救急援助論、薬理学概論、予防医学、画像診断学、栄養学、社会福祉学	基礎作業学、作業療法研究法、作業療法管理・制度論、作業療法と倫理、家族援助論	マーケティング論、施設起業運営論、ボランティア論、子育て支援論、災害支援論、教育支援論、メンタルヘルスマネジメント論、障がい者スポーツ論	
2単位30時間				地域社会共生論、精神障がい者就業環境論、身体障がい者就業環境論、老年期地域社会適応論、成人期地域社会適応論、児童期地域社会適応論	
1単位30時間		解剖学Ⅲ、運動学Ⅰ・Ⅱ、内科学Ⅰ・Ⅱ、神経内科学Ⅰ・Ⅱ、整形外科Ⅰ・Ⅱ、精神医学、小児科学、老年医学、地域包括ケア論、リハビリテーション概論	作業療法学総論、作業療法評価学総論、身体障害作業療法基礎技術論、精神障害作業療法学、老年期障害作業療法学、作業分析活用論、住環境支援論、地域生活作業療法学総論		
2単位60時間		解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ			

教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			1単位当たりの授業時間数	総授業時間数	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
① 基礎科目	初年次教育科目 学びの基盤 コミュニケーション論	1前	1			○			15	15	
		1前	1			○			15	15	
	音楽 キャリア発達論 教育学 倫理学入門 哲学入門 心理学 経営学入門 社会学 日本の伝統文化 日本の近代史 体育	1後			1		○			15	15
		2後	1				○			15	15
		1前	1				○			15	15
		1前	1				○			15	15
		1前			1		○			15	15
		1後	1				○			15	15
		2前			1		○			15	15
		1前			1		○			15	15
		1前			1		○			15	15
		1前			1		○			15	15
		1後			1				○	30	30
		自然科学系科目	生物学	1前	1			○			15
	物理学Ⅰ		1前	1			○			15	15
	物理学Ⅱ		1後		1		○			15	15
	統計学		2後	1			○			15	15
	数学		1前		1		○			15	15
	語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1			○			15	15
		英語Ⅱ	1後		1		○			15	15
韓国語		2後		1		○			15	15	
中国語		2後		1		○			15	15	
小計 (22科目)		—	10	12	0	—					
② 職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			○			30	60
		解剖学Ⅱ	1後	2			○			30	60
		解剖学Ⅲ	1後	1			○			30	30
		生理学Ⅰ	1前	2			○			30	60
		生理学Ⅱ	1後	2			○			30	60
		運動学Ⅰ	1後	1			○			30	30
		運動学Ⅱ	2前	1			○			30	30
		運動学実習	2後	1					○	30	30
		運動生理学実習	2後	1					○	30	30
		人間発達学	1後	1			○			15	15
		救急援助論	2後	1			○			15	15
		内科学Ⅰ	2前	1			○			30	30
		内科学Ⅱ	2後	1			○			30	30
		神経内科学Ⅰ	2前	1			○			30	30
		神経内科学Ⅱ	2後	1			○			30	30
		整形外科Ⅰ	2前	1			○			30	30
		整形外科Ⅱ	2後	1			○			30	30
		精神医学	1後	1			○			15	15
		小児科学	2前	1			○			30	30
		老年医学	2前	1			○			30	30
		薬理学概論	1後	1			○			15	15
		予防医学	3前	1			○			15	15
		画像診断学	2前	1			○			15	15
		栄養学	2前	1			○			15	15
		社会福祉学	2後	1			○			15	15
		地域包括ケア論	3前	1			○			30	30
リハビリテーション概論	1前	1			○			30	30		

教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			1単位当たりの授業時間数	総授業時間数
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
②職業専門科目	基礎理学療法学Ⅰ	1前	1			○			15	15
	基礎理学療法学Ⅱ	1前	1			○			15	15
	基礎理学療法学実習Ⅰ	1後	1					○	30	30
	基礎理学療法研究法	3前	1			○			15	15
	基礎理学療法学実習Ⅱ	1後	1					○	30	30
	臨床技能論実習	3前	1					○	30	30
	理学療法管理学	4後	1			○			15	15
	保健医療福祉関連制度論	4後	1			○			15	15
	理学療法評価学	1後	1			○			30	30
	理学療法評価学実習	2前	2					○	30	60
	理学療法評価学演習	3前	1				○		30	30
	画像評価学	2後	1			○			15	15
	運動療法学	2前	1			○			30	30
	運動療法学実習	2後	1					○	30	30
	徒手理学療法学	3前	1			○			15	15
	徒手理学療法学実習	3後	1					○	30	30
	物理療法学	2前	1			○			15	15
	日常生活活動学	2前	1			○			30	30
	義肢装具学Ⅰ	2前	1			○			30	30
	義肢装具学Ⅱ	2後	1			○			30	30
	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1					○	30	30
	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1					○	30	30
	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	2後	1					○	30	30
	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1					○	30	30
	内部障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1					○	30	30
	内部障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1					○	30	30
	小児期理学療法学演習	2後	1					○	30	30
	老年期理学療法学演習	2後	1					○	30	30
	スポーツ障害系理学療法学実習	2後	1					○	30	30
	神経筋骨格障害応用論実習	4後			2			○	45	90
	内部障害応用論実習	4後			2			○	45	90
	スポーツ障害応用論実習	4後			2			○	45	90
	地域理学療法学	2後	1				○		15	15
	地域理学療法学実習	3前	1					○	30	30
	理学療法見学実習Ⅰ	1前	1					臨	45	45
	理学療法見学実習Ⅱ	1後	1					臨	45	45
	理学療法見学実習Ⅲ	2前	1					臨	45	45
	理学療法評価実習	3前	4					臨	45	180
	理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6					臨	45	270
	理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6					臨	45	270
理学療法地域実習	4前	1					臨	45	45	
小計(68科目)		—	83	6	0		—			

教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			1単位当たりの授業時間数	総授業時間数
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
③ 展 開 科 目	マーケティング論	3後	1			○			15	15
	施設起業運営論	3後	1			○			15	15
	ボランティア論	1後	1			○			15	15
	生涯スポーツ論	1前	1			○			15	15
	労働衛生論	1後	1			○			15	15
	子育て支援論	2前	1			○			15	15
	災害支援論	2前	1			○			15	15
	教育支援論	2前	1			○			15	15
	メンタルヘルスマネジメント論	3後		1		○			15	15
	地域共生論	3前	2			○			15	30
	障がい者スポーツ論	3後	1			○			15	15
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					○	30	30
	スポーツリズムトレーニング論	3後		1		○			15	15
	体力測定論	3後		1		○			15	15
	健康増進実践演習	3後		1			○		30	30
	健康増進実践実習	3後		1				○	30	30
	パフォーマンス向上論	3後		1		○			15	15
	フィットネス論	3後		2		○			15	30
	ランニングトレーニング論	3後		2		○			15	30
	ゴルフトレーニング論	3後		2		○			15	30
	ビジョントレーニング論	3後		2		○			15	30
	遊びとレクリエーション	3後		1		○			15	15
	生きがい創造	3後		2		○			15	30
	伝承遊び	3後		2		○			15	30
	シューフィッティング論	3後		1		○			15	15
	福祉工学地域活用論	3後		1		○			15	15
	ロボット工学地域活用論基礎	3後		1		○			15	15
	ロボット工学地域活用論応用	3後		2		○			15	30
	身体障がい者就労環境論	3後		2		○			15	30
	組織運営論	3後		2		○			15	30
小計 (30科目)		—	12	28	0		—			
④ 総 合 科 目	協働連携論総合実習	4後	2					○	30	60
	理学療法総合実習	4後	1					○	30	30
	リハビリテーション総合演習	3後	1				○		30	30
	小計 (3科目)		—	4	0	0		—		
合計 (123科目)		—	109	46	0		—			

教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			1単位当たりの授業時間数	総授業時間数	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
① 基礎科目	教育科目 初年次 学びの基盤	1前	1			○			15	15	
	コミュニケーション論	1前	1			○			15	15	
	人間と社会系科目	音楽	1後		1		○			15	15
		キャリア発達論	2後	1			○			15	15
		教育学	1前	1			○			15	15
		倫理学入門	1前	1			○			15	15
		哲学入門	1前		1		○			15	15
		心理学	1後	1			○			15	15
		経営学入門	2前		1		○			15	15
		社会学	1前	1			○			15	15
		日本の伝統文化	1前		1		○			15	15
		日本の近代史	1前		1		○			15	15
	体育	1後		1				○	30	30	
	自然科学系科目	生物学	1前	1			○			15	15
		物理学Ⅰ	1前	1			○			15	15
		物理学Ⅱ	1後		1		○			15	15
		統計学	2後	1			○			15	15
		数学	1前		1		○			15	15
		語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1			○			15
	英語Ⅱ		1後		1		○			15	15
	韓国語		2後		1		○			15	15
	中国語		2後		1		○			15	15
小計 (22科目)		—	11	11	0	—					
② 職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			○			30	60
		解剖学Ⅱ	1後	2			○			30	60
		解剖学Ⅲ	1後	1			○			30	30
		生理学Ⅰ	1前	2			○			30	60
		生理学Ⅱ	1後	2			○			30	60
		運動学Ⅰ	1前	1			○			30	30
		運動学Ⅱ	1後	1			○			30	30
		運動学実習	2前	1					○	30	30
		人間発達学	1後	1			○			15	15
		救急援助論	2後	1			○			15	15
		内科学Ⅰ	2前	1			○			30	30
		内科学Ⅱ	2後	1			○			30	30
		神経内科学Ⅰ	2前	1			○			30	30
		神経内科学Ⅱ	2後	1			○			30	30
		整形外科Ⅰ	2前	1			○			30	30
		整形外科Ⅱ	2後	1			○			30	30
		精神医学	2前	1			○			30	30
		小児科学	2前	1			○			30	30
		老年医学	2前	1			○			30	30
		薬理学概論	1後	1			○			15	15
		予防医学	3前	1			○			15	15
		画像診断学	2前	1			○			15	15
栄養学	2前	1			○			15	15		
社会福祉学	2後	1			○			15	15		
地域包括ケア論	2後	1			○			30	30		
リハビリテーション概論	1前	1			○			30	30		

教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			1単位当たりの授業時間数	総授業時間数	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
② 職業専門科目	職業実践科目群										
		作業療法学総論	1前	1			○			30	30
		基礎作業学	1前	1			○			15	15
		基礎作業学実習Ⅰ	1前	1					○	30	30
		基礎作業学実習Ⅱ	1後	1					○	30	30
		作業療法研究法	3前	1			○			15	15
		作業療法管理・制度論	1後	1			○			15	15
		作業療法と倫理	1後	1			○			15	15
		作業療法評価学総論	1後	1			○			30	30
		身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	2前	1					○	30	30
		身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	2前	1					○	30	30
		精神障害作業療法評価学実習	2前	1					○	30	30
		発達障害作業療法評価学実習	2前	1					○	30	30
		身体障害作業療法基礎技術論	2後	1			○			30	30
		運動器疾患作業療法学実習	2後	1					○	30	30
		中枢神経疾患作業療法学実習	2後	1					○	30	30
		高次脳機能障害作業療法学実習	3前	1					○	30	30
		精神障害作業療法学	2後	1			○			30	30
		精神障害作業療法学実習	3前	1					○	30	30
		発達障害作業療法学実習Ⅰ	2後	1					○	30	30
		発達障害作業療法学実習Ⅱ	3前	1					○	30	30
		老年期障害作業療法学	2後	1			○			30	30
		老年期障害作業療法学実習	3前	1					○	30	30
		日常生活活動論実習	2前	1					○	30	30
		社会生活行為論実習	2前	1					○	30	30
		作業分析活用論	2後	1			○			30	30
		作業分析活用論実習	2後	1					○	30	30
		家族援助論	3前	1			○			15	15
		住環境支援論	3前	1			○			30	30
		作業療法義肢装具実習	2後	1					○	30	30
		生活行為向上マネジメント論実習	3前	1					○	30	30
		地域生活作業療法学総論	2前	1			○			30	30
		地域生活作業療法学実習Ⅰ	2後	1					○	30	30
		地域生活作業療法学実習Ⅱ	2後	1					○	30	30
		地域生活作業療法学実習Ⅲ	3前	1					○	30	30
		作業療法見学実習Ⅰ	1後	1					臨	45	45
		作業療法見学実習Ⅱ	2前	1					臨	45	45
		作業療法評価実習	3前	5					臨	45	225
		作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7					臨	45	315
		作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7					臨	45	315
		作業療法地域実習	4前	1					臨	45	45
		小計 (66科目)	—	86	0	0	—	—			

教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			1単位当 たりの授業時 間数	総授業 時間数
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習		
③ 展 開 科 目	マーケティング論	2後	1			○			15	15
	施設起業運営論	3前	1			○			15	15
	ボランティア論	1前	1			○			15	15
	子育て支援論	2前	1			○			15	15
	災害支援論	1後	1			○			15	15
	教育支援論	2後	1			○			15	15
	メンタルヘルスマネジメント論	2前	1			○			15	15
	障がい者スポーツ論	3後	1			○			15	15
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					○	30	30
	地域社会共生論	1前	2			○			15	30
	地域社会共生論実習	1後	1					○	45	45
	精神障がい者就労環境論	3後	2			○			15	30
	身体障がい者就労環境論	3後	2			○			15	30
	就労環境論実習	4前	1					○	45	45
	老年期地域生活適応論	3後		2		○			15	30
	老年期地域生活適応論実習	4前		1				○	45	45
	成人期地域生活適応論	3後		2		○			15	30
	成人期地域生活適応論実習	4前		1				○	45	45
	児童期地域生活適応論	3後		2		○			15	30
	児童期地域生活適応論実習	4前		1				○	45	45
小計 (20科目)		—	17	9	0	—				
④ 総 合 科 目	協働連携論総合実習	4後	2					○	30	60
	作業療法総合実習 I	4後	1					○	30	30
	作業療法総合実習 II	4後	1					○	30	30
	小計 (3科目)		—	4	0	0	—			
合計 (111科目)		—	118	11	0	—				

理学療法学科 1年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	学びの基盤	解剖学Ⅰ	哲学入門	生物学	リハビリテーション 概論
	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10		日本の近代史			英語Ⅰ
		1単位15時間 30時間			1単位15時間 30時間
3限 13:00~14:30	基礎理学療法学Ⅰ		倫理学入門	解剖学Ⅰ	
	1単位15時間 30時間		1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	
4限 14:40~16:10		生理学Ⅰ		生理学Ⅰ	
		1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間	
5限 16:20~17:50					

※理学療法見学実習Ⅰ 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = 30$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = 7.5$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = 30$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
30.9時間	4.4時間	2.4回	3.9時間

理学療法学科 1年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	解剖学Ⅰ 1単位30時間 7.5時間				リハビリテーション 概論 1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10	コミュニケーション論 1単位15時間 30時間	教育学 1単位15時間 30時間		物理学Ⅰ 1単位15時間 30時間	
3限 13:00~14:30	数学 1単位15時間 30時間				解剖学Ⅰ 1単位30時間 7.5時間
					生涯スポーツ論 1単位15時間 30時間
4限 14:40~16:10	基礎理学療法Ⅱ 1単位15時間 30時間	生理学Ⅰ 1単位30時間 7.5時間	社会学 1単位15時間 30時間	生理学Ⅰ 1単位30時間 7.5時間	
5限 16:20~17:50					

※理学療法見学実習Ⅰ 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
30.9時間	4.4時間	2.4回	3.9時間

理学療法学科 1年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	基礎理学療法学実習Ⅰ	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱ	運動学Ⅰ	理学療法評価学
	1単位30時間 7.5時間				
2限 10:40~12:10	基礎理学療法学実習Ⅱ	物理学Ⅱ	労働衛生論	薬理学概論	英語Ⅱ
	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間
3限 13:00~14:30	心理学	生理学Ⅱ	体育	解剖学Ⅲ	
	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	
4限 14:40~16:10				生理学Ⅱ	
				1単位30時間 7.5時間	
5限 16:20~17:50					

※理学療法見学実習Ⅱ 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = 30$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = 7.5$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = 30$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
28.1時間	4.0時間	3.0回	3.0時間

理学療法学科 1年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	基礎理学療法実習Ⅰ	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱ	運動学Ⅰ	理学療法評価学
	1単位30時間 7.5時間				
2限 10:40~12:10	基礎理学療法実習Ⅱ				
	1単位30時間 7.5時間				
3限 13:00~14:30		生理学Ⅱ	体育	解剖学Ⅲ	精神医学
		1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間
4限 14:40~16:10	人間発達学	音楽	ボランティア論	生理学Ⅱ	
	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	
5限 16:20~17:50					

※理学療法見学実習Ⅱ 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
24.4時間	3.5時間	2.8回	3.3時間

理学療法学科 2年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	運動療法学	小児科学	運動学Ⅱ	物理療法学	日常生活活動学
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10	理学療法評価学実習	整形外科Ⅰ	老年医学		神経内科学Ⅰ
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30	義肢装具学Ⅰ	内科学Ⅰ	理学療法評価学実習	画像診断学	
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	
4限 14:40~16:10	災害支援論				経営学入門
	1単位15時間 30時間				1単位15時間 30時間
5限 16:20~17:50					

※理学療法見学実習Ⅲ 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

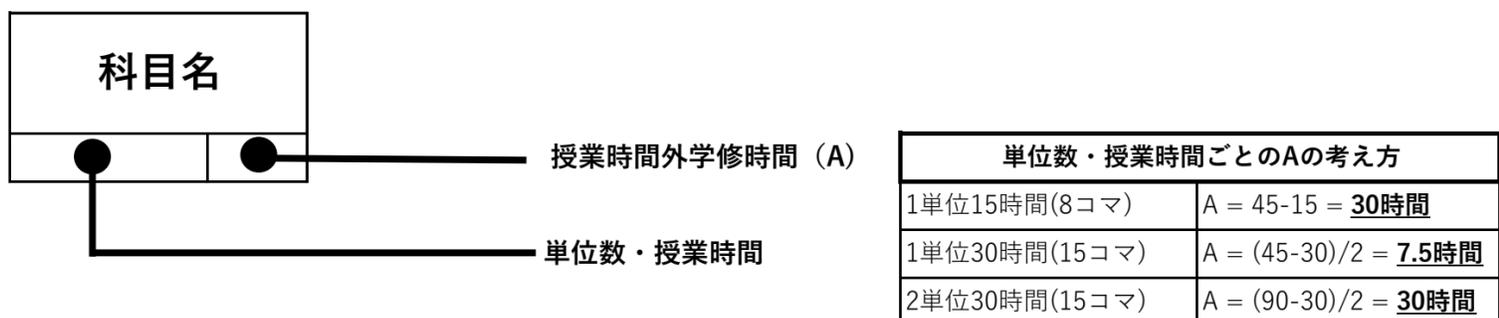
単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
25.3時間	3.6時間	3.0回	3.0時間

理学療法学科 2年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	運動療法学	小児科学	運動学Ⅱ		日常生活活動学
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10	理学療法評価学実習	整形外科Ⅰ	老年医学	栄養学	神経内科学Ⅰ
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30	義肢装具学Ⅰ	内科学Ⅰ	理学療法評価学実習		教育支援論
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間		1単位15時間 30時間
4限 14:40~16:10			子育て支援論		
			1単位15時間 30時間		
5限 16:20~17:50					

※理学療法見学実習Ⅲ 1単位45時間



1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
21.6時間	3.1時間	2.8回	3.3時間

理学療法学科 2年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	運動学実習		小児期理学療法学演習		義肢装具学 II
	1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10	画像評価学	内科学 II		神経内科学 II	運動生理学実習
	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30	運動療法学実習	整形外科学 II	救急援助論	社会福祉学	
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間	
4限 14:40~16:10	スポーツ障害系 理学療法学実習	中国語		運動器障害系 理学療法学実習 I	老年期理学療法学演習
	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間		1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間
5限 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30}$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5}$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30}$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
25.3時間	3.6時間	3.0回	3.0時間

理学療法学科 2年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	運動学実習	キャリア発達論	小児期理学療法学演習	地域理学療法学	義肢装具学Ⅱ
	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10		内科学Ⅱ	統計学	神経内科学Ⅱ	運動生理学実習
		1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30	運動療法学実習	整形外科Ⅱ			
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間			
4限 14:40~16:10	スポーツ障害系 理学療法学実習			運動器障害系 理学療法学実習Ⅰ	老年期理学療法学演習
	1単位30時間 7.5時間			1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間
5限 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

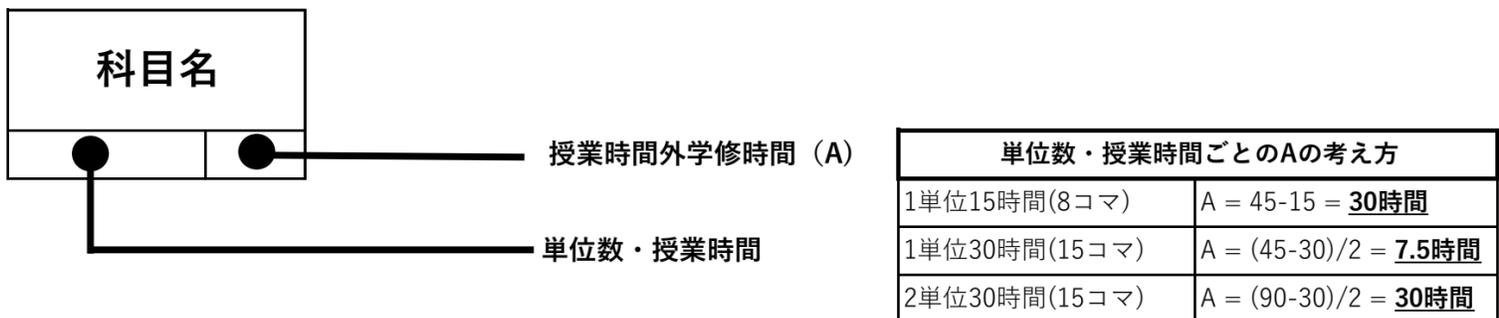
単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30}$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5}$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30}$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
21.6時間	3.1時間	2.8回	3.3時間

理学療法学科 3年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	臨床技能論実習	徒手理学療法学	地域包括ケア論	予防医学	運動器障害系 理学療法学実習 II
	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10	神経障害系 理学療法学実習 II	地域理学療法学実習		内部障害系 理学療法学実習 I	内部障害系 理学療法学実習 II
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30	理学療法評価学演習				地域共生論
	1単位30時間 7.5時間				2単位30時間 30時間
4限 14:40~16:10			神経障害系 理学療法学実習 I		
			1単位30時間 7.5時間		
5限 16:20~17:50					

※理学療法評価実習 4単位180時間



1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
19.7時間	2.8時間	2.4回	3.9時間

理学療法学科 3年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	臨床技能論実習		地域包括ケア論		運動器障害系 理学療法実習 II
	1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10	神経障害系 理学療法実習 II	地域理学療法実習		内部障害系 理学療法実習 I	内部障害系 理学療法実習 II
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30	理学療法評価学演習		基礎理学療法研究法		地域共生論
	1単位30時間 7.5時間		1単位15時間 30時間		2単位30時間 30時間
4限 14:40~16:10			神経障害系 理学療法実習 I		
			1単位30時間 7.5時間		
5限 16:20~17:50					

※理学療法評価実習 4単位180時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
15.9時間	2.3時間	2.2回	4.2時間

理学療法学科 3年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30		ランニング トレーニング論			
		2単位30時間 30時間			
2限 10:40~12:10		フィットネス論	ゴルフトレーニング論		
		2単位30時間 30時間	2単位30時間 30時間		
3限 13:00~14:30			徒手理学療法実習	リハビリテーション 総合演習	
			1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	
4限 14:40~16:10	マーケティング論		ビジョントレーニング 論		
	1単位15時間 30時間		2単位30時間 30時間		
5限 16:20~17:50					

※理学療法総合臨床実習Ⅰ 6単位270時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
20.6時間	2.9時間	1.4回	5.4時間

理学療法学科 3年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30		ランニング トレーニング論			
		2単位30時間 30時間			
2限 10:40~12:10		フィットネス論	ゴルフトレーニング論		
		2単位30時間 30時間	2単位30時間 30時間		
3限 13:00~14:30	障がい者スポーツ論		徒手理学療法実習	リハビリテーション 総合演習	
	1単位15時間 30時間		1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	
4限 14:40~16:10		施設起業運営論	ビジョントレーニング 論		
		1単位15時間 30時間	2単位30時間 30時間		
5限 16:20~17:50					

※理学療法総合臨床実習Ⅰ 6単位270時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
24.4時間	3.5時間	1.6回	5.1時間

理学療法学科 4年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30					
2限 10:40~12:10					
3限 13:00~14:30			障がい者スポーツ論 実習		
			1単位30時間 7.5時間		
4限 14:40~16:10					
5限 16:20~17:50					

※理学療法総合臨床実習Ⅱ 6単位270時間

理学療法地域実習 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
0.9時間	0.1時間	0.2回	7.2時間

理学療法学科 4年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30					
2限 10:40~12:10					
3限 13:00~14:30			障がい者スポーツ論 実習		
			1単位30時間	7.5時間	
4限 14:40~16:10					
5限 16:20~17:50					

※理学療法総合臨床実習Ⅱ 6単位270時間

理学療法地域実習 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
0.9時間	0.1時間	0.2回	7.2時間

理学療法学科 4年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30					理学療法管理学
					1単位15時間 30時間
2限 10:40~12:10					
3限 13:00~14:30			協働連携論総合実習		
			1単位30時間 7.5時間		
4限 14:40~16:10			協働連携論総合実習		
			1単位30時間 7.5時間		
5限 16:20~17:50					

※スポーツ障害応用論実習 2単位90時間

神経筋骨格障害応用論実習 2単位90時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30}$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5}$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30}$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
6.6時間	0.9時間	0.8回	6.3時間

理学療法学科 4年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30					
2限 10:40~12:10					保険医療福祉 関連制度論 1単位15時間 30時間
3限 13:00~14:30			協働連携論総合実習 1単位30時間 7.5時間		
4限 14:40~16:10			協働連携論総合実習 1単位30時間 7.5時間		理学療法総合実習 1単位30時間 7.5時間
5限 16:20~17:50					

※スポーツ障害応用論実習 2単位90時間

神経筋骨格障害応用論実習 2単位90時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
6.6時間	0.9時間	0.8回	6.3時間

作業療法学科 1年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	学びの基盤	生理学Ⅰ	基礎作業学	地域社会共生論	リハビリテーション 概論
	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	2単位30時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10					生物学
					1単位15時間 30時間
3限 13:00~14:30	作業療法学総論	解剖学Ⅰ	哲学入門	生理学Ⅰ	運動学Ⅰ
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間
4限 14:40~16:10	倫理学入門	日本の近代史	基礎作業学実習Ⅰ	解剖学Ⅰ	英語Ⅰ
	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間
5限 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	$B / 7 (1週間)$	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5時間$
37.5時間	5.4時間	3.2回	2.7時間

作業療法学科 1年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	コミュニケーション論	生理学Ⅰ	社会学	地域社会共生論	リハビリテーション 概論
	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	2単位30時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10	数学				物理学Ⅰ
	1単位15時間 30時間				1単位15時間 30時間
3限 13:00~14:30	作業療法学総論	解剖学Ⅰ	ボランティア論	生理学Ⅰ	運動学Ⅰ
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間
4限 14:40~16:10	教育学	日本の伝統文化	基礎作業学実習Ⅰ	解剖学Ⅰ	
	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	
5限 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	$B/7(1週間)$	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5時間$
37.4時間	5.4時間	3.2回	2.7時間

作業療法学科 1年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	基礎作業学実習Ⅱ	生理学Ⅱ	作業療法評価学総論	運動学Ⅱ	薬理学概論
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間
2限 10:40~12:10		災害支援論		生理学Ⅱ	作業療法と倫理
		1単位15時間 30時間		1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間
3限 13:00~14:30		解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅲ	英語Ⅱ
		1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間
4限 14:40~16:10	心理学				
	1単位15時間 30時間				
5限 16:20~17:50					

※地域社会共生論実習 1単位45時間別枠確保

※作業療法見学実習Ⅰ 1単位45時間別枠確保



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = 30$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = 7.5$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = 30$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	$B / 7$ (1週間)	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5$ 時間
26.3時間	3.8時間	2.6回	3.6時間

作業療法学科 1年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	基礎作業学実習Ⅱ	生理学Ⅱ	作業療法評価学総論	運動学Ⅱ	作業療法管理・制度論
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間
2限 10:40~12:10	人間発達学			生理学Ⅱ	物理学Ⅱ
	1単位15時間 30時間			1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間
3限 13:00~14:30		解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅲ	
		1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	
4限 14:40~16:10			音楽		
			1単位15時間 30時間		
5限 16:20~17:50					

※地域社会共生論実習 1単位45時間別枠確保

※作業療法見学実習Ⅰ 1単位45時間別枠確保



単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
22.5時間	3.2時間	2.4回	3.9時間

作業療法学科 2年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	内科学Ⅰ	老年医学	精神障害作業療法評価学実習	社会生活行為論実習
	1単位30時間 7.5時間				
2限 10:40~12:10	地域生活作業療法学総論	小児科学		画像診断学	経営学入門
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間		1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間
3限 13:00~14:30	日常生活活動論実習	整形外科Ⅰ	発達障害作業療法評価学実習	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	神経内科学Ⅰ
	1単位30時間 7.5時間				
4限 14:40~16:10	メンタルヘルスマネジメント論	運動学実習			
	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間			
5限 16:20~17:50					

※作業療法見学実習Ⅱ 1単位45時間 別枠確保



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
23.4時間	3.3時間	3.2回	2.7時間

作業療法学科 2年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	内科学Ⅰ	老年医学	精神障害作業療法評価学実習	社会生活行為論実習
	1単位30時間 7.5時間				
2限 10:40~12:10	地域生活作業療法学総論	小児科学	精神医学	栄養学	子育て支援論
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間
3限 13:00~14:30	日常生活活動論実習	整形外科学Ⅰ	発達障害作業療法評価学実習	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	神経内科学Ⅰ
	1単位30時間 7.5時間				
4限 14:40~16:10		運動学実習			
		1単位30時間 7.5時間			
5限 16:20~17:50					

※作業療法見学実習Ⅱ 1単位45時間 別枠確保

科目名
<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; border-radius: 50%;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; border-radius: 50%;"></div> </div>

授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
23.4時間	3.3時間	3.2回	2.7時間

作業療法学科 2年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	地域包括ケア論	内科学Ⅱ	運動器疾患作業療法学 実習	神経内科学Ⅱ	身体障害作業療法基礎 技術論
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10	作業分析活用論	整形外科学Ⅱ	救急援助論	社会福祉学	精神障害作業療法学
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30	中枢神経疾患作業療法 学実習	中国語	作業分析活用論実習	教育支援論	作業療法義肢装具実習
	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
4限 14:40~16:10	老年期障害作業療法学	地域生活作業療法学実 習Ⅰ	地域生活作業療法学実 習Ⅱ	発達障害作業療法学実 習Ⅰ	
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	
5限 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
29.1時間	4.2時間	3.8回	1.8時間

作業療法学科 2年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	地域包括ケア論	内科学Ⅱ	運動器疾患作業療法学 実習	神経内科学Ⅱ	身体障害作業療法基礎 技術論
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10	作業分析活用論	整形外科学Ⅱ	統計学	キャリア発達論	精神障害作業療法学
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30	中枢神経疾患作業療法 学実習	韓国語	作業分析活用論実習	マーケティング論	作業療法義肢装具実習
	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
4限 14:40~16:10	老年期障害作業療法学	地域生活作業療法学実 習Ⅰ	地域生活作業療法学実 習Ⅱ	発達障害作業療法学実 習Ⅰ	
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	
5限 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
29.1時間	4.2時間	3.8回	1.8時間

作業療法学科 3年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	高次脳機能障害作業療 法学実習	作業療法研究法	住環境支援論		老年期障害作業療法学 実習
	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10	精神障害作業療法学実 習	発達障害作業療法学実 習Ⅱ		予防医学	生活行為向上マネジメ ント論実習
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間		1単位15時間 30時間	1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30	施設起業運営論			地域生活作業療法学実 習Ⅲ	
	1単位15時間 30時間			1単位30時間 7.5時間	
4限 14:40~16:10					
5限 16:20~17:50					

※作業療法評価実習 5単位225時間 別枠確保

科目名

●————— 授業時間外学修時間 (A)

●————— 単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	$B / 7 (1週間)$	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5時間$
17.8時間	2.5時間	2.0回	4.5時間

作業療法学科 3年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	高次脳機能障害 作業療法学実習		住環境支援論		老年期障害作業 療法学実習
	1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間		1単位30時間 7.5時間
2限 10:40~12:10	精神障害作業 療法学実習	発達障害作業療法学 実習 II	家族援助論		生活行為向上マネジメ ント論実習
	1単位30時間 7.5時間	1単位30時間 7.5時間	1単位15時間 30時間		1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30				地域生活作業 療法学実習 III	
				1単位30時間 7.5時間	
4限 14:40~16:10					
5限 16:20~17:50					

※作業療法評価実習 5単位225時間 (2022年 7/4 (月) ~7/31 (日))



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
10.3時間	1.5時間	1.6回	5.1時間

作業療法学科 3年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30	児童期地域生活適応論			身体障がい者就労環境論	精神障がい者就労環境論
	2単位・30時間 30時間			2単位・30時間 30時間	2単位・30時間 30時間
2限 10:40~12:10	障がい者スポーツ論				
	1単位・15時間 30時間				
3限 13:00~14:30					
4限 14:40~16:10					
5限 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
15.0時間	2.1時間	0.8	6.3時間

作業療法学科 3年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30					
2限 10:40~12:10					
3限 13:00~14:30					
4限 14:40~16:10					
5限 16:20~17:50					

※作業療法総合臨床実習Ⅰ 7単位315時間 (2023年 1/9 (月) ~2/19 (日))

科目名

授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
0時間	0時間	0回	7.5時間

作業療法学科 4年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30					
2限 10:40~12:10					
3限 13:00~14:30					
4限 14:40~16:10					
5限 16:20~17:50					

※作業療法総合臨床実習 II 7単位315時間 (2023年 4/10 (月) ~5/21 (日))

※作業療法地域実習 1単位45時間

科目名

授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30}$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5}$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30}$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
0時間	0時間	0回	7.5時間

作業療法学科 4年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
1限 9:00~10:30					
2限 10:40~12:10					
3限 13:00~14:30			障がい者スポーツ 論実習 1単位30時間 7.5時間		
4限 14:40~16:10					
5限 16:20~17:50					

※児童期地域生活適応論実習 1単位45時間

※就労環境論実習 1単位45時間

科目名

授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
0.9時間	0.1時間	0.2回	7.2時間

作業療法学科 4年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金	
1限 9:00~10:30						
2限 10:40~12:10	作業療法総合実習 I				作業療法総合実習 II	
	1単位30時間	7.5時間				1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30			協働連携論総合実習			
			1単位30時間	7.5時間		
4限 14:40~16:10			協働連携論総合実習			
			1単位30時間	7.5時間		
5限 16:20~17:50						



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
3.8時間	0.5時間	0.8回	6.3時間

作業療法学科 4年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金	
1限 9:00~10:30						
2限 10:40~12:10	作業療法総合実習Ⅰ				作業療法総合実習Ⅱ	
	1単位30時間	7.5時間				1単位30時間 7.5時間
3限 13:00~14:30			協働連携論総合実習			
			1単位30時間	7.5時間		
4限 14:40~16:10			協働連携論総合実習			
			1単位30時間	7.5時間		
5限 16:20~17:50						



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = 30時間
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = 7.5時間
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = 30時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
3.8時間	0.5時間	0.8回	6.3時間

1日当たりの平均時間外学修時間と1日当たりの平均空き時間

	理学療法学科			作業療法学科		
	1日当たりの平均時間外学修時間	1日当たりの平均授業回数	1日当たりの平均空き時間	1日当たりの平均時間外学修時間	1日当たりの平均授業回数	1日当たりの平均空き時間
1年生前期（前半）	4.4時間	2.4回	3.9時間	5.4時間	3.2回	2.7時間
1年生前期（後半）	4.4時間	2.4回	3.9時間	5.4時間	3.2回	2.7時間
1年生後期（前半）	4.0時間	3.0回	3.0時間	3.8時間	2.6回	3.6時間
1年生後期（後半）	3.5時間	2.8回	3.3時間	3.2時間	2.4回	3.9時間
2年生前期（前半）	3.6時間	3.0回	3.0時間	3.3時間	3.2回	2.7時間
2年生前期（後半）	3.1時間	2.8回	3.3時間	3.3時間	3.2回	2.7時間
2年生後期（前半）	3.6時間	3.0回	3.0時間	4.2時間	3.8回	1.8時間
2年生後期（後半）	3.1時間	2.8回	3.3時間	4.2時間	3.8回	1.8時間
3年生前期（前半）	2.8時間	2.4回	3.9時間	2.5時間	2.2回	4.2時間
3年生前期（後半）	2.3時間	2.2回	4.2時間	1.5時間	1.6回	5.1時間
3年生後期（前半）	2.9時間	1.4回	5.4時間	2.1時間	0.8回	6.3時間
3年生後期（後半）	3.5時間	1.6回	5.1時間	0時間	0回	7.5時間
4年生前期（前半）	0.1時間	0.2回	7.2時間	0時間	0回	7.5時間
4年生前期（後半）	0.1時間	0.2回	7.2時間	0.1時間	0.2回	7.2時間
4年生後期（前半）	0.9時間	0.8回	6.3時間	0.5時間	0.8回	6.3時間
4年生後期（後半）	0.9時間	0.8回	6.3時間	0.5時間	0.8回	6.3時間

専任教員の研究室の割り振り 新旧対照表

(新)								
専任教員の研究室割り振り(再補正申請)								
No.	区分	部屋番号	階数	面積(m ²)	学科	教員氏名	学科	教員氏名
1	個別研究室	研究室1	4	22.91	OT	外池光雄(教)		
2	個別研究室	研究室2	4	22.91	PT	富田 昌夫(教)		
3	個別研究室	研究室3	4	22.91	OT	埜田和史(教)		
4	個別研究室	研究室4	4	22.91	OT	三谷章(教)		
5	個別研究室	研究室5	4	22.91	PT	篠田恵一(教)		
6	個別研究室	研究室6	4	21.74	PT	金沢伸彦(教)		
7	個別研究室	研究室7	4	21.74	PT	千住秀明(教)		
8	個別研究室	研究室8	4	20.85	OT	野田亨(教)		
9	共同研究室	研究室9	4	34.10	PT	分木ひとみ(准)	PT	里中 綾子(講)
10	共同研究室	研究室10	4	30.25	OT	辻村肇(講)	OT	木岡和実(助教)
11	個別研究室	研究室11	4	30.07	OT	井出千束(教)		
12	個別研究室	研究室12	4	30.07	OT	辛島千恵子(教)		
13	共同研究室	研究室13	4	30.07	PT	弘部重信(講)	PT	植田昌治(講)
14	個別研究室	研究室14	4	32.37	PT	山内正雄(教)		
15	個別研究室	研究室15	4	35.54	PT	山田久夫(教)		
16	共同研究室	研究室16	4	35.57	PT	佐藤隆彦(助教)	PT	堀寛史(講)
17	共同研究室	研究室17	1	38.00	OT	園田悠馬(講)	OT	安部征哉(講)
18	共同研究室	研究室18	1	38.00	PT	大西均(准)	PT	宇於崎孝(准)
19	共同研究室	研究室19	1	38.00	OT	大西満(准)	OT	鈴木規己洋(准)
20	共同研究室	研究室20	1	38.00	PT	治郎丸卓三(准)	PT	安田孝志(准)
21	共同研究室	研究室21	1	38.00	PT	川崎浩子(講)	PT	鈴木美香(講)
22	個別研究室	研究室22	1	19.00	PT	兼清健志(准)		
23	個別研究室	研究室23	1	16.15	PT	池谷雅江(講)		
24	共同研究室	研究室24	2	52.00	PT	野口真一(講)	PT	和智道生(講)
					PT	藤谷亮(講)		
25	個別研究室	研究室25	2	16.00	PT	中野法彦(教)		
26	共同研究室	研究室26	3	52.00	OT	嶋川昌典(助教)	OT	河津拓(助教)
					OT	杉本久美子(助教)		
27	個別研究室	研究室27	3	16.00	OT	田中弘一郎(教)		
28	学長室	研究室30	1	28.40	PT	山川正信(教)		

※研究室28、29は助手に充てる。(補正時IF 名称未記載の部屋及び運転手控室)

(旧)								
専任教員の研究室割り振り(補正申請)								
No.	区分	部屋番号	階数	面積(m ²)	教員番号	教員氏名	教員番号	教員氏名
1	個別研究室	研究室1	4	22.91	PT 6	里中綾子(教)		
2	個別研究室	研究室2	4	22.91	PT 4	植田昌治(教)		
3	個別研究室	研究室3	4	22.91	PT 2	金沢伸彦(教)		
4	個別研究室	研究室4	4	22.91	PT 3	中野法彦(教)		
5	個別研究室	研究室5	4	22.91	PT 3	篠田恵一(教)		
6	個別研究室	研究室6	4	21.74	PT 18	山内正雄(教)		
7	個別研究室	研究室7	4	21.74	OT 2	井出千束(教)		
8	個別研究室	研究室8	4	20.85	OT 4	田中弘一郎(教)		
9	個別研究室	研究室9	4	34.10	OT 2	三谷章(教)		
10	個別研究室	研究室10	4	30.25	OT 1	野田亨(教)		
11	個別研究室	研究室11	4	30.07	OT 3	外池光雄(教)		
12	個別研究室	研究室12	4	30.07	OT 1	辛島千恵子(教)		
13	個別研究室	研究室13	4	30.07	OT 3	埜田和史(教)		
14	個別研究室	研究室14	4	32.37	PT 2	山田久夫(教)		
15	共同研究室	研究室15	4	35.54	OT 10	大西満(准)	OT 4	鈴木規己洋(准)
16	共同研究室	研究室16	4	35.57	OT 11	安部征哉(講)	OT 5	澤賢一郎(講)
17	共同研究室	研究室17	1	38.00	PT 9	佐藤隆彦(准)	PT 8	兼清健志(准)
18	共同研究室	研究室18	1	38.00	PT 21	大西均(准)	PT 12	宇於崎孝(准)
19	共同研究室	研究室19	1	38.00	PT 19	治郎丸卓三(准)	PT 20	安田孝志(准)
20	共同研究室	研究室20	1	38.00	PT 13	川崎浩子(講)	PT 14	鈴木美香(講)
21	共同研究室	研究室21	1	38.00	PT 7	分木ひとみ(准)	PT 16	池谷雅江(講)
22	共同研究室	研究室22	1	38.00	PT 15	弘部重信(講)	OT 6	下西徳(講)
23	共同研究室	研究室23	2	52.00	PT 17	野口真一(講)	PT 10	和智道生(講)
					PT 22	藤谷亮(講)		
24	個別研究室	研究室24	2	16.00	PT 5	堀寛史(教)		
25	助教・助手室	研究室25	3	52.00	OT 12	嶋川昌典(助教)	OT 7	木岡和実(助教)
					OT 8	杉本久美子(助教)	OT 9	有田智氏(助教)
					PT 11	佐々木絵美(助教)		鈴木耕平(OT助手)
						寺井淳(OT助手)		前田浩二(OT助手)
26	個別研究室	研究室26	3	16.00		助教・助手室の書庫として使用		
27	学長室	研究室27	1	28.40	PT 1	山川正信(教)		

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
1	イラストで学ぶ ロボット工学 (KS情報科学専門書)	木野 仁 (著), 谷口 忠大 (監修)	講談社	2017	1	¥2,860	ISBN-10: 4061538349 ISBN-13: 978-4061538344
2	はじめてのロボット工学(第2版): 製作を通じて学ぶ基礎と応用	石黒 浩 (著), 浅田 稔 (著), 大和 信夫 (著)	オーム社	2019	1	¥2,640	ISBN-10: 427422340X ISBN-13: 978-4274223402
3	増補版人間工学とユニバーサルデザイン新潮流 実践 ヒューマンセンターデザインのものづくりマニュアル	ユニバーサルデザイン研究会	日本工業出版	2017	1	¥2,860	ISBN-13: 978-4819028196
4	たった一人の分析から事業は成長する 実践 顧客起点マーケティング	西口 一希 (著)	翔泳社	2019	1	¥2,200	ISBN-10: 4798160075 ISBN-13: 978-4798160078
5	USJを劇的に変えた、たった1つの考え方 成功を引き寄せるマーケティング入門	森岡 毅 (著)	角川書店	2016	1	¥1,540	ISBN-10: 4041041414 ISBN-13: 978-4041041413
6	マーケティングの教科書——ハーバード・ビジネス・レビュー 戦略マーケティング論文ベスト10	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4478104409 ISBN-13: 978-4478104408
7	マネジャーの教科書——ハーバード・ビジネス・レビュー マ ネジャー論文ベスト11	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4478103372 ISBN-13: 978-4478103371
8	ハーバード・ビジネス・レビュー意思決定論文ベスト10 意思 決定の教科書	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 4478107572 ISBN-13: 978-4478107577
9	ハーバード・ビジネス・レビュー チームワーク論文ベスト10 チームワークの教科書	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2019	1	¥1,980	ISBN-10: 4478106940 ISBN-13: 978-4478106945
10	ハーバード・ビジネス・レビュー 営業論文ベスト11 営業の教 科書	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2019	1	¥1,980	ISBN-10: 4478106673 ISBN-13: 978-4478106679
11	ハーバード・ビジネス・レビュー イノベーション論文ベスト10 イノベーションの教科書	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 4478106339 ISBN-13: 978-4478106334
12	最新マーケティングの教科書2019 (日経BPムック)	日経クロストrend (編集)	日経BP	2018	1	¥1,540	ISBN-10: 4296101331 ISBN-13: 978-4296101337
13	マーケティング基礎読本増補改訂版 (日経BPムック)	日経デジタルマーケティング (編集)	日経BP	2017	1	¥1,426	ISBN-10: 4822235599 ISBN-13: 978-4822235598
14	入門 起業の科学	田所 雅之 (著)	日経BP	2019	1	¥1,760	ISBN-10: 4296100947 ISBN-13: 978-4296100941
15	起業のファイナンス増補改訂版	磯崎 哲也 (著)	日本実業出版社	2015	1	¥2,530	ISBN-10: 4534052456 ISBN-13: 978-4534052452
16	テキスト市民活動論【第2版】~ボランティア・NPOの実践から 学ぶ	早瀬昇・水谷綾・永井美佳・岡村こ ず恵他 (著)	社会福祉法人 大阪ボ ランティア協会	2017	1	¥1,650	ISBN-10: 4873080703 ISBN-13: 978-4873080703
17	ボランティアを生みだすもの -- 利他の計量社会学	三谷 はるよ (著)	有斐閣	2016	1	¥3,850	ISBN-10: 464117427X ISBN-13: 978-4641174276
18	運動とスポーツの基礎科学	久保山 直己 (著)	学術図書出版社	2018	1	¥2,420	ISBN-10: 4780606004 ISBN-13: 978-4780606003
19	楽しみながら運動能力が身につく! 幼児のためのコーデ ィネーション運動	東根 明人 (著)	明治図書出版	2015	1	¥2,200	ISBN-10: 4181626180 ISBN-13: 978-4181626181
20	楽しく遊んで体づくり! 幼児の運動あそび「幼児期運動指 針」に沿って	吉田 伊津美 (著)	チャイルド社	2015	1	¥2,090	ISBN-10: 4805402253 ISBN-13: 978-4805402252
21	使える! 健康教育・労働衛生教育55選	産業医科大学産業医実務研修セ ンター (編集)	日本労務研究会	2016	1	¥3,520	ISBN-10: 4889681078 ISBN-13: 978-4889681079
22	【新版】ここからはじまる 早わかり労働安全衛生法	近藤 恵子 (著), 小林 浩志 (著), 中 山 寛之 (著)	東洋経済新報社	2016	1	¥1,540	ISBN-10: 4492270582 ISBN-13: 978-4492270585
23	【新版】最新 労働安全衛生ハンドブック	寺岡 忠嗣 (著), 石井 義脩 (著)	新日本法規出版	2019	1	¥5,720	ISBN-10: 4788285096 ISBN-13: 978-4788285095
24	図説 国民衛生の動向 2018	厚生労働統計協会 (編集)	一般財団法人 厚生 労働統計協会	2018	1	¥1,681	ISBN-10: 4875117779 ISBN-13: 978-4875117773
25	改訂6版 図解よくわかる労働安全衛生法	木村嘉勝 (著), 労働調査会出版局 (編集)	労働調査会	2019	1	¥1,980	ISBN-10: 4863197209 ISBN-13: 978-4863197206
26	自治体職員が書いた子ども・子育て支援新制度の基礎が わかる本: 「子どもの最善の利益」「認定こども園化」「待機 児童」「保育の質」「保育の保障」をどうしていくのか	水畑 明彦 (著)	デザインエッグ社	2019	1	¥1,606	ISBN-10: 4815009481 ISBN-13: 978-4815009489
27	子育て支援の親子遊び30分プログラム	永野 美代子 (著)	チャイルド本社	2017	1	¥1,650	ISBN-10: 4805402644 ISBN-13: 978-4805402641
28	子育て支援の環境づくり	高山 静子 (著)	エイデル研究所	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 4871686205 ISBN-13: 978-4871686204
29	子育て支援が日本を救う(政策効果の統計分析)	柴田 悠 (著)	勁草書房	2016	1	¥2,750	ISBN-10: 4326654007 ISBN-13: 978-4326654000
30	保育の専門性を生かした子育て支援「子どもの最善の利 益」をめざして	亀崎 美沙子 (著), 山岸 史 (イラスト)	わかば社	2018	1	¥1,650	ISBN-10: 4907270224 ISBN-13: 978-4907270223

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
31	子育て支援 (MINERVAはじめて学ぶ保育)	名須川知子 (監修), 大方美香 (監修), 伊藤 篤 (編集)	ミネルヴァ書房	2018	1	¥2,420	ISBN-10: 4623079732 ISBN-13: 978-4623079735
32	詳解 地域子育て支援拠点ガイドラインの手引 第3版: 子ども家庭福祉の制度・実践をふまえて	子育てひろば全国連絡協議会 (編集), 渡辺 顕一郎 (著)	中央法規出版	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 4805856467 ISBN-13: 978-4805856468
33	子育て支援 (新・基本保育シリーズ)	西村 重稀 (編集), 青井 夕貴 (編集), 児童育成協会 (監修)	中央法規出版	2019	1	¥2,200	ISBN-10: 4805857994 ISBN-13: 978-4805857991
34	こころに寄り添う災害支援	一般社団法人 日本臨床心理士会 (監修), 奥村 茉莉子 (編集)	金剛出版	2017	1	¥3,740	ISBN-10: 4772415505 ISBN-13: 978-4772415507
35	災害支援者支援	高橋 晶 (著, 編集)	日本評論社	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 4535984700 ISBN-13: 978-4535984707
36	災害・支援・ケアの社会学——地域保健とジェンダーの視点から	板倉有紀 (著)	生活書院	2018	1	¥4,180	ISBN-10: 4865000879 ISBN-13: 978-4865000870
37	特別支援教育 重要用語の基礎知識	小野 隆行 (編集)	学芸みらい社	2018	1	¥2,970	ISBN-10: 4908637733 ISBN-13: 978-4908637735
38	特別支援教育と介護入門	見上 昌睦 (著), 猪狩 恵美子 (著)	あいり出版	2019	1	¥2,200	ISBN-10: 4865550569 ISBN-13: 978-4865550566
39	特別支援教育の理論と実践[第3版]—概論・アセスメント (S.E.N.S養成セミナー)	竹田 契一 (監修), 上野 一彦 (監修), 編集)	金剛出版	2018	1	¥2,970	ISBN-10: 4772416072 ISBN-13: 978-4772416078
40	教育の効果: メタ分析による学力に影響を与える要因の効果の可視化	John Hattie (原著), ジョン ハツティ (著)	図書文化社	2018	1	¥4,070	ISBN-10: 4810076865 ISBN-13: 978-4810076868
41	フィンランドの教育はなぜ世界一なのか	岩竹 美加子 (著)	新潮社	2019	1	¥858	ISBN-10: 4106108178 ISBN-13: 978-4106108174
42	モンテッソーリ教育×ハーバード式 子どもの才能の伸ばし方	伊藤 美佳 (著)	かんき出版	2018	1	¥1,540	ISBN-10: 4761273623 ISBN-13: 978-4761273620
43	教育の方法と技術: 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン	稲垣 忠 (著, 編集), 市川 尚 (著), 小林 祐紀 (著)	北大路書房	2019	1	¥2,420	ISBN-10: 4762830607 ISBN-13: 978-4762830600
44	ハイパフォーマンスの科学—トップアスリートをめざすトレーニングガイド	野坂 和則 (監修), 沼澤 秀雄 (監修), David Joyce (編集)	ナッブ	2016	1	¥4,730	ISBN-10: 4905168457 ISBN-13: 978-4905168454
45	トップアスリートが実践している 最強の回復法	富家 孝 (著)	彩図社	2018	1	¥1,430	ISBN-10: 4801303293 ISBN-13: 978-4801303294
46	運動・からだ図解 スポーツトレーニングの基本と新理論	佐久間 和彦 (監修)	マイナビ出版	2017	1	¥1,738	ISBN-10: 4839964173 ISBN-13: 978-4839964177
47	アスレティック・ムーブメント・スキル—スポーツパフォーマンスのためのトレーニング	Clive Brewer (著), 広瀬 統一 (翻訳), 岡本 香織 (翻訳)	ナッブ	2018	1	¥4,730	ISBN-10: 4905168562 ISBN-13: 978-4905168560
48	瞬発カトレーニングアナトミー—プライオメトリックエクササイズで爆発的な力を引き出す—	デレク・ハンセン (著), スティーブ・ケネリー (著)	ガイアブックス	2018	1	¥2,860	ISBN-10: 486654001X ISBN-13: 978-4866540016
49	プライオメトリック・トレーニング	Donald A. Chu (著), Gregory D. Myer (著)	ナッブ	2016	1	¥3,520	ISBN-10: 4905168406 ISBN-13: 978-4905168409
50	誰も教えてくれなかったマラソンフォームの基本 遅く走り始めた人ほど大切な60のコツ	みやすのんき (著)	カンゼン	2017	1	¥1,650	ISBN-10: 4862554407 ISBN-13: 978-4862554406
51	筋肉をつくる食事・栄養パーフェクト事典	岡田隆 (監修), 竹並恵里 (監修)	ナツメ社	2018	1	¥1,760	ISBN-10: 481636417X ISBN-13: 978-4816364174
52	走り方で脳が変わる!	茂木 健一郎 (著)	講談社	2016	1	¥1,430	ISBN-10: 4062200589 ISBN-13: 978-4062200585
53	スポーツ栄養学: 科学の基礎から「なぜ?」にこたえる	寺田 新 (著)	東京大学出版会	2017	1	¥3,080	ISBN-10: 9784130527064 ISBN-13: 978-4130527064
54	1から学ぶスポーツ生理学【第2版】	中里 浩一 (著), 岡本 孝信 (著), 須永 美歌子 (著)	ナッブ	2016	1	¥2,530	ISBN-10: 4905168422 ISBN-13: 978-4905168423
55	身体と動きで学ぶスポーツ科学: 運動生理学とバイオメカニクスがパフォーマンスを変える	深代 千之 (著), 内海 良子 (著)	東京大学出版会	2018	1	¥3,080	ISBN-10: 4130537016 ISBN-13: 978-4130537018
56	ニューロメカニクス 身体運動の科学的基盤	ロジャー・M. エノーカ (著), Roger M. Enoka (原著)	西村書店	2017	1	¥6,050	ISBN-10: 4890134700 ISBN-13: 978-4890134700
57	理学療法のための 筋カトレーニングと運動学習～動作分析から始める根拠にもとづく運動療法	畠中 泰彦 (編集)	羊土社	2018	1	¥4,950	ISBN-10: 4758102376 ISBN-13: 978-4758102377
58	世界標準のスイングが身につく科学的ゴルフ上達法 (ブルーボックス)	板橋 繁	講談社	2019	1	¥1,320	ISBN-10: 4065152143 ISBN-13: 978-4065152140
59	ワググルゴルフブック ゴルフスイング物理学	小澤 康祐	実業之日本社	2018	1	¥1,078	ISBN-10: 4408337900 ISBN-13: 978-4408337906
60	東大ゴルフ部の教科書 ゴルフを分析する	井上 透	主婦の友社	2019	1	¥1,320	ISBN-10: 4074360748 ISBN-13: 978-4074360741

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
61	発達障害の子どもを伸ばすビジョントレーニング	小松佳弘	実務教育出版	2019	1	¥1,760	ISBN-10: 4788911000 ISBN-13: 978-4788911000
62	スポーツトレーニングの常識を超えろ!	日本トレーニング指導者協会	大修館書店	2016	1	¥2,200	ISBN-10: 4469268593 ISBN-13: 978-4469268591
63	完全図解 遊びリレーション大全集(介護ライブラリー)	三好 春樹(監修), 土居 新幸(著)	講談社	2017	1	¥3,850	ISBN-10: 4062824663 ISBN-13: 978-4062824668
64	頭のいい子が育つ あそび図鑑	久保田 競	主婦の友社	2017	1	¥2,530	ISBN-10: 4074268809 ISBN-13: 978-4074268801
65	福祉工学の基礎	伊福部 達	コロナ社	2016	1	¥4,510	ISBN-10: 4339018856 ISBN-13: 978-4339018851
66	労働環境病の提唱「生活習慣病」批判	細川 勝紀	第三書館	2019	1	¥1,100	ISBN-10: 4807419013 ISBN-13: 978-4807419012
67	弁護士専門研修講座 労働環境の多様化と法的対応 労働法の知識と実務III	東京弁護士会弁護士研修センター運営委員会	ぎょうせい	2016	1	¥7,718	ISBN-10: 4324100829 ISBN-13: 978-4324100820
68	就労移行支援・就労継続支援(A型・B型)事業所運営・管理ハンドブック	高橋 悠	日本法令	2019	1	¥2,970	ISBN-10: 4539726757 ISBN-13: 978-4539726754
69	障がい福祉事業の開業・手続き・運営のしかた	伊藤 誠	アニモ出版	2019	1	¥2,750	ISBN-10: 4897952239 ISBN-13: 978-4897952239
70	スポーツツーリズム・ハンドブック	高橋義雄(著), 原田宗彦(著), 岡星竜美	学芸出版社	2015	1	¥2,200	ISBN-10: 4761526025 ISBN-13: 978-4761526023
71	歌、楽器、ダンスが上達! リズム感が良くなる「体内メトロノーム」トレーニング(CD付)	長野 祐亮	リットーミュージック	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4845630486 ISBN-13: 978-4845630486
72	高齢者の体力および生活活動の測定と評価	出村 慎一(監修), 宮口 和義(編集), 佐藤 敏郎	市村出版	2015	1	¥2,860	ISBN-10: 4902109379 ISBN-13: 978-4902109375
73	メンタルヘルスを学ぶ 精神医学・内科学・心理学の視点から	村井 俊哉(著), 森本 恵子(著), 石井 信子(著)	ミネルヴァ書房	2015	1	¥2,640	ISBN-10: 4623072479 ISBN-13: 978-4623072477
74	新はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学	吉武 光世(著, 編集), 窪内 節子(著), 山崎 洋史(著), 岩瀧 大樹(著), 平澤 孝一(著)	学文社	2017	1	¥2,640	ISBN-10: 4762026980 ISBN-13: 978-4762026980
75	地域共生論: 300人規模のアクティブラーニング	賀県立大学地域共生論運営委員会(編集)	サンライズ出版	2017	1	¥1,100	ISBN-10: 4883256138 ISBN-13: 978-4883256136
76	「新しい社会保障教育」政策と地域共生社会	阿部敦	関西学院大学出版会	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 486283261X ISBN-13: 978-4862832610
77	共生社会システム論	矢口 芳生(著)	農林統計出版	2013	1	¥6,050	ISBN-10: 4897322464 ISBN-13: 978-4897322469
78	健康増進科学概論 -運動・栄養・休養- (イラスト)	今村 裕行, 沖嶋 今日太, 角南 良幸・他	東京教学者	2018	1	¥2,090	ISBN-10: 4808260247 ISBN-13: 978-4808260248
79	発達が気になる幼児の親面接: 支援者のためのガイドブック	井上 雅彦(著), 原口 英之(著), 石坂 美和(著)	金子書房	2019	1	¥4,054	ISBN-10: 4760832769 ISBN-13: 978-4760832767
80	保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック—子どもの行動を「ありのまま観る」ために	三田地 真実(著), 岡村 章司(著), 井上 雅彦(監修)	金剛出版	2019	1	¥2,860	ISBN-10: 4772416935 ISBN-13: 978-4772416931
81	イラストで学ぶ ヒューマンインタフェース 改訂第2版	北原 義典	講談社	2019	1	¥2,860	ISBN-10: 4065161436 ISBN-13: 978-4065161432
82	人間中心設計における評価 HCDライブラリー	黒須 正明(著), 樽本 徹也(著), 奥泉 直子(著)	近代科学社	2019	1	¥3,762	ISBN-10: 4764905884 ISBN-13: 978-4764905887
83	ケアとしての就労支援 こころの科学 メンタル系サイバールシリーズ	斎藤 環, 松本 俊彦, 井原 裕	日本評論社	2018	1	¥1,430	ISBN-10: 4535904472 ISBN-13: 978-4535904477
84	対人援助の現場で使える 聴く・伝える・共感する技術 便利帖(現場で使える便利帖)	大谷 佳子	翔泳社	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4798152552 ISBN-13: 978-4798152554
85	発達障害の僕が「食える人」に変わった すごい仕事術	借金玉	KADOKAWA	2018	1	¥1,540	ISBN-10: 4046020768 ISBN-13: 978-4046020765
86	発達障害グレーゾーン	姫野 桂, OMgray事務局	扶桑社	2018	1	¥902	ISBN-10: 4594081304 ISBN-13: 978-4594081300
87	私たちは生きづらさを抱えている 発達障害じゃない人に伝えたい当事者の本音	姫野桂, 五十嵐良雄(メディカルケア大手町 院長)	イースト・プレス	2018	1	¥1,650	ISBN-10: 478161700X ISBN-13: 978-4781617008
88	自閉症スペクトラムのある子を理解して育てる本	田中 哲・藤原里美	学研プラス	2016	1	¥1,650	ISBN-10: 4054064051 ISBN-13: 978-4054064058
89	ADHDのある子を理解して育てる本	田中 康雄	学研プラス	2016	1	¥1,650	ISBN-10: 405406406X ISBN-13: 978-4054064065
90	LD(学習障害)のある子を理解して育てる本	竹田 契一	学研プラス	2018	1	¥1,760	ISBN-10: 4058007753 ISBN-13: 978-4058007754

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
91	発達障害の子の遂行機能「何度言ったらわかるの?」を「できた!」に変える上手な伝え方	本多 和子	学研プラス	2018	1	¥1,540	ISBN-10: 4058009837 ISBN-13: 978-4058009833
92	その子、発達障害ではありません IN—Childの奇跡	韓 昌完	さくら舎	2019	1	¥1,650	ISBN-10: 4865811850 ISBN-13: 978-4865811858
93	子どもの発達障害と支援のしかたがわかる本	西永 堅	日本実業出版社	2017	1	¥1,650	ISBN-10: 4534054688 ISBN-13: 978-4534054685
94	「気がつきすぎて疲れる」が驚くほどなくなる「織細さん」の本	武田友紀	飛鳥新社	2018	1	¥1,324	ISBN-10: 4864106266 ISBN-13: 978-4864106269
95	保育者のための心の仕組みを知る本 ストレスを活かす心を守る	掛札 逸美	ぎょうせい	2017	1	¥1,650	ISBN-10: 4324103461 ISBN-13: 978-4324103463
96	住民による高齢者の見守り: ネットワークの展開と住民支援	野崎 瑞樹	みらい	2017	1	¥2,200	ISBN-10: 486015407X ISBN-13: 978-4860154073
97	最新版 図解 障害者総合支援法早わかりガイド	山内 一永	日本実業出版社	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 4534056281 ISBN-13: 978-4534056283
98	これならわかる 障害者総合支援法と支援サービスのしくみと手続き	若林 美佳	三修社	2019	1	¥1,980	ISBN-10: 4384048106 ISBN-13: 978-4384048100
99	目の見えないアスリートの身体論 なぜ視覚なしでプレイできるのか	伊藤亜紗	潮出版社	2016	1	¥902	ISBN-10: 4267020590 ISBN-13: 978-4267020599
100	五訂版 視覚障害教育に携わる方のために	香川 邦生(著, 編集), 猪平 眞理(著), 大内 進(著)	慶應義塾大学出版会	2016	1	¥3,300	ISBN-10: 4766423674 ISBN-13: 978-4766423679
101	視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える	猪平 眞理	慶應義塾大学出版会	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 4766424972 ISBN-13: 978-4766424973
102	「参加の力」が創る共生社会: 市民の共感・主体性をどう醸成するか	早瀬 昇	ミネルヴァ書房	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 4623083381 ISBN-13: 978-4623083381
103	地域福祉とファンドレイジング	宮城 孝, 長谷川 真司, 久津摩 和弘	中央法規出版	2018	1	¥2,750	ISBN-10: 4805857129 ISBN-13: 978-4805857120
104	これならわかる<スッキリ図解>共生型サービス	二本柳 覚, 中川 亮, 安藤 浩樹	翔泳社	2018	1	¥2,420	ISBN-10: 4798158631 ISBN-13: 978-4798158631
105	小さな拠点を軸とする共生型地域づくり	田中 きよむ	晃洋書房	2018	1	¥3,080	ISBN-10: 4771029555 ISBN-13: 978-4771029552
106	SDGsとまちづくり: 持続可能な地域と学びづくり	田中 治彦, 枝廣 淳子他	学文社	2019	1	¥3,300	ISBN-10: 4762028711 ISBN-13: 978-4762028717
107	ようこそ、認知症カフェへ: 未来をつくる地域包括ケアのかたち	武地 一	ミネルヴァ書房	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4623080250 ISBN-13: 978-4623080250
108	就労支援で高齢者の社会的孤立を防ぐ: 社会参加の促進とQOLの向上	藤原佳典, 南 潮	ミネルヴァ書房	2016	1	¥4,950	ISBN-10: 4623077454 ISBN-13: 978-4623077458
109	何歳まで働くべきか? (ジェロントロジー・ライブラリー—高齢期の就業と健康)	藤原 佳典 小池 高史	社会保険出版社	2016	1	¥1,100	ISBN-10: 4784602992 ISBN-13: 978-4784602995
110	高齢社会のアクションリサーチ: 新たなコミュニティ創りをめざして	JST社会技術研究開発センター, 秋山 弘子	東京大学出版会	2015	1	¥3,080	ISBN-10: 4130624121 ISBN-13: 978-4130624121
111	高齢者の社会的孤立と地域福祉——計量的アプローチによる測定・評価・予防策	斉藤 雅茂	明石書店	2018	1	¥3,960	ISBN-10: 4750346543 ISBN-13: 978-4750346540
112	社会関係資本の地域分析	埴淵 知哉(編集)	ナカニシヤ出版	2018	1	¥3,300	ISBN-10: 4779512417 ISBN-13: 978-4779512414
113	地域におけるひきこもり支援ガイドブック—長期高齢化による生活困窮を防ぐ	境 泉洋	金剛出版	2017	1	¥3,520	ISBN-10: 4772415823 ISBN-13: 978-4772415828
114	青年のひきこもり・その後—包括的アセスメントと支援の方法論	近藤 直司	岩崎学術出版社	2017	1	¥3,080	ISBN-10: 4753311295 ISBN-13: 978-4753311293
115	精神障害のある人の就労定着支援: 当事者の希望から生まれた技法	天野 聖子, 多摩棕櫚亭協会	中央法規出版	2019	1	¥2,420	ISBN-10: 4805858923 ISBN-13: 978-4805858929
116	障がい者の就活ガイド	紺野大輝	左右社	2016	1	¥1,980	ISBN-10: 4865281665 ISBN-13: 978-4865281668
117	精神障害者雇用のABC	山口 創生	星和書店	2018	1	¥2,530	ISBN-10: 4791109805 ISBN-13: 978-4791109807
118	改訂版 障害者雇用の実務と就労支援 —「合理的配慮」のアプローチ	眞保 智子	日本法令	2019	1	¥2,090	ISBN-10: 4539726404 ISBN-13: 978-4539726402
119	これで福祉と就労支援がわかる	結城 康博, 嘉山 隆司, 内藤 晃	書籍工房早山	2016	1	¥2,200	ISBN-10: 490470147X ISBN-13: 978-4904701478
120	発達障害の人の「就労支援」がわかる本 (健康ライブラリー)	梅永 雄二	講談社	2019	1	¥1,430	ISBN-10: 4065149843 ISBN-13: 978-4065149843

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
121	発達障害の人の「私たちの就活」: 発達障害者の自立・就労を支援する本3	宮尾益知, 発達障害者の自立・就労を支援する会	河出書房新社	2018	1	¥1,430	ISBN-10: 4309248764 ISBN-13: 978-4309248769
122	発達障害と仕事	宮尾益知, 発達障害者の自立・就労を支援する会	河出書房新社	2018	1	¥1,430	ISBN-10: 9784309248585 ISBN-13: 978-4309248585
123	発達障害の人が就職したくなる会社: 発達障害者の自立・就労を支援する本2	宮尾益知, 発達障害者の自立・就労を支援する会	河出書房新社	2018	1	¥1,430	ISBN-10: 4309248675 ISBN-13: 978-4309248677
124	睡眠障害の子どもたち: 子どもの脳と体を育てる睡眠学(子どものこころの発達を知るシリーズ)	大川 匡子	合同出版	2015	1	¥1,650	ISBN-10: 4772611487 ISBN-13: 978-4772611480
125	非行と反抗がおさえられない子どもたち: 生物・心理・社会モデルから見る素行症・反抗挑発症の子へのアプローチ(子どものこころの発達を知るシリーズ)	富田 拓	合同出版	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4772611517 ISBN-13: 978-4772611510
126	ワーキングメモリを生かす効果的な学習支援(学研のヒューマンケアブックス)	湯澤 正通, 湯澤 美紀	学研プラス	2017	1	¥2,200	ISBN-10: 4058007737 ISBN-13: 978-4058007730
127	知的・発達障害者の就労自立支援(特別支援教育ONEテーマブック)	高原 浩	学事出版	2017	1	¥1,760	ISBN-10: 4761923539 ISBN-13: 978-4761923532
128	動物介在教育「動物介在教育アシスタントコース」応用編/馬介在教育	青木 博史, 北川健史ほか	NPO法人 動物介在教育・療法学会	2019	1	¥3,300	ASIN: B07RLHNQGR
129	動物介在教育「動物介在教育アシスタントコース」基礎編(動物介在教育指導者養成講座)	柿沼 美紀, 鹿野 正顕ほか	特定非営利活動法人 動物介在教育・療法学会	2014	1	¥17,111	ASIN: B00TWZNL4
130	感覚統合を活かして子どもを伸ばす!「音楽療法」苦手に寄り添う楽しい音楽活動	柿崎 次子ほか	明治図書出版	2016	1	¥2,266	ISBN-10: 4182115120 ISBN-13: 978-4182115127
131	音楽とリズムと特別支援教育	斎藤一雄	東洋館出版社	2018	1	¥5,491	ISBN-10: 4491035636 ISBN-13: 978-4491035635
132	音楽療法はどれだけ有効か—科学的根拠を検証する	佐藤正之	化学同人	2017	1	¥1,760	ISBN-10: 4759816747 ISBN-13: 978-4759816747
133	音楽と脳科学: 音楽の脳内過程の理解をめざして	S. ケルシュほか	北大路書房	2016	1	¥5,500	ISBN-10: 4762829293 ISBN-13: 978-4762829291
134	訪問看護ステーションの災害対策 第2版 マニュアルの作成と活用	一般社団法人全国訪問看護事業協会	日本看護協会出版会	2019	1	¥3,300	ISBN-10: 4818021776 ISBN-13: 978-4818021778
135	多職種連携で支える災害医療: 身につけるべき知識・スキル・対応力	小井土雄一	医学書院	2017	1	¥2,970	ISBN-10: 4260028049 ISBN-13: 978-4260028042
136	DMAT標準テキスト	日本集団災害医学会	へるす出版	2015	1	¥5,720	ISBN-10: 4892698598 ISBN-13: 978-4892698590
137	エマージェンシー・ケア 2018年3月号(第31巻3号)特集: もしにも備える! お役立ちマニュアル すぐに動ける災害医療のこれだけは!		メディカ出版	2018	1	¥3,486	ISBN-10: 4840462852 ISBN-13: 978-4840462853
138	災害看護: 心得ておきたい基本的な知識	小原真理子	南山堂	2019	1	¥3,080	ISBN-10: 4525502533 ISBN-13: 978-4525502539
139	災害支援ハンドブック: 宗教者の実践とその協働	宗教者災害支援連絡会	春秋社	2016	1	¥2,200	ISBN-10: 439320901X ISBN-13: 978-4393209011
140	災害に立ち向かう人づくり: 減災社会構築と被災地復興の礎	室崎益輝	ミネルヴァ書房	2018	1	¥3,850	ISBN-10: 4623082415 ISBN-13: 978-4623082414
141	災害と復興の社会学	立木茂雄	萌書房	2016	1	¥3,300	ISBN-10: 4860651014 ISBN-13: 978-4860651015
142	マーケティングリサーチとデータ分析の基本	中野崇	すばる舎	2018	1	¥1,870	ISBN-10: 4799106945 ISBN-13: 978-4799106945
143	デジタル時代の基礎知識『リサーチ』多彩なデータから顧客の「すべて」を知る新しいルール	石渡佑矢	翔泳社	2017	1	¥1,848	ISBN-10: 4798154067 ISBN-13: 978-4798154060
144	デジタル時代の基礎知識『マーケティング』「顧客ファースト」の時代を生き抜く新しいルール	逸見光二郎	翔泳社	2017	1	¥1,518	ISBN-10: 4798154040 ISBN-13: 978-4798154046
145	デジタルマーケティングの実務ガイド	井上大輔	株式会社宣伝会議	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 488335430X ISBN-13: 978-4883354306
146	デジタルマーケティングの教科書	牧田幸裕	東洋経済新報社	2017	1	¥2,200	ISBN-10: 4492557792 ISBN-13: 978-4492557792
147	世界最先端のマーケティング 顧客とつながる企業のチャネルシフト戦略	奥谷孝司	日経BP	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 4822255581 ISBN-13: 978-4822255589
148	マーケティング・リサーチ入門	星野崇宏	有斐閣	2018	1	¥2,750	ISBN-10: 4641221162 ISBN-13: 978-4641221161
149	消費者行動の実証研究	守口 剛ほか	中央経済社	2018	1	¥2,860	ISBN-10: 4502282618 ISBN-13: 978-4502282614
150	消費者理解に基づくマーケティング -- 感覚マーケティングと消費者情報消化モデル	須永努	有斐閣	2018	1	¥4,180	ISBN-10: 4641165319 ISBN-13: 978-4641165311

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
151	なぜ「戦略」で差がつくのか。—戦略思考でマーケティングは強くなる	音部大輔	宣伝会議	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4883353982 ISBN-13: 978-4883353989
152	コラーのマーケティング4.0 スマートフォン時代の究極法則	フィリップ・コラー	朝日新聞出版	2017	1	¥2,640	ISBN-10: 4023316156 ISBN-13: 978-4023316157
153	企業の成長戦略が10時間でわかる本——起業・MBA(経営学)・IPO(株式公開)のエッセンスを同時に学べる	木嶋豊	あさ出版	2017	1	¥1,760	ASIN: B06WLGHWJ4
154	シニア向けノルディックウォーキング・ポールウォーキングGUIDE BOOK 超高齢社会のウォーキング・イノベーションの知識と技	ノルディックウォーキング・ポールウォーキ	ライフ出版社	2015	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4990399689
155	コーディネーター必携 シニアボランティアハンドブック	藤原佳典	大修館書店	2016	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4469267938
156	地域包括ケアと福祉改革	二木 立	勁草書房	2017	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4326700981
157	多職種連携から統合へ向かう地域包括ケア	宮下 公美子	メディカ出版	2017	1	¥2,420	ISBN-13: 978-4840461597
158	地域包括ケアと医療・ソーシャルワーク	二木 立	勁草書房	2019	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4326701070
159	ケアするまちのデザイン:対話で探る超長寿時代のまちづくり	山崎 亮	医学書院	2019	1	¥2,200	ISBN-13: 978-4260036009
160	住民主体の楽しい「通いの場」づくり「地域づくりによる介護予防」進め方ガイド	近藤 克則	日本看護協会出版会	2019	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4818021877
161	社協・行政協働型コミュニティソーシャルワーク	田中 英樹	中央法規出版	2019	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4805858660
162	共生の社会学	岡本 智周	太郎次郎社エディタス	2016	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4811807928
163	共生社会論の展開	福留 和彦	晃洋書房	2017	1	¥5,060	ISBN-13: 978-4771028722
164	ADHDとともに生きる人たちに: 医療からみた「生きづらさ」と支援	田中 康雄	金子書房	2019	1	¥1,870	ISBN-13: 978-4760821822
165	多元的共生社会が未来を開く	尾関 周二	農林統計出版	2015	1	¥2,200	ISBN-13: 978-4897323305
166	共生社会(1)—共生社会とは何か	矢口 芳生	農林統計出版	2016	1	¥3,819	ISBN-13: 978-4897323497
167	共生社会(2)—共生社会をつくる	矢口 芳生	農林統計出版	2016	1	¥3,850	ISBN-13: 978-4897323503
168	地方創生大全	木下 斉	東洋経済新報社	2016	1	¥1,650	ISBN-13: 978-4492212257
169	持続可能な地域のつくり方	寛裕介	英治出版	2019	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4862762511
170	ビジネスモデル・ナビゲーター	オリヴァー・ガスマン	翔泳社	2016	1	¥2,420	ISBN-10: 4798146889 ISBN-13: 978-4798146881
171	ビジネスモデル・ナビゲーター 55パターンカード	オリヴァー・ガスマン	翔泳社	2016	1	¥16,500	ISBN-10: 4798150290 ISBN-13: 978-4798150291
172	基礎からはじめる職場のメンタルヘルス—事例で学ぶ考え方と実践ポイント	川上憲人	大修館書店	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4469268240 ISBN-13: 978-4469268249
173	3訂版 精神科産業医が明かす 職場のメンタルヘルスの正しい知識	松崎一葉	日本法令	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 4539725939 ISBN-13: 978-4539725931
174	「職場のメンタルヘルス」を強化する——ストレスに強い組織をつくり、競争優位を目指す	吉野聡	ダイヤモンド社	2016	1	¥1,760	ISBN-10: 4478068216 ISBN-13: 978-4478068212
175	心療内科産業医と向き合う職場のメンタルヘルス不調 事例で解説 会社と社員が最適解を導く方法	石澤哲郎	第一法規株式会社	2017	1	¥2,530	ISBN-10: 4474058828 ISBN-13: 978-4474058828
176	メンタル不調者のための復職・セルフケアガイドブック	櫻澤博文	金剛出版	2016	1	¥1,980	ISBN-10: 4772415203 ISBN-13: 978-4772415200
177	ストレスチェック面接医のための「メンタル産業医」入門 改訂第2版(働き方改革関連法対応)★電子版付き	櫻澤博文	日本医事新報社	2018	1	¥4,400	ISBN-10: 4784945571 ISBN-13: 978-4784945573
178	文献選集 近代の親子問題 第1期: 親子関係と子育ての変容	広井多鶴子ほか	日本図書センター	2016	1	¥131,389	ISBN-10: 4284308165 ISBN-13: 978-4284308168
179	アスペルガー症候群の人の就労・職場定着ガイドブック—適切なニーズアセスメントによるコーチング	バーバラ・ピソネット	明石書店	2016	1	¥2,420	ISBN-10: 4750343889 ISBN-13: 978-4750343884
180	障害者雇用の実務 法令理解から定着支援、戦略化まで	労務行政研究所	労務行政	2016	1	¥4,015	ISBN-10: 4845263513 ISBN-13: 978-4845263516

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
181	発達障害児を救う体育指導—激変! 感覚統合スキル95	根本正雄	学芸みらい社	2017	1	¥2,530	ISBN-10: 4908637563 ISBN-13: 978-4908637568
182	子どものための精神医学	滝川一廣	医学書院	2017	1	¥2,750	ISBN-10: 426003037X ISBN-13: 978-4260030373
183	地域活性のための産官学ベストプラクティス 連携による地域イノベーション	事業構想大学院大学 出版部(編)	宣伝会議	2018	1	¥1,650	ISBN-13: 978-4883354399
184	DMO 観光地経営のイノベーション	高橋 一夫	学芸出版社	2017	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4761526467
185	広報コミュニケーション基礎	社会情報大学院大学(編)	宣伝会議	2016	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4883353750
186	地域の見方を変えると福祉実践が変わる	松端克文	ミネルヴァ書房	2018	1	¥3,300	ISBN-13: 978-4623083190
187	地域再生と地域福祉	牧里 每治	相川書房	2017	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4750103945
188	持続可能な地域福祉のデザイン	牧里每治	ミネルヴァ書房	2016	1	¥7,150	ISBN-13: 978-4623078608
189	現代の産業・企業と地域経済—持続可能な発展の追究	大西 勝明	晃洋書房	2018	1	¥3,190	ISBN-13: 978-4771029750
190	地域産業のイノベーションシステム	山崎 朗,	学芸出版社	2019	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4761526962
191	孤立不安社会	石田 光規	勁草書房	2018	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4326654185
192	自治と協働からみた現代コミュニティ論	小山弘美	晃洋書房	2018	1	¥3,190	ISBN-13: 978-4771029774
193	地域共生の開発福祉	日本福祉大学アジア福祉社会開発研究センター	ミネルヴァ書房	2017	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4623080076
194	再生可能エネルギーによる地域づくり	白井信雄	環境新聞社	2018	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4860183493
195	介護福祉学概論 地域包括ケアの構築に向けて	松田 美知子	クリエイツかもがわ	2018	1	¥2,420	ISBN-13: 978-4863422353
196	介護施設運営・管理ハンドブック	鳥羽 稔	日本法令	2016	1	¥4,729	ISBN-13: 978-4539724583
197	誰も教えてくれなかった胸部画像の見かた・考えかた	小林弘明(著)	医学書院	2017	1	¥5,500	ISBN-13: 978-4260030083
198	腹部CTの読み方がわかる! ~研修医が今すぐ知りたい、よく遭遇する疾患の“基本的な読影方法”をわかりやすく教えます!	藪田 実(編集)	羊土社	2019	1	¥2,200	ISBN-13: 978-4758116282
199	理学療法のための 筋カトレーニングと運動学習~動作分析から始める根拠にもとづく運動療法	畠中 泰彦(編)	羊土社	2018	1	¥4,950	ISBN-13: 978-4758102377
200	臨床動作分析—PT・OTの実践に役立つ理論と技術	富田 昌夫(編), 竹中 弘行(編), 玉垣 努(編)	三輪書店	2018	1	¥6,600	ISBN-13: 978-4895906265
	合計				200	¥689,581	

研究の方法に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
1	研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」	近藤 克則 (著)	医学書院	2018	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4260036740
2	リサーチの技法	ウェイン・C・ブース (著), グレゴリー・G・コロンブ (著), ジョセフ・M・ウィリアムズ (著)	ソシム	2018	1	¥2,860	ISBN-13: 978-4802611527
3	もしあなたが臨床研究を学んだら医療現場はもつとときめく	福間 真悟 (著), 渡部 一宏 (著), 福原 俊一 (監修)	じほう	2019	1	¥3,960	ISBN-13: 978-4840751506
4	メディカルスタッフのためのひと目で選ぶ統計手法〜「目的」と「データの種類」で簡単検索! 適した手法が76の事例から見つかる、結果がまとめられる	山田 実 (編集), 浅井 剛 (その他), 土井 剛彦 (その他)	羊土社	2018	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4758102285
5	いまだ誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ 第1巻 まずは統計アレルギーを克服しよう! (Dr.あさいのこっそりマスターシリーズ)	浅井 隆 (著)	アトムス	2010	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4904307243
6	いまだ誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ 第2巻 結果の解釈ができるようになるう! (Dr.あさいのこっそりマスターシリーズ)	浅井 隆 (著), 浅井 隆 (編)	アトムス	2010	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4904307281
7	いまだ誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ 第3巻 研究の質を評価できるようになるう! (Dr.あさいのこっそりマスターシリーズ)	浅井 隆 (著)	アトムス	2010	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4904307304
8	臨床研究の教科書: 研究デザインとデータ処理のポイント	川村 孝 (著)	医学書院	2016	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4260024976
9	臨床研究の道標 第2版(上巻)	福原俊一 (著)	特定非営利活動法人健康医療評価研究機構	2017	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4903803265
10	臨床研究の道標 第2版(下巻)	福原俊一 (著)	特定非営利活動法人健康医療評価研究機構	2017	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4903803272
11	リサーチ・クエスチョンの作り方 第3版(臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト)	福原俊一 (著)	特定非営利活動法人健康医療評価研究機構	2015	1	¥2,200	ISBN-13: 978-4903803241
12	概念モデルをつくる(臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト)(シリーズ:臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト)	松村 真司 (著), 福原 俊一 (監修, 監修)	NPO法人健康医療評価研究機構	2008	1	¥2,420	ISBN-13: 978-4903803043
13	サンプルサイズ的设计(臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト)	山口拓洋 (著), 福原俊一 (監修), 大西良浩 (その他)	特定非営利活動法人健康医療評価研究機構	2010	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4903803159
14	臨床研究立ち上げから英語論文発表まで最速最短で行うための極意(すべての臨床医に捧ぐ超現場重視の臨床研究指南書)	原 正彦 (著)	金芳堂	2017	1	¥3,960	ISBN-13: 978-4765317344
15	必ずアクセプトされる医学英語論文 完全攻略50の鉄則	康永 秀生 (著)	金原出版	2016	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4307004787
16	できる臨床研究 最短攻略50の鉄則	康永秀生 (著)	金原出版	2017	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4307004824
17	実践対談編 臨床研究立ち上げから英語論文発表まで最速最短で行うための極意(すべての臨床医そして指導医にも捧ぐ超現場型の臨床研究体験書)	原 正彦 (編集)	金芳堂	2018	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4765317542
18	なぜあなたは論文が書けないのか?	佐藤 雅昭 (著)	メディカルレビュー社	2016	1	¥2,530	ISBN-13: 978-4779217241
19	なぜあなたの研究は進まないのか?	佐藤 雅昭 (著)	メディカルレビュー社	2016	1	¥2,530	ISBN-13: 978-4779217258
20	なぜあなたの発表は伝わらないのか? できてるつもり! ?そこが危ないプレゼンテーション	佐藤 雅昭 (著)	メディカルレビュー社	2017	1	¥2,530	ISBN-13: 978-4779219313
21	できる研究者の論文作成メソッド 書き上げるための実践ポイント	ポール・J・シルヴィア (著), 高橋 さきの (翻訳)	講談社	2016	1	¥2,200	ISBN-13: 978-4061556270
22	できる研究者の論文生産術 どうすれば「たくさん」書けるのか	ポール・J・シルヴィア (著), 高橋 さきの (翻訳)	講談社	2015	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4061531536
23	実践 研究計画作成法 情報収集からプレゼンテーションまで	独立行政法人日本学生支援機構 (著)	凡人社	2009	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4893586933
24	合格ナビ! 研究計画書の書き方	千島 昭宏 (著), 野林 靖夫 (監修), 進研アカデミーグラデュエイト大学部 (編集)	東京図書	2016	1	¥2,860	ISBN-13: 978-4489022326
25	SPSSによる分散分析と多重比較の手順	石村 貞夫 (著), 石村 光資郎 (著)	東京図書	2015	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489022043
26	SPSSによる多変量データ解析の手順	石村 貞夫 (著), 石村 光資郎 (著)	東京図書	2016	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489022425
27	SPSSによる統計処理の手順 第8版	石村 貞夫 (著), 石村 光資郎 (著)	東京図書	2018	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489022784
28	SPSSによるアンケート調査のための統計処理	石村 貞夫 (著), 石村 光資郎 (著)	東京図書	2018	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489022814
29	SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順	石村 貞夫 (著), 劉 晨 (著, 原著), 石村 友二郎 (著), 加藤 千恵子 (著)	東京図書	2013	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489021442
30	SPSS完全活用法 データの入力と加工	酒井 麻衣子 (著)	東京図書	2016	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489022470

研究の方法に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
31	医療系データのとり方・まとめ方—SPSSで学ぶ実験計画法と分散分析	対馬栄輝(著), 石田水里(著)	東京図書	2013	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4489021435
32	日常診療で臨床疑問に出会ったとき何をすべきかがわかる本	片岡 裕貴(著)	中外医学社	2019	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4498014084
33	論文を正しく読むのはけっこう難しい: 診療に活かせる解釈のキホンとピットフォール	植田真一郎(著)	医学書院	2018	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4260035873
34	読む技術 論文の価値を見抜くための基礎知識	トリーシャ・グリーンハーフ(著), 日経メディカル(編)	日経BP	2016	1	¥4,400	ISBN-13: 978-4822200886
35	あなたの臨床研究応援します～医療統計につながる正しい研究デザイン, 観察研究の効果的なデータ解析	新谷 歩(著)	羊土社	2019	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4758118514
36	査読者が教える 医学論文のための研究デザインと統計解析	森本 剛(著)	中山書店	2017	1	¥3,300	ISBN-13: 978-4521745084
37	査読者が教える 採用される医学論文の書き方	森本 剛(著)	中山書店	2013	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4521737010
38	雑誌編集長が欲しがる!! 医学論文の書き方	浅井 隆(著)	アトムス	2016	1	¥3,960	ISBN-13: 978-4904307786
39	脱・しくじりプレゼン: 言いたいことを言うと伝わらない!	八幡紘芦史(著, 編集), 竹本文美(著), 田中雅美(著), 福内史子(著)	医学書院	2018	1	¥2,860	ISBN-13: 978-4260031912
40	研究発表のためのスライドデザイン	宮野 公樹(著)	講談社	2013	1	¥990	ISBN-13: 978-4062578134
41	学生・研究者のための 使える! PowerPointスライドデザイン 伝えるプレゼン1つの原理と3つの技術	宮野 公樹(著)	化学同人	2009	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4759811759
42	学生・研究者のための伝わる! 学会ポスターのデザイン術	宮野 公樹(著)	化学同人	2011	1	¥2,090	ISBN-13: 978-4759814699
43	「伝わるデザイン」PowerPoint 資料作成術	渡辺 克之(著)	ソーテック社	2016	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4800711458
44	一生使える 見やすい資料のデザイン入門	森重 湧太(著)	インプレス	2016	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4844339632
45	一生使えるプレゼン上手の資料作成入門	岸 啓介(著)	インプレス	2017	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4295000693
	合計				45	¥137,280	

理学療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
1	理学療法研究の進めかた—基礎から学ぶ研究のすべて	森山 英樹 (編集)	文光堂	2014	1	¥7,843	ISBN-13: 978-4830645044
2	臨床の“疑問”を“研究”に変える 臨床研究 first stage	網本 和 (著)	医学書院	2017	1	¥3,300	ISBN-13: 978-4260032278
3	運動療法エビデンスレビュー (臨床・研究に役立つ評価指標・基準値・介入のエビデンスをこの一冊に凝縮)	松永篤彦 (編集), 神谷健太郎 (編集)	文光堂	2018	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4830645655
4	PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実験から教えます	土井 剛彦 (著), 浅井 剛 (著), 山田 実 (その他)	羊土社	2016	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4758102162
5	エビデンスに基づく骨盤底の理学療法 原著第2版 科学と臨床をつなぐ	野村昌良 (翻訳), 鈴木重行 (翻訳)	医歯薬出版	2017	1	¥14,300	ISBN-13: 978-4263216743
6	エビデンスから身につける物理療法	庄本康治 (編集)	羊土社	2017	1	¥5,720	ISBN-13: 978-4758102216
7	実践的なQ&Aによるエビデンスに基づく理学療法 第2版—評価と治療指標を総まとめ	内山 靖 (編集)	医歯薬出版	2015	1	¥8,250	ISBN-13: 978-4263216736
8	神経症候障害学—病態とエビデンスに基づく治療と理学療法	内山 靖 (編集)	文光堂	2016	1	¥11,260	ISBN-13: 978-4830645365
9	ここで差がつく“背景疾患別”理学療法Q&A	高橋 哲也 (著)	医学書院	2016	1	¥2,970	ISBN-13: 978-4260027960
10	臨床思考”が身につく 運動療法Q&A	高橋 哲也 (著)	医学書院	2016	1	¥2,970	ISBN-13: 978-4260027953
11	すぐできる!!リハビリテーション統計—データのみかたから検定・多変量解析まで	下井俊典 (著), 勝平純司 (著)	南江堂	2012	1	¥3,646	ISBN-13: 978-4524268184
12	脊柱理学療法マネジメント—病態に基づき機能障害の原因を探るための臨床思考を紐解く	成田 崇矢 (編集)	メジカルビュー社	2019	1	¥6,160	ISBN-13: 978-4758319133
13	股関節理学療法マネジメント—機能障害の原因を探るための臨床思考を紐解く	永井 聡 (編集), 対馬 栄輝 (編集)	メジカルビュー社	2018	1	¥6,160	ISBN-13: 978-4758319102
14	膝関節理学療法マネジメント—機能障害の原因を探るための臨床思考を紐解く	石井 慎一郎 (監修), 森口 晃一 (編集)	メジカルビュー社	2018	1	¥6,050	ISBN-13: 978-4758319119
15	人の生きた筋膜の構造(DVD付き) 内視鏡検査を通して示される細胞外マトリックスと細胞	Jean-Claude GUIMBERTEAU (著), Colin ARMSTRONG (著), 竹井仁 (翻訳)	医道の日本社	2018	1	¥10,780	ISBN-13: 978-4752931249
16	筋膜系の機能解剖アトラス	Carla Stecco (著), 竹井 仁 (翻訳)	医歯薬出版	2018	1	¥1,430	ISBN-13: 978-4263265567
17	人体の張力ネットワーク 膜・筋膜—最新知見と治療アプローチ	Robert Schleip (著), 竹井 仁 (翻訳)	医歯薬出版	2015	1	¥11,000	ISBN-13: 978-4263215401
18	脳卒中理学療法の理論と技術 第3版	原 寛美 (編集), 吉尾 雅春 (編集)	メジカルビュー社	2019	1	¥7,150	ISBN-13: 978-4758319362
19	脳卒中片麻痺者に対する 歩行リハビリテーション	阿部 浩明 (編集), 大畑 光司 (編集)	メジカルビュー社	2016	1	¥6,050	ISBN-13: 978-4758317115
20	歩行再建—歩行の理解とトレーニング	大畑 光司 (著)	三輪書店	2017	1	¥4,400	ISBN-13: 978-4895905992
21	ペリー歩行分析原著第2版正常歩行と異常歩行	Jacquelin Perry (著), 武田 功 (翻訳), 弓岡 光徳 (翻訳)	医歯薬出版	2012	1	¥9,900	ISBN-13: 978-4263213988
22	筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版	Donald A. Neumann (著), P.D. Andrew (翻訳), 有馬慶美 (翻訳), 日高正巳 (翻訳)	医歯薬出版	2018	1	¥13,750	ISBN-13: 978-4263265819
23	歩行再建を目指す下肢装具を用いた理学療法	阿部浩明 (編集)	文光堂	2019	1	¥5,500	ISBN-13: 978-4830645730
24	身体性システムとリハビリテーションの科学1 運動制御	太田 順 (編集), 内藤 栄一 (編集), 芳賀 信彦 (編集)	東京大学出版会	2018	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4130644013
25	身体性システムとリハビリテーションの科学2 身体認知	近藤 敏之 (編集), 今水 寛 (編集), 森岡 周 (編集)	東京大学出版会	2018	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4130644020
26	腰痛—エビデンスに基づく予防とリハビリテーション	Stuart McGill (著), 小山 貴之 (翻訳), 玉置 龍也 (翻訳)	ナッブ	2017	1	¥6,600	ISBN-13: 978-4905168478
27	骨盤と仙腸関節の機能解剖—骨盤帯を整えるリアラインアプローチ	John Gibbons (著), 赤坂清和 (監修)	医道の日本社	2019	1	¥5,280	ISBN-13: 978-4752911623
28	目醒める! 大腰筋 コアを鍛えて内面から身心を改善	ジョアン・スタウガード ジョーンズ (著), 武田 淳也 (監修)	医道の日本社	2016	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4752931133
29	強める! 殿筋 殿筋から身体全体へアプローチ	John Gibbons (著), 木場 克己 (監修)	医道の日本社	2017	1	¥3,960	ISBN-13: 978-4752931195
30	スポーツと運動の筋膜	Robert Schleip (著), 竹内 京子 (監修, 翻訳)	ラウンドフラット	2019	1	¥7,480	ISBN-13: 978-4904613481
31	ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学 第2版	高橋 哲也 (編集)	医歯薬出版	2017	1	¥5,280	ISBN-13: 978-4263218129
32	キネティックコントロール 制御されていない動きのマネジメント Kinetic Control The Management of Uncontrolled Movement	Mark Comerford (著), Sarah Mottram (著), 佐藤 晃一 (翻訳)	ブックハウス・エイチディ	2017	1	¥13,200	ISBN-13: 978-4909011008

理学療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
33	身体運動学—関節の制御機構と筋機能	市橋 則明(編集)	メジカルビュー社	2017	1	¥7,480	ISBN-13: 978-4758317122
34	ヒトの動き百話—スポーツの視点からリハビリテーションの視点まで	小田 伸午(編集), 市橋 則明(編集)	市村出版	2011	1	¥3,204	ISBN-13: 978-4902109269
35	脳百話—動きの仕組みを解き明かす	松村 道一(編集), 小田 伸午(編集), 石原 昭彦(編集)	市村出版	2003	1	¥1,540	ISBN-13: 978-4902109023
36	胸郭運動システムの再建法 第2版-呼吸運動再構築理論に基づく評価と治療 Web動画付	柿崎 藤泰(編集)	ヒューマン・プレス	2017	1	¥6,600	ISBN-13: 978-4908933066
37	関節可動域制限—病態の理解と治療の考え方	沖田 実(編集)	三輪書店	2013	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4895904353
38	ペインリハビリテーション入門	沖田 実(著), 松原 貴子(著)	三輪書店	2019	1	¥3,850	ISBN-13: 978-4895906340
39	デルモニューロモジュレーティング日本語版第2版	ダイアン・ジェイコブス(著), 岩吉 新(翻訳)	NextPublishing Authors Press	2018	1	¥6,926	ISBN-13: 978-4802095198
40	慢性痛のサイエンス: 脳からみた痛みの機序と治療戦略	半場 道子(著)	医学書院	2017	1	¥3,740	ISBN-13: 978-4260034289
	合計				40	¥245,949	

作業療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
1	行動変容を導く! 上肢機能回復アプローチ 脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略	道免 和久(監修), 竹林 崇(編集)	医学書院	2017	1	¥4,400	ISBN-13: 978-4260024143
2	上肢運動障害の作業療法-麻痺手に対する作業運動学と作業治療学の実際	竹林 崇(著)	文光堂	2018	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4830645716
3	片麻痺回復のための運動療法 第3版 促通反復療法「川平法」の理論と実際	川平 和美(著), 下堂 蘭 恵(著), 野間 知一(著)	医学書院	2017	1	¥6,820	ISBN-13: 978-4260022163
4	上肢痙縮に対するボツリヌス治療とリハビリテーション	安保 雅博(著, 編集), 角田 亘(著, 編集)	金原出版	2012	1	¥7,335	ISBN-13: 978-4307750295
5	脳卒中後遺症に対するrTMS治療とリハビリテーション	安保 雅博(著, 編集), 角田 亘(著, 編集)	金原出版	2013	1	¥5,060	ISBN-13: 978-4307750370
6	高次脳機能障害のリハビリテーション [DVD付] 第3版: 実践的アプローチ	本田 哲三(著)	医学書院	2016	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4260024778
7	高次脳機能障害学第2版	石合 純夫(著)	医歯薬出版	2012	1	¥4,840	ISBN-13: 978-4263213964
8	リハビリテーションのための脳・神経科学入門	森岡 周(著)	協同医書出版社	2016	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4763910790
9	カンデル神経科学	金澤一郎(監修), 宮下保司(監修), Eric R. Kandel(編集)	メディカルサイエンスインターナショナル	2014	1	¥15,400	ISBN-13: 978-4895927710
10	行為と動作の障害	一般社団法人日本高次脳機能障害学会 教育・研修委員会(編集)	新興医学出版社	2018	1	¥4,290	ISBN-13: 978-4880028729
11	注意と意欲の神経機構	日本高次脳機能障害学会 教育・研修委員会(編集)	新興医学出版社	2014	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4880028507
12	精神障害と作業療法【新版】病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践	山根 寛(著)	三輪書店	2017	1	¥4,400	ISBN-13: 978-4895905831
13	精神科作業療法の理論と技術	早坂 友成(編集)	メジカルビュー社	2018	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4758319256
14	ひとと作業・作業活動 作業の知をとき技を育む 新版	山根 寛(著)	三輪書店	2015	1	¥3,850	ISBN-13: 978-4895905046
15	ひとと集団・場【新版】治療や援助、支援における場と集団のもち方	山根 寛(著)	三輪書店	2018	1	¥3,850	ISBN-13: 978-4895906159
16	キールホフナーの人間作業モデル-理論と応用- 改訂第5版	Renée R. Taylor(著, 編集), 山田 孝(翻訳), 石井 良和(翻訳)	協同医書出版社	2019	1	¥9,350	ISBN-13: 978-4763921444
17	作業療法実践の理論 原書第4版	ギャーリー キールホフナー(著), Gary Kielhofner(原著), 山田 孝(翻訳)	医学書院	2014	1	¥5,170	ISBN-13: 978-4260019750
18	作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド	吉川 ひろみ(著)	医学書院	2008	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4260007481
19	作業療法がわかる COPM・AMPS実践ガイド	吉川 ひろみ(著), 齋藤 さわ子(著)	医学書院	2014	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4260020138
20	川モデル 文化に適した作業療法	Michael K. Iwama(著), 松原 麻子(翻訳), 清水 一(翻訳), 宮口 英樹(翻訳)	三輪書店	2014	1	¥5,280	ISBN-13: 978-4895904803
21	作業療法とドライブマネジメント	藤田佳男(編集), 澤田辰徳(編集)	文光堂	2018	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4830645709
22	脳卒中・脳外傷者のための自動車運転 第2版	林 泰史(監修), 米本 恭三(監修), 武原 格(編集), 一杉 正仁(編集)	三輪書店	2016	1	¥3,740	ISBN-13: 978-4895905787
23	ハンドセラピー(リハ実践テクニック)	齋藤 慶一郎(編さん)	メジカルビュー社	2014	1	¥6,050	ISBN-13: 978-4758314732
24	臨床ハンドセラピー	坪田 貞子(編集)	文光堂	2011	1	¥9,167	ISBN-13: 978-4830643866
25	手を診る力をきたえる	鎌倉 矩子(著), 中田 眞由美(著)	三輪書店	2013	1	¥5,280	ISBN-13: 978-4895904483
26	上肢運動器疾患の画像リハビリテーション—評価・戦略・アプローチのすべて	射場浩介(監修), 白戸力弥(編集)	ヒューマン・プレス	2018	1	¥5,280	ISBN-13: 978-4908933158
27	手の運動を学ぶ—手の役割と手の機能解剖との関係から運動を紐解き、臨床に活かす	矢崎 潔(著), 小森 健司(著), 田口 真哉(著)	三輪書店	2017	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4895906036
28	認知症トータルケア(日本医師会生涯教育シリーズ)	栗田 圭一(編)	日本医師会	2018	1	¥6,050	ISBN-13: 978-4758317795
29	認知症と生きる(放送大学教材)	井出 訓(著)	放送大学教育振興会	2015	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4595315510

作業療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
30	ぜんぶわかる認知症の事典—4大認知症をわかりやすくビジュアル解説	富本 秀和(編集), 松田 博史(編集), 羽生 春夫(編集), 吉田 眞理(編集)	医学書院	2018	1	¥9,900	ISBN-13: 978-4260032315
31	認知症テキストブック 単行本	日本認知症学会(編集), 日本痴呆学会(編集)	中外医学社	2008	1	¥8,360	ISBN-13: 978-4498129269
32	よくわかる地域包括ケア(やわらかアカデミズム・わかる)シリーズ 単行本	隅田好美(編集), 藤井博志(編集), 黒田研二(編集)	ミネルヴァ書房	2018	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4623082933
33	プライマリ・ケア-地域医療の方法- 単行本	松岡史彦(著), 小林只(著)	メディカルサイエンス社	2012	1	¥4,730	ISBN-13: 978-4903843247
34	在宅医療カレッジ: 地域共生社会を支える多職種の学び21講 単行本 - 2018/12/17	佐々木 淳(編集)	医学書院	2018	1	¥2,200	ISBN-13: 9784260038232
35	地域包括ケアと福祉改革 単行本	二木 立(著)	勁草書房	2017	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4326700981
36	地域包括ケアと地域医療連携 単行本	二木 立(著)	勁草書房	2015	1	¥2,970	ISBN-13: 978-4326700875
37	楽に動ける福祉用具の使い方 第2版 多職種協働による環境整備	窪田 静(編集), 栄 健一郎(編集), 樋口 由美(編集)	日本看護協会出版会; 第2版	2019	1	¥2,860	ISBN-13: 978-4818021792
38	高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン2019	日本老年医学会(編集), 日本在宅医学会(編集), 国立長寿医療研究センター(編集)	ライフ・サイエンス	2019	1	¥1,100	ISBN-13: 978-4898016534
39	ひとりひとりの福祉用具 -福祉用具支援概論- 単行本	市川 冽(著)	日本工業出版	2019	1	¥3,850	ISBN-13: 978-4819031127
40	摂食嚥下リハビリテーション第3版 単行本	才藤 栄一(監修), 植田 耕一郎(監修), 出江 紳一(編集), 鎌倉 やよい(編集)	医歯薬出版; A4変型版	2016	1	¥8,360	ISBN-13: 978-4263444474
41	姿勢から介入する摂食嚥下 脳卒中患者のリハビリテーション 単行本	森若 文雄(監修), 内田 学(編集)	メジカルビュー社	2017	1	¥4,950	ISBN-13: 978-4758319041
42	発達障害グレーゾーン(扶桑社新書)新書	姫野 桂(著), OMgray事務局(著)	扶桑社	2018	1	¥902	ISBN-13: 978-4594081300
43	おとなの軽度発達障害—こども時代をふりかえり自分をいかすためのヒント(埼玉医科大学超人気健康セミナーシリーズ)	横山富士男(著), 吉益晴夫(著)	ライフサイエンス出版	2018	1	¥1,650	ISBN-13: 978-4897753768
44	発達性トラウマ障害と複雑性PTSDの治療 単行本	杉山 登志郎(著)	誠信書房	2019	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4414416503
45	自我状態療法—理論と実践 単行本	ジョン・G・ワトキンス(著), ヘレン・H・ワトキンス(著), 福井 義一(翻訳), 福島 裕人(翻訳)	金剛出版	2019	1	¥5,940	ISBN-13: 978-4772416795
46	自閉症児のためのTEACCHハンドブック(ヒューマンケアブックス) 単行本	佐々木 正美(著)	学研プラス; 改訂新版	2008	1	¥2,420	ISBN-13: 978-4054031531
47	感覚統合とその実践 第2版 単行本	Anita C. Bundy(著), Elizabeth A. Murray(著), Shelly J. Lane(著), 土田 玲子(翻訳), 小西 紀一(翻訳)	協同医書出版社	2006	1	¥9,350	ISBN-13: 978-4763921147
48	子どもの感覚運動機能の発達と支援—発達の科学と理論を支援に活かす 単行本	大城 昌平(編集), 儀間 裕貴(編集)	メジカルビュー社	2018	1	¥5,720	ISBN-13: 978-4758319003
	合計				48	¥238,724	

理学療法学科 履修モデル1 ヘルスプロモーションに関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次						
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1																
		コミュニケーション論	1																
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					ヘルスプロモーションに関連する就職先 地方自治体（健康教室・高齢者サロン）、 健康増進施設、企業の健康推進室、 健康関連企業など					
		倫理学入門	1	音楽	1														
		哲学入門	1	体育	1														
		日本の伝統文化	1																
		日本の近代史	1																
	自然科学系科目	生物学	1	物理学Ⅱ	1			統計学	1										
		物理学Ⅰ	1																
		数学	1																
	語学教育科目	英語Ⅰ	1	英語Ⅱ	1			韓国語	1										
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学Ⅱ	1	運動学実習	1	予防医学	1								
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	運動生理学実習	1	地域包括ケア論	1								
		リハビリテーション概論	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	救急援助論	1										
				運動学Ⅰ	1	整形外科Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1										
				人間発達学	1	小児科学	1	神経内科学Ⅱ	1										
				精神医学	1	老年医学	1	整形外科Ⅱ	1										
				薬理学概論	1	画像診断学	1	社会福祉学	1										
						栄養学	1												
	職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	1	基礎理学療法実習Ⅰ	1	理学療法評価学実習	2	画像評価学	1	基礎理学療法研究法	1	徒手理学療法実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅱ	6	理学療法管理学	1		
		基礎理学療法Ⅱ	1	基礎理学療法実習Ⅱ	1	運動療法学	1	運動療法学実習	1	臨床技能論実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	6	理学療法地域実習	1	保健医療福祉関連制度論	1		
		理学療法見学実習Ⅰ	1	理学療法評価学	1	物理療法学	1	義肢装具学Ⅱ	1	理学療法評価学演習	1					内部障害応用論実習	2		
				理学療法見学実習Ⅱ	1	日常生活活動学	1	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	1	徒手理学療法	1					スポーツ障害応用論実習	2		
						義肢装具学Ⅰ	1	小児期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅰ	1								
						理学療法見学実習Ⅲ	1	老年期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅱ	1								
								スポーツ障害系理学療法実習	1	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	1								
								地域理学療法	1	内部障害系理学療法実習Ⅰ	1								
										内部障害系理学療法実習Ⅱ	1								
										地域理学療法実習	1								
										理学療法評価実習	4								
		展開科目	生涯スポーツ論	1	ボランティア論	1	子育て支援論	1			地域共生論	2	マーケティング論	1	障がい者スポーツ論実習	1			
					労働衛生論	1	災害支援論	1					施設起業運営論	1					
					教育支援論	1					障がい者スポーツ論	1							
											体力測定論	1							
											健康増進実践演習	1							
											健康増進実践実習	1							
											遊びとレクリエーション	1							
											生きがい創造	2							
総合科目																			
各期合計単位	1年前期	20	1年後期	20	2年前期	19	2年後期	18	3年前期	18	3年後期	19	4年前期	8	4年後期	9			
4年間合計単位		131																	

卒業に必要な選択科目

理学療法学科 履修モデル2 生涯スポーツに関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1															
		コミュニケーション論	1															
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1		キャリア発達論	1										生涯スポーツに関連する就職先 地方自治体・教育機関（部活指導）、 体育協会、スポーツクラブ、フィットネスクラブ、 スポーツ・健康・食・ファッション関連企業など
		倫理学入門	1	音楽	1													
		哲学入門	1	体育	1													
		社会学	1															
		日本の伝統文化	1															
	自然科学系科目	生物学	1	物理学Ⅱ	1		統計学	1										
		物理学Ⅰ	1	英語Ⅱ	1		中国語	1										
		数学	1															
語学教育科目	英語Ⅰ	1																
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学Ⅱ	1	運動学実習	1	予防医学	1							
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	運動生理学実習	1	地域包括ケア論	1							
		リハビリテーション概論	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	救急援助論	1									
				運動学Ⅰ	1	整形外科Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1									
				人間発達学	1	小児科学	1	神経内科学Ⅱ	1									
				精神医学	1	老年医学	1	整形外科Ⅱ	1									
				薬理学概論	1	画像診断学	1	社会福祉学	1									
	職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	1	基礎理学療法実習Ⅰ	1	理学療法評価学実習	2	画像評価学	1	基礎理学療法研究法	1	徒手理学療法実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅱ	6	理学療法管理学	1	
		基礎理学療法Ⅱ	1	基礎理学療法実習Ⅱ	1	運動療法学	1	運動療法学実習	1	臨床技能論実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	6	理学療法地域実習	1	保健医療福祉関連制度論	1	
		理学療法見学実習Ⅰ	1	理学療法評価学	1	物理療法学	1	義肢装具学Ⅱ	1	理学療法評価学演習	1					スポーツ障害応用論実習	2	
				理学療法見学実習Ⅱ	1	日常生活活動学	1	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	1	徒手理学療法	1					神経筋骨格障害応用論実習	2	
						義肢装具学Ⅰ	1	小児期理学療法学演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅰ	1							
						理学療法見学実習Ⅲ	1	老年期理学療法学演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								スポーツ障害系理学療法実習	1	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								地域理学療法学	1	内部障害系理学療法実習Ⅰ	1							
展開科目	生涯スポーツ論	1	ボランティア論	1	子育て支援論	1			地域共生論	2	マーケティング論	1	障がい者スポーツ論実習	1				
			労働衛生論	1	災害支援論	1					施設起業運営論	1						
					教育支援論	1					障がい者スポーツ論	1						
											フィットネス論	2						
											ランニングトレーニング論	2						
											ゴルフトレーニング論	2						
総合科目																		
各期合計単位	1年前期	21	1年後期	20	2年前期	18	2年後期	18	3年前期	18	3年後期	19	4年前期	8	4年後期	9		
4年間合計単位		131																

 卒業に必要な選択科目

理学療法学科 履修モデル3 生活工学に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1															
		コミュニケーション論	1															
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					生活工学に関連する就職先 就労支援事業所（作業所）、放課後等デイサービス、 グループホーム、特別支援学校、 リハビリ機器開発企業、福祉機器メーカーなど				
		倫理学入門	1	音楽	1													
		哲学入門	1	体育	1													
		社会学	1															
		日本の伝統文化	1															
	自然科学系科目	生物学	1	物理学Ⅱ	1			統計学	1									
		物理学Ⅰ	1															
		数学	1															
語学教育科目	英語Ⅰ	1					韓国語	1										
							中国語	1										
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学Ⅱ	1	運動学実習	1	予防医学	1							
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	運動生理学実習	1	地域包括ケア論	1							
		リハビリテーション概論	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	救急援助論	1									
				運動学Ⅰ	1	整形外科Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1									
				人間発達学	1	小児科学	1	神経内科学Ⅱ	1									
				精神医学	1	老年医学	1	整形外科Ⅱ	1									
				薬理学概論	1	画像診断学	1	社会福祉学	1									
						栄養学	1											
	職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	1	基礎理学療法実習Ⅰ	1	理学療法評価学実習	2	画像評価学	1	基礎理学療法研究法	1	徒手理学療法実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅱ	6	理学療法管理学	1	
		基礎理学療法Ⅱ	1	基礎理学療法実習Ⅱ	1	運動療法学	1	運動療法学実習	1	臨床技能論実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	6	理学療法地域実習	1	保健医療福祉関連制度論	1	
		理学療法見学実習Ⅰ	1	理学療法評価学	1	物理療法学	1	義肢装具学Ⅱ	1	理学療法評価学演習	1					神経筋骨格障害応用論実習	2	
				理学療法見学実習Ⅱ	1	日常生活活動学	1	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	1	徒手理学療法	1					内部障害応用論実習	2	
						義肢装具学Ⅰ	1	小児期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅰ	1							
						理学療法見学実習Ⅲ	1	老年期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								スポーツ障害系理学療法実習	1	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								地域理学療法	1	内部障害系理学療法実習Ⅰ	1							
										内部障害系理学療法実習Ⅱ	1							
										地域理学療法実習	1							
										理学療法評価実習	4							
		展開科目	生涯スポーツ論	1	ボランティア論	1	子育て支援論	1			地域共生論	2	マーケティング論	1	障がい者スポーツ論実習	1		
			労働衛生論	1	災害支援論	1					施設起業運営論	1						
					教育支援論	1					障がい者スポーツ論	1						
											福祉工学地域活用論	1						
											ロボット工学地域活用論基礎	1						
											ロボット工学地域活用論応用	2						
総合科目																		
各期合計単位	1年前期	20	1年後期	19	2年前期	19	2年後期	19	3年前期	18	3年後期	19	4年前期	8	4年後期	9		
4年間合計単位		131																

卒業に必要な選択科目

作業療法学科 履修モデル1 児童期に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次						
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1																
		コミュニケーション論	1																
	人間と社会系科目	教育学	1	音楽	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					児童期に関連する就職先 保育園、小学校、特別支援学校、 学童保育、放課後等デイサービスなど					
		倫理学入門	1	心理学	1														
		哲学入門	1	体育	1														
		社会学	1																
		日本の伝統文化	1																
	自然科学系科目	生物学	1					統計学	1										
		物理学I	1																
		数学	1																
	語学教育科目	英語I	1	英語II	1			韓国語	1										
								中国語	1										
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学I	2	解剖学II	2	運動学実習	1	救急援助論	1	予防医学	1								
		生理学I	2	解剖学III	1	内科学I	1	内科学II	1										
		運動学I	1	生理学II	2	神経内科学I	1	神経内科学II	1										
		リハビリテーション概論	1	運動学II	1	整形外科I	1	整形外科II	1										
				人間発達学	1	精神医学	1	社会福祉学	1										
				薬理学概論	1	小児科学	1	地域包括ケア論	1										
						老年医学	1												
						画像診断学	1												
						栄養学	1												
	職業実践科目群	作業療法学総論	1	基礎作業学実習II	1	身体障害作業療法評価学実習I	1	身体障害作業療法基礎技術論	1	作業療法研究法	1	作業療法総合臨床実習I	7	作業療法総合臨床実習II	7				
		基礎作業学	1	作業療法管理・制度論	1	身体障害作業療法評価学実習II	1	運動器疾患作業療法学実習	1	高次脳機能障害作業療法学実習	1			作業療法地域実習	1				
		基礎作業学実習I	1	作業療法と倫理	1	精神障害作業療法評価学実習	1	中枢神経疾患作業療法学実習	1	精神障害作業療法学実習	1								
				作業療法評価学総論	1	発達障害作業療法評価学実習	1	精神障害作業療法学	1	発達障害作業療法学実習II	1								
				作業療法見学実習I	1	日常生活活動論実習	1	発達障害作業療法学実習I	1	老年期障害作業療法学実習	1								
						社会生活行為論実習	1	老年期障害作業療法学	1	家族援助論	1								
						地域生活作業療法学総論	1	作業分析活用論	1	住環境支援論	1								
						作業療法見学実習II	1	作業分析活用論実習	1	生活行為向上マネジメント論実習	1								
								作業療法義肢装具実習	1	地域生活作業療法学実習III	1								
								地域生活作業療法学実習I	1	作業療法評価実習	5								
								地域生活作業療法学実習II	1										
展開科目	ボランティア論	1	災害支援論	1	子育て支援論	1	マーケティング論	1	施設起業運営論	1	障がい者スポーツ論	1	障害者スポーツ論実習	1					
	地域社会共生論	2	地域社会共生論実習	1	メンタルヘルスマネジメント論	1	教育支援論	1			精神障がい者就労環境論	2	就労環境論実習	1					
											身体障がい者就労環境論	2	児童期地域生活適応論実習	1					
											児童期地域生活適応論	2							
総合科目																作業療法総合実習I	1		
																作業療法総合実習II	1		
																協働連携論総合実習	2		
各期合計単位	1年前期	23	1年後期	19	2年前期	20	2年後期	23	3年前期	16	3年後期	14	4年前期	11	4年後期	4			
4年間合計単位		130																	

卒業に必要な選択科目

作業療法学科 履修モデル2 成人期に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1															
		コミュニケーション論	1															
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					成人期に関連する就職先 就労移行支援事業所、特例子会社、 生活訓練施設、グループホームなど				
		倫理学入門	1	体育	1													
		哲学入門	1															
		社会学	1															
		日本の伝統文化	1															
		日本の近代史	1															
	自然科学系科目	生物学	1				統計学	1										
		物理学 I	1															
		数学	1															
	語学教育科目	英語 I	1	英語 II	1		韓国語	1										
						中国語	1											
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学 I	2	解剖学 II	2	運動学実習	1	救急援助論	1	予防医学	1							
		生理学 I	2	解剖学 III	1	内科学 I	1	内科学 II	1									
		運動学 I	1	生理学 II	2	神経内科学 I	1	神経内科学 II	1									
		リハビリテーション概論	1	運動学 II	1	整形外科 I	1	整形外科 II	1									
				人間発達学	1	精神医学	1	社会福祉学	1									
				薬理学概論	1	小児科学	1	地域包括ケア論	1									
						老年医学	1											
						画像診断学	1											
	職業実践科目群	作業療法学総論	1	基礎作業学実習 II	1	身体障害作業療法評価学実習 I	1	身体障害作業療法基礎技術論	1	作業療法研究法	1	作業療法総合臨床実習 I	7	作業療法総合臨床実習 II	7			
		基礎作業学	1	作業療法管理・制度論	1	身体障害作業療法評価学実習 II	1	運動器疾患作業療法実習	1	高次脳機能障害作業療法実習	1			作業療法地域実習	1			
		基礎作業学実習 I	1	作業療法と倫理	1	精神障害作業療法評価学実習	1	中枢神経疾患作業療法実習	1	精神障害作業療法実習	1							
				作業療法評価学総論	1	発達障害作業療法評価学実習	1	精神障害作業療法	1	発達障害作業療法実習 II	1							
				作業療法見学実習 I	1	日常生活活動論実習	1	発達障害作業療法実習 I	1	老年期障害作業療法実習	1							
						社会生活行為論実習	1	老年期障害作業療法	1	家族援助論	1							
						地域生活作業療法学総論	1	作業分析活用論	1	住環境支援論	1							
						作業療法見学実習 II	1	作業分析活用論実習	1	生活行為向上マネジメント論実習	1							
								作業療法義肢装具実習	1	地域生活作業療法実習 III	1							
								地域生活作業療法実習 I	1	作業療法評価実習	5							
								地域生活作業療法実習 II	1									
		展開科目	ボランティア論	1	災害支援論	1	子育て支援論	1	マーケティング論	1	施設起業運営論	1	障がい者スポーツ論	1	障害者スポーツ論実習	1		
			地域社会共生論	2	地域社会共生論実習	1	メンタルヘルスマネジメント論	1	教育支援論	1			精神障がい者就労環境論	2	就労環境論実習	1		
										身体障がい者就労環境論	2	成人期地域生活適応論実習	1					
										成人期地域生活適応論	2							
総合科目														作業療法総合実習 I	1			
														作業療法総合実習 II	1			
														協働連携論総合実習	2			
各期合計単位	1年前期	24	1年後期	18	2年前期	20	2年後期	23	3年前期	16	3年後期	14	4年前期	11	4年後期	4		
4年間合計単位		130																

卒業に必要な選択科目

作業療法学科 履修モデル3 老年期に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次						
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1																
		コミュニケーション論	1																
	人間と社会系科目	教育学	1	音楽	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					老年期に関連する就職先 通所介護施設、特別養護老人ホーム、 サービス付き高齢者住宅、 有料老人ホームなど					
		倫理学入門	1	心理学	1														
		社会学	1	体育	1														
		日本の伝統文化	1																
		日本の近代史	1																
	自然科学系科目	生物学	1					統計学	1										
		物理学Ⅰ	1																
		数学	1																
	語学教育科目	英語Ⅰ	1	英語Ⅱ	1			韓国語	1										
								中国語	1										
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学実習	1	救急援助論	1	予防医学	1								
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1										
		運動学Ⅰ	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	神経内科学Ⅱ	1										
		リハビリテーション概論	1	運動学Ⅱ	1	整形外科Ⅰ	1	整形外科Ⅱ	1										
				人間発達学	1	精神医学	1	社会福祉学	1										
				薬理学概論	1	小児科学	1	地域包括ケア論	1										
						老年医学	1												
						画像診断学	1												
						栄養学	1												
	職業実践科目群	作業療法学総論	1	基礎作業学実習Ⅱ	1	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	1	身体障害作業療法基礎技術論	1	作業療法研究法	1	作業療法総合臨床実習Ⅰ	7	作業療法総合臨床実習Ⅱ	7				
		基礎作業学	1	作業療法管理・制度論	1	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	1	運動器疾患作業療法学実習	1	高次脳機能障害作業療法学実習	1			作業療法地域実習	1				
		基礎作業学実習Ⅰ	1	作業療法と倫理	1	精神障害作業療法評価学実習	1	中枢神経疾患作業療法学実習	1	精神障害作業療法学実習	1								
				作業療法評価学総論	1	発達障害作業療法評価学実習	1	精神障害作業療法学	1	発達障害作業療法学実習Ⅱ	1								
				作業療法見学実習Ⅰ	1	日常生活活動論実習	1	発達障害作業療法学実習Ⅰ	1	老年期障害作業療法学実習	1								
						社会生活行為論実習	1	老年期障害作業療法学	1	家族援助論	1								
						地域生活作業療法学総論	1	作業分析活用論	1	住環境支援論	1								
						作業療法見学実習Ⅱ	1	作業分析活用論実習	1	生活行為向上マネジメント論実習	1								
								作業療法義肢装具実習	1	地域生活作業療法学実習Ⅲ	1								
								地域生活作業療法学実習Ⅰ	1	作業療法評価実習	5								
								地域生活作業療法学実習Ⅱ	1										
展開科目	ボランティア論	1	災害支援論	1	子育て支援論	1	マーケティング論	1	施設起業運営論	1	障がい者スポーツ論	1	障害者スポーツ論実習	1					
	地域社会共生論	2	地域社会共生論実習	1	メンタルヘルスマネジメント論	1	教育支援論	1			精神障がい者就労環境論	2	就労環境論実習	1					
											身体障がい者就労環境論	2	老年期地域生活適応論実習	1					
総合科目																作業療法総合実習Ⅰ	1		
																作業療法総合実習Ⅱ	1		
																協働連携論総合実習	2		
各期合計単位	1年前期	23	1年後期	19	2年前期	20	2年後期	23	3年前期	16	3年後期	14	4年前期	11	4年後期	4			
4年間合計単位		##																	

 卒業に必要な選択科目